

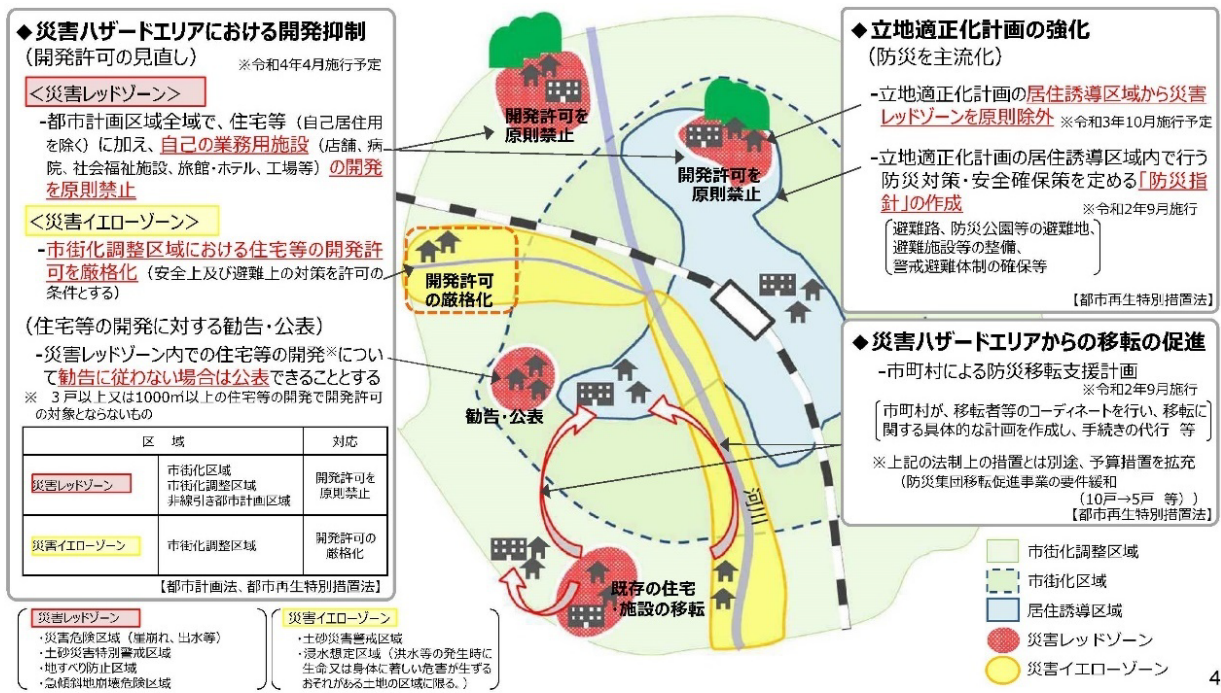
犬山市立地適正化計画 防災指針（案）

（1）防災指針について

防災指針は、居住や都市機能の誘導を図る上で必要となる都市の防災に関する機能の確保を図るための指針であり、当該指針に基づく具体的な取組と併せて立地適正化計画に定めるものです。

様々な災害のうち、洪水、雨水出水等による浸水エリアは広範囲に及び、既に市街地が形成されていることも多いことから、この範囲を居住誘導区域から全て除くことは現実的に困難であることも想定され、また、地震については、影響範囲や程度を即地的に定め、居住誘導区域から除外を行うことに限界もあります。このため、居住誘導区域における災害リスクをできる限り回避あるいは低減させるため、必要な防災・減災対策を計画的に実施していくことが求められます。

このため、立地適正化計画においては、災害リスクを踏まえた課題を抽出し、都市の防災に関する機能の確保のため、防災指針を定めるとともに、この方針に基づく具体的な取り組みを位置付けることとされています。（都市計画運用指針）

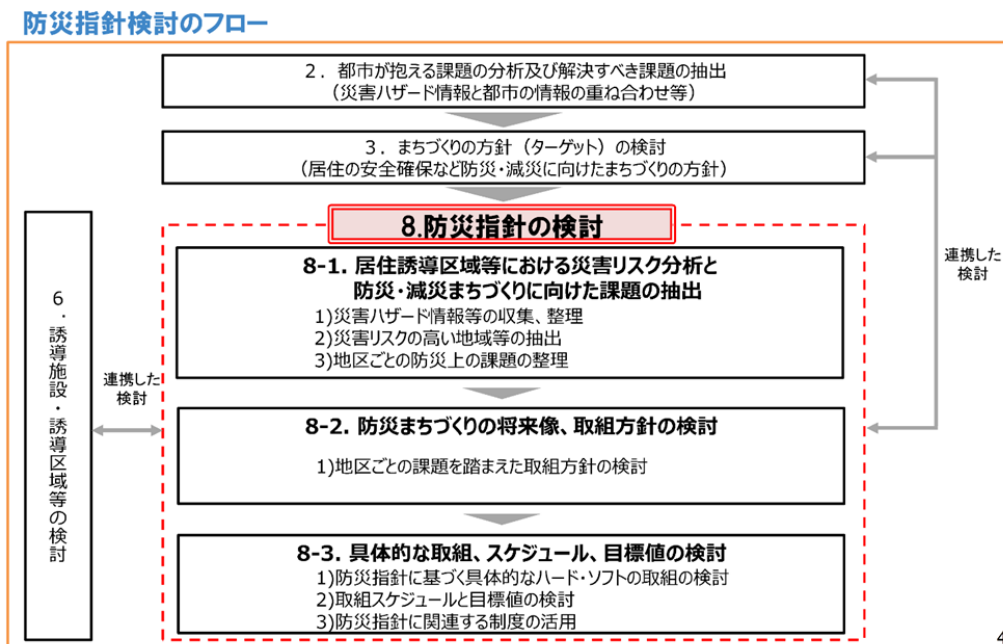


■図 激甚化・頻発化する自然災害に対応した「安全なまちづくり」のイメージ

出典：国土交通省「安全なまちづくり」・「魅力的なまちづくり」の推進のための都市再生特別措置法等の改正について」

(2) 検討フロー

本計画の防災指針は、国土交通省の「立地適正化計画作成の手引き」（令和4年4月改訂）に示された防災指針検討のフローを基本に整理します。



■図 防災指針検討フロー

出典：国土交通省「立地適正化作成の手引き（R4）」

(3) 災害リスクの分析

① 犬山市における災害ハザード情報の整理

本市において主に想定される災害リスクは、大雨による浸水や丘陵部における土砂災害等であり、それらの災害ハザード情報を以下のとおり整理します。なお、地震による津波、台風による高潮といった災害リスクは、本市の地理的条件により想定されません。

種別	災害ハザード	諸条件
水災害	洪水浸水想定区域	計画規模（L1）、最大想定規模（L2）
	家屋倒壊等氾濫想定区域	最大想定規模
	内水ハザードマップ	最大想定規模
	入鹿池浸水想定区域	堤体の決壊
土砂災害	土砂災害警戒区域	法指定区域
	土砂災害特別警戒区域	法指定区域
	急傾斜地崩壊危険区域	法指定区域
地震災害	震度分布	過去地震最大モデル
	液状化危険度	過去地震最大モデル

水災害…洪水浸水想定区域

洪水浸水想定区域とは、大雨によって河川の流量が異常に増加することで起こる河川の氾濫や堤防の決壊等による浸水が発生する危険性が高い区域を示したもので、水防法の指定河川である木曾川の洪水浸水想定区域のほか、東海豪雨を契機に市町村による洪水ハザードマップの作成を支援するため、水防法の指定区間外（上流部や支川）についても浸水リスク情報として愛知県により「浸水予想図」が公表されています。

この洪水浸水想定区域図は【計画規模：L1】、【想定最大規模：L2】の降雨での浸水を想定しています。

計画規模降雨：L1
各河川の洪水に関する整備計画の基本となる降雨の発生を想定したもので、公表時点の各河川の河道及び洪水調節施設の整備状況を勘案してシミュレーションされています。
1年間に発生する確率が1/30（新川流域：376 mm/24h）、1/50（郷瀬川流域 312 mm/24h）、1/200（木曾川流域 295 mm/48h）以下の降雨による洪水で浸水が想定される範囲になります。
想定最大規模降雨：L2
想定する河川等における降雨だけでなく、近隣の河川等における降雨が当該河川等でも同じように発生すると考え、それぞれの地域において観測された最大の降雨量により設定することを基本としています。
1年間に発生する確率が1/1000以下の降雨による洪水で浸水が想定される範囲になります。 （木曾川流域 527 mm/48h、郷瀬川流域 790 mm/24h、新川流域：751 mm/24h）
<参考>東海豪雨（2000年）：567 mm/48h（時間最大雨量 93mm）（名古屋）

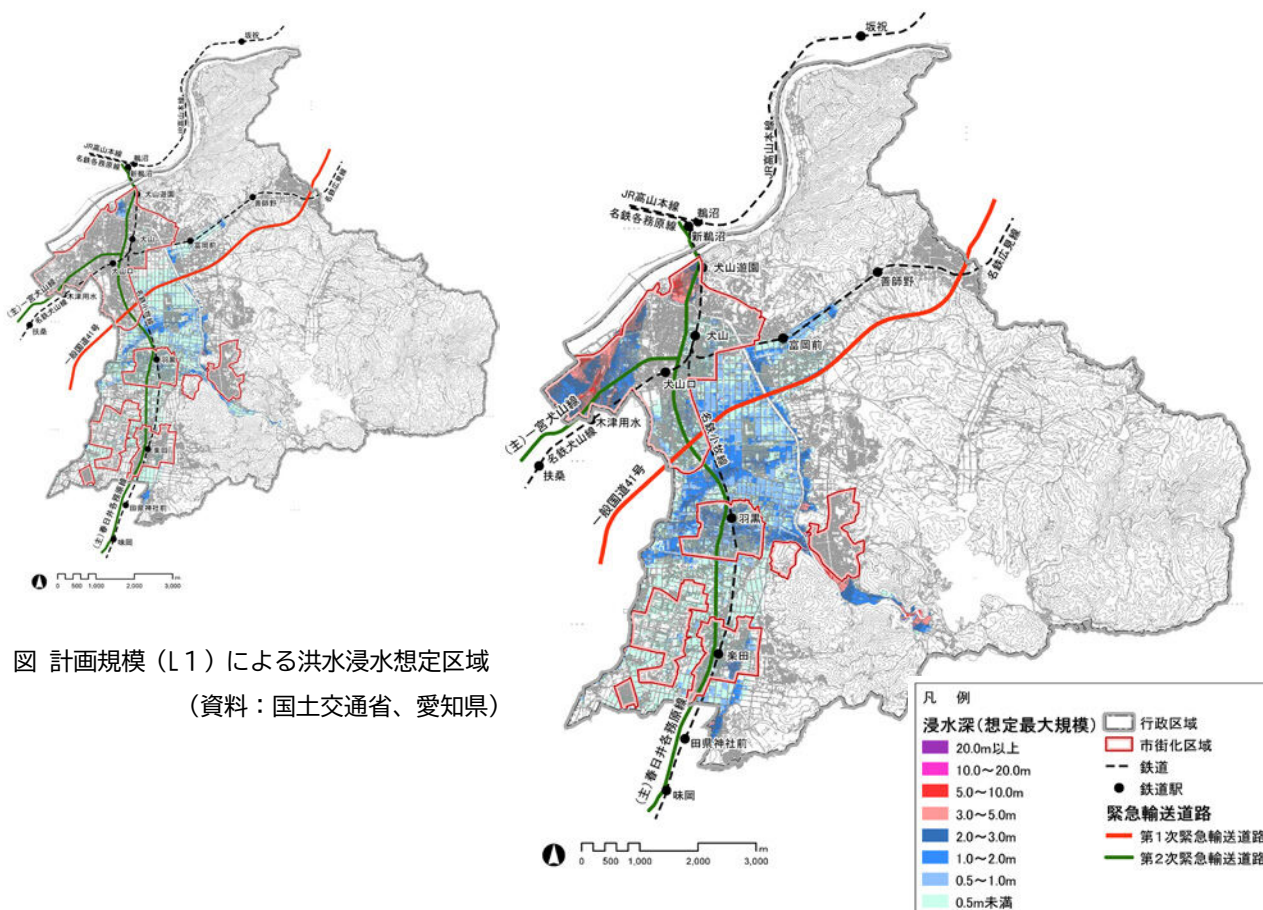


図 計画規模 (L1) による洪水浸水想定区域
(資料：国土交通省、愛知県)

図 想定最大規模 (L2) による洪水浸水想定区域 (資料：国土交通省、愛知県)

水災害…家屋倒壊等氾濫想定区域

家屋倒壊等氾濫想定区域とは、洪水時に家屋の倒壊・流出をもたらすような、堤防決壊に伴う激しい氾濫流や河岸浸食が発生する危険性が高い区域を示すものです。

この区域では、屋内での退避（垂直避難）ではなく、避難所への立ち退き避難（水平避難）の必要性を判断することが求められます。

※家屋倒壊等氾濫想定区域は想定最大規模：L2の降雨での想定により指定されています。

氾濫流による家屋倒壊等氾濫想定区域
洪水時の水の水深と速度から、家を押し流す力を計算し、一般的な木造2階建家屋が流失・倒壊する危険性が高い範囲になります。
河岸浸食による家屋倒壊等氾濫想定区
洪水時の過去の河岸浸食事例を基に、河川の幅と河岸の高さ等の河道形状から、河岸が侵食されることにより家屋が倒壊する危険性を推定した範囲になります。

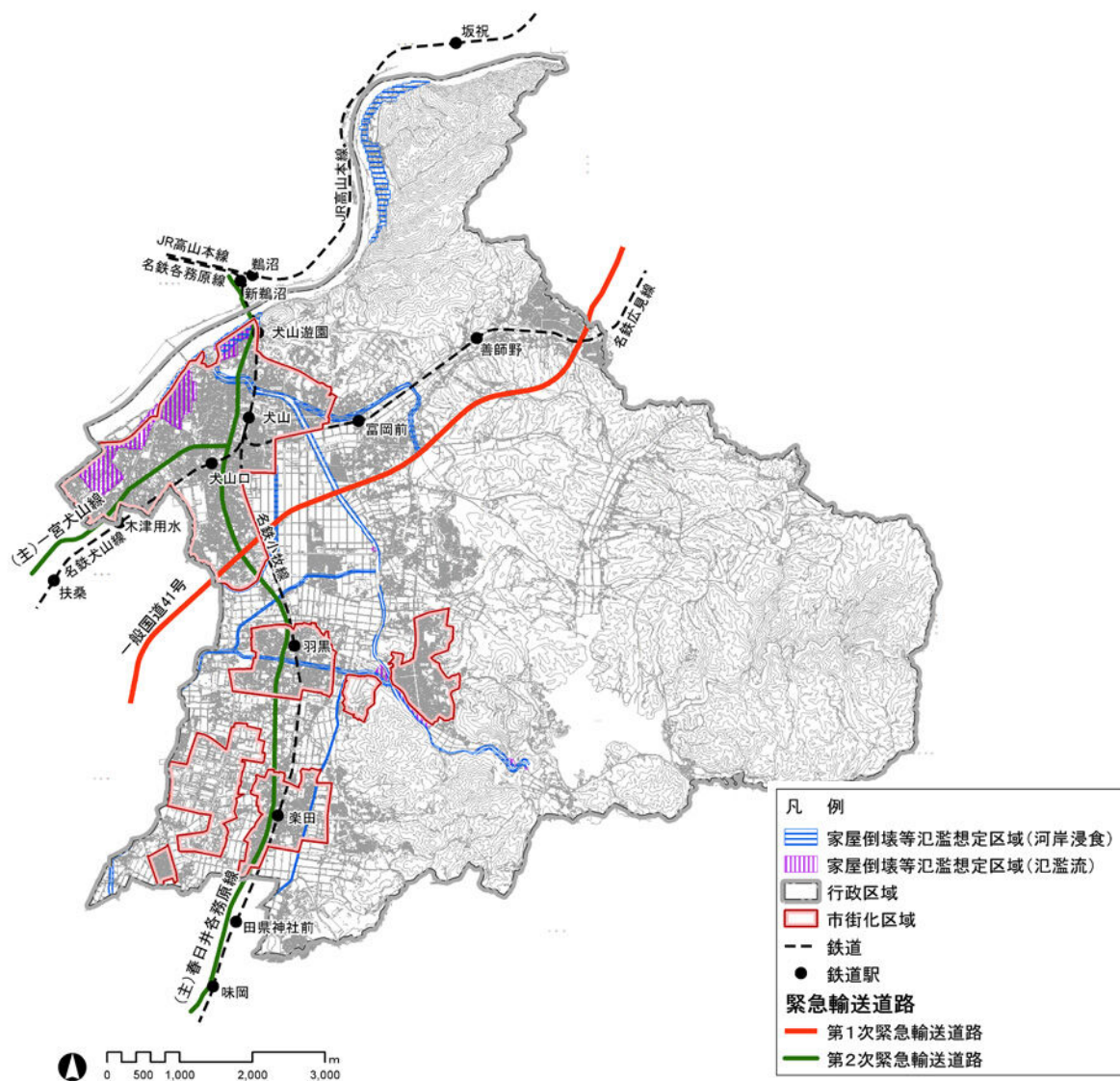


図 想定最大規模（L2）による洪水浸水想定区域

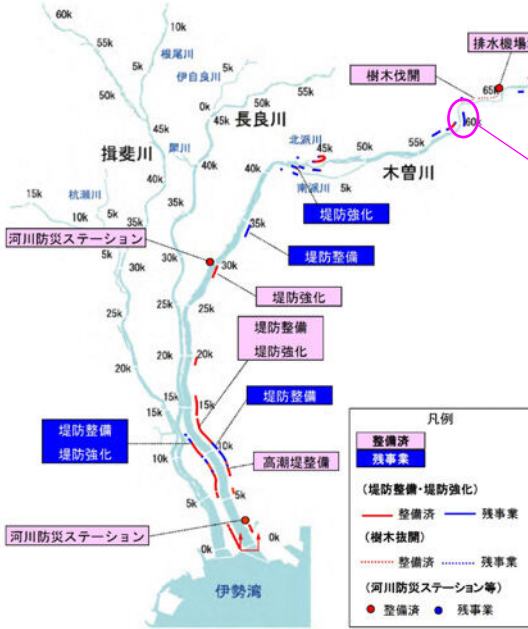
（資料：国土交通省、愛知県）

(参考：河川整備の状況)
【木曽川】 事業の実施状況

- 河川整備計画に計上されている直轄河川改修事業の進捗率は、事業費ベースで約62%です（前回再評価時点【令和元年度】では約53%）。

概ね30年間の主な整備内容

【事業進捗図】



【事業実施状況】

整備項目	事業全体	整備済み	残事業
堤防整備	21.3km	14.3km	7.0km
高潮堤整備	3.9km	3.5km	0.4km
堤防強化※1	49.6km	20.9km	28.7km
河川防災ステーション	2箇所	2箇所	0箇所
排水機場増強	1箇所	1箇所	0箇所
樹木伐開	7ha	5ha	2ha
危機管理型ハード対策	4.7km	4.7km	0.0km

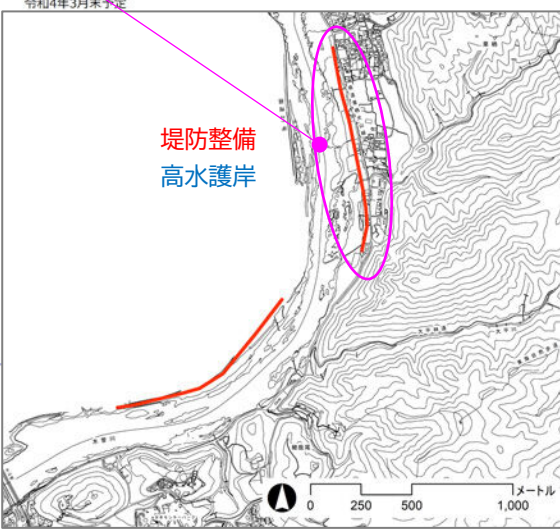


図 【木曽川】 事業の実施状況
 ※右図は木曽川水系河川整備計画（付図）を
 トレースして作成
 （出典：木曽川水系河川整備計画ウェブページ）

愛知県管理河川 水害リスク評価図(令和3年度末時点)

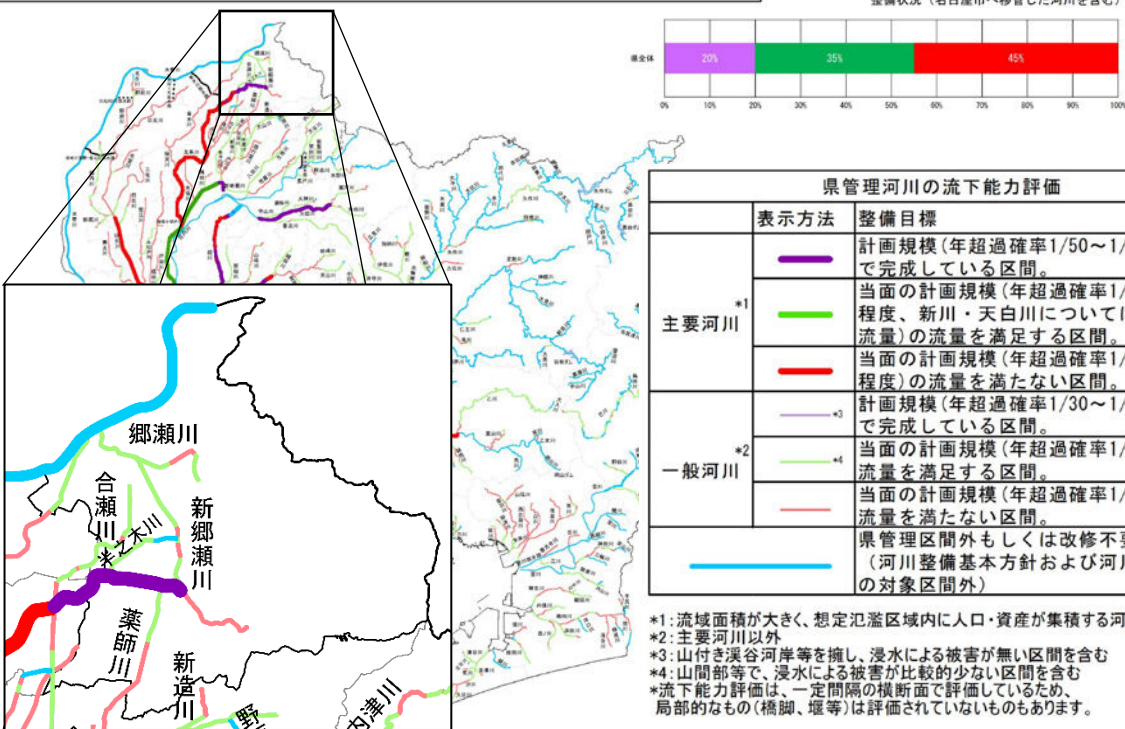


図 愛知県管理河川 水害リスク評価図(令和3年度末時点) ※一部を加工

(出典：愛知県ウェブページ)

水災害…内水ハザードマップ

内水ハザードマップとは、降雨の量が排水路などの排水能力を超えた時や、河川などの排水先の水位が上がった時に雨水が排水できなくなり浸水することを内水氾濫といい、この内水氾濫が発生する危険性が高い区域を示すものです。

想定最大規模

河川に排水できない状態であると仮定し、本市において降った雨の内水氾濫による浸水を解析したものです。

想定し得る最大規模（1000年に1回程度。1時間降雨量：147mm）降雨による内水氾濫で浸水が想定される範囲になります。なお、これ以外に100年に1回程度、200年に1回程度の降雨確率による浸水想定もありますが、近年の降雨量を勘案して想定最大規模で整理します。

<参考>平成29年8月豪雨（1時間降雨量：約95mm）

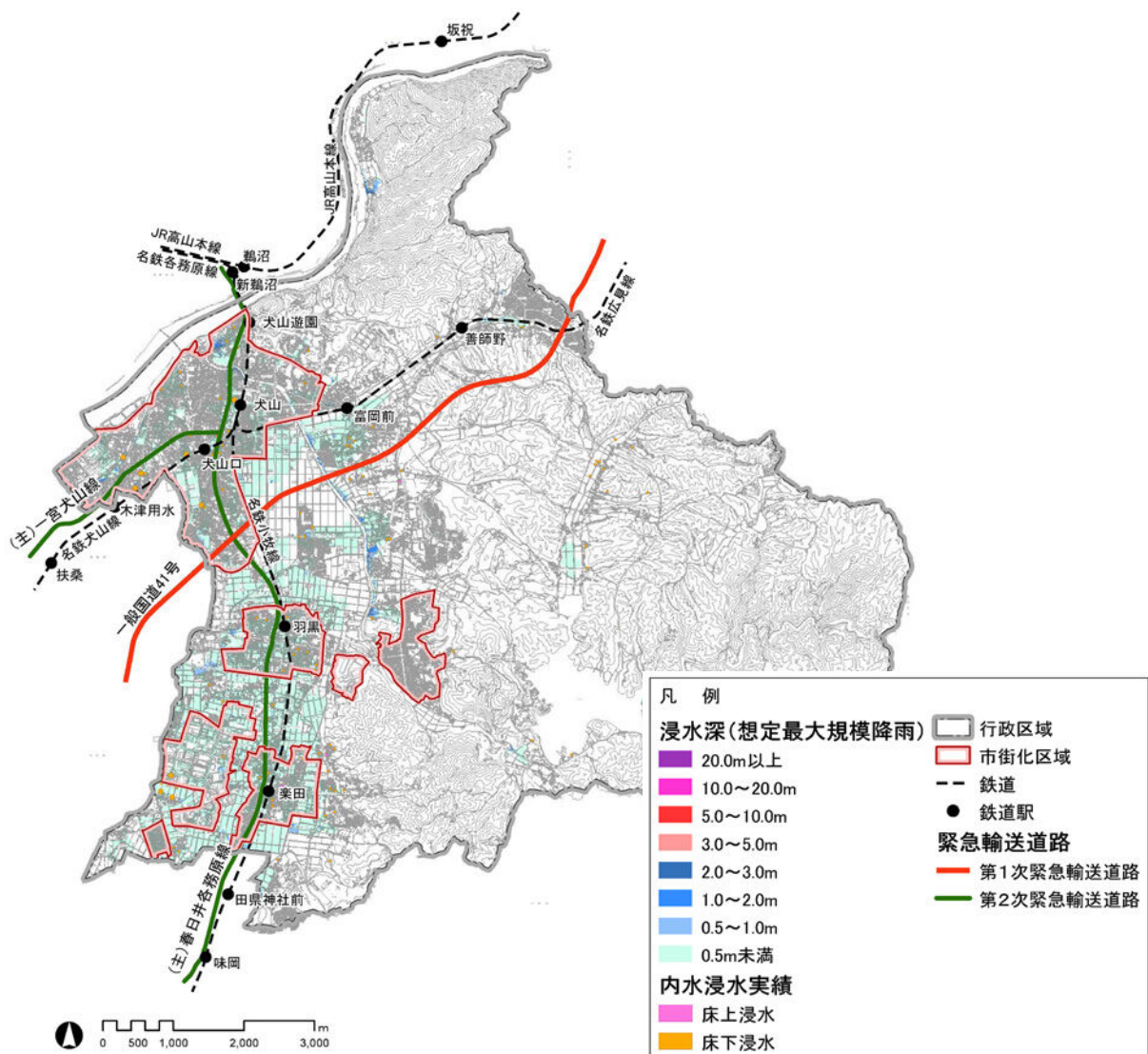


図 想定最大規模による内水ハザードマップ

(資料：犬山市)

水災害…入鹿池浸水想定区域

入鹿池浸水想定区域とは、堤体が決壊した場合に浸水が発生する危険性が高い区域を示したもので、愛知県により「入鹿池浸水想定区域図」が公表されています。

堤防の決壊

入鹿池が満水状態の時に堤体が決壊し、全量（約 1,500 万 m^3 ）が流出した場合の浸水を想定し、その浸水が想定される範囲になります。

入鹿池は、学識経験者らで構成する「入鹿池耐震性検証委員会(2012～2014 年度)」において、大規模地震に対する耐震性の検証を行い、「想定される大規模地震(南海トラフ地震等)に対し、耐震性能を有している。」という結果が出ており、200 年確率雨量に対応した洪水放流施設を備えています。

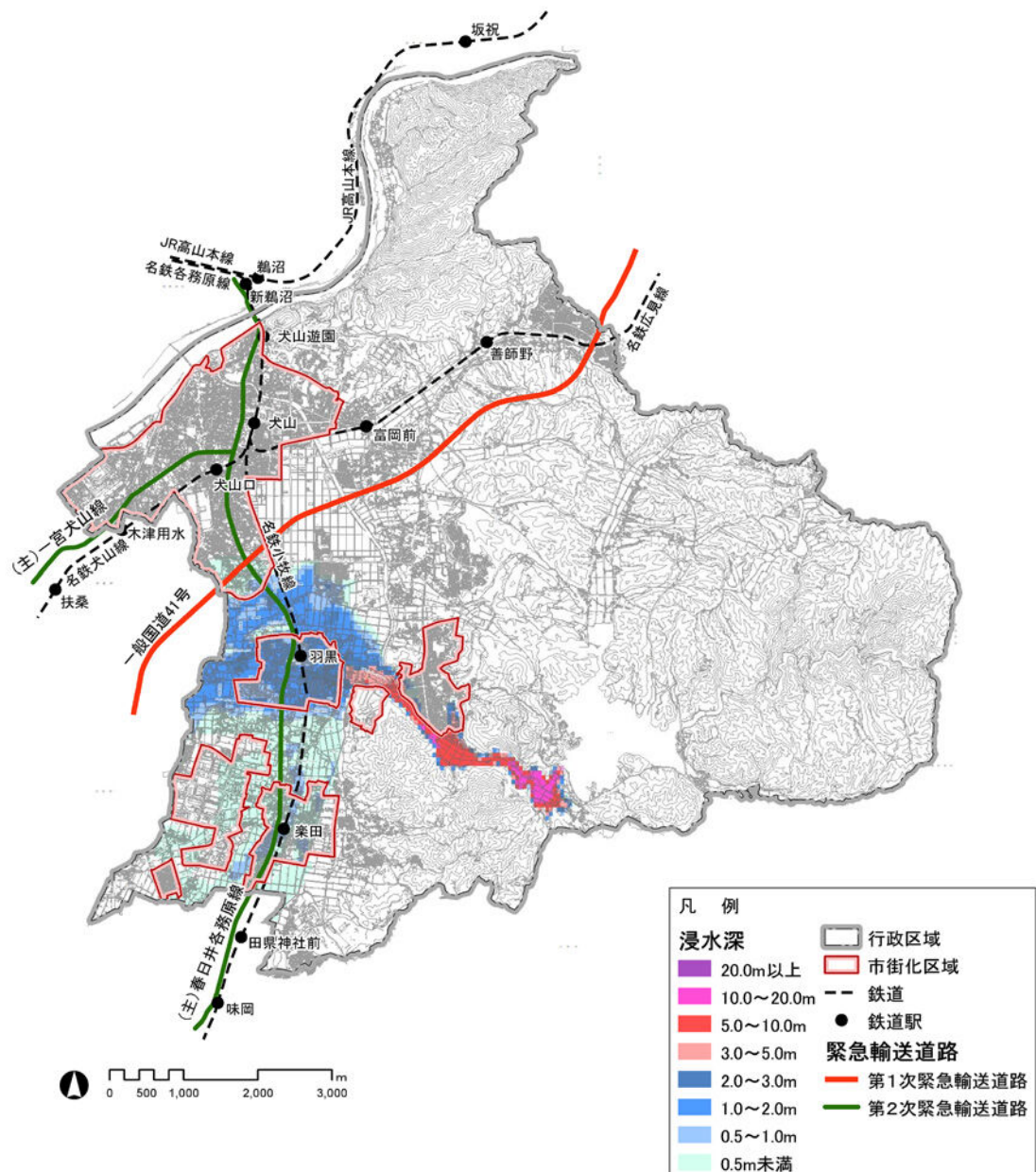


図 入鹿池浸水想定区域

(資料：犬山市)

土砂災害…土砂災害警戒区域、土砂災害特別警戒区域、急傾斜地崩壊危険区域

土砂災害警戒区域等は、「土砂災害警戒区域等における土砂災害防止対策の推進に関する法律」や「急傾斜地の崩壊による災害の防止に関する法律」に基づき指定されています。なお、本市において、「地すべり等防止法」に基づく地すべり防止区域は指定されていません。

土砂災害警戒区域（イエローゾーン）

急傾斜地の崩壊等が発生した場合に住民等の生命又は身体に危害が生じる恐れがあると認められる土地の区域になります。

土砂災害特別警戒区域（レッドゾーン）、急傾斜地崩壊危険区域

急傾斜地の崩壊等が発生した場合に建築物に損壊が生じ、住民等の生命又は身体に著しい危害が生じる恐れがあると認められる土地の区域になります。

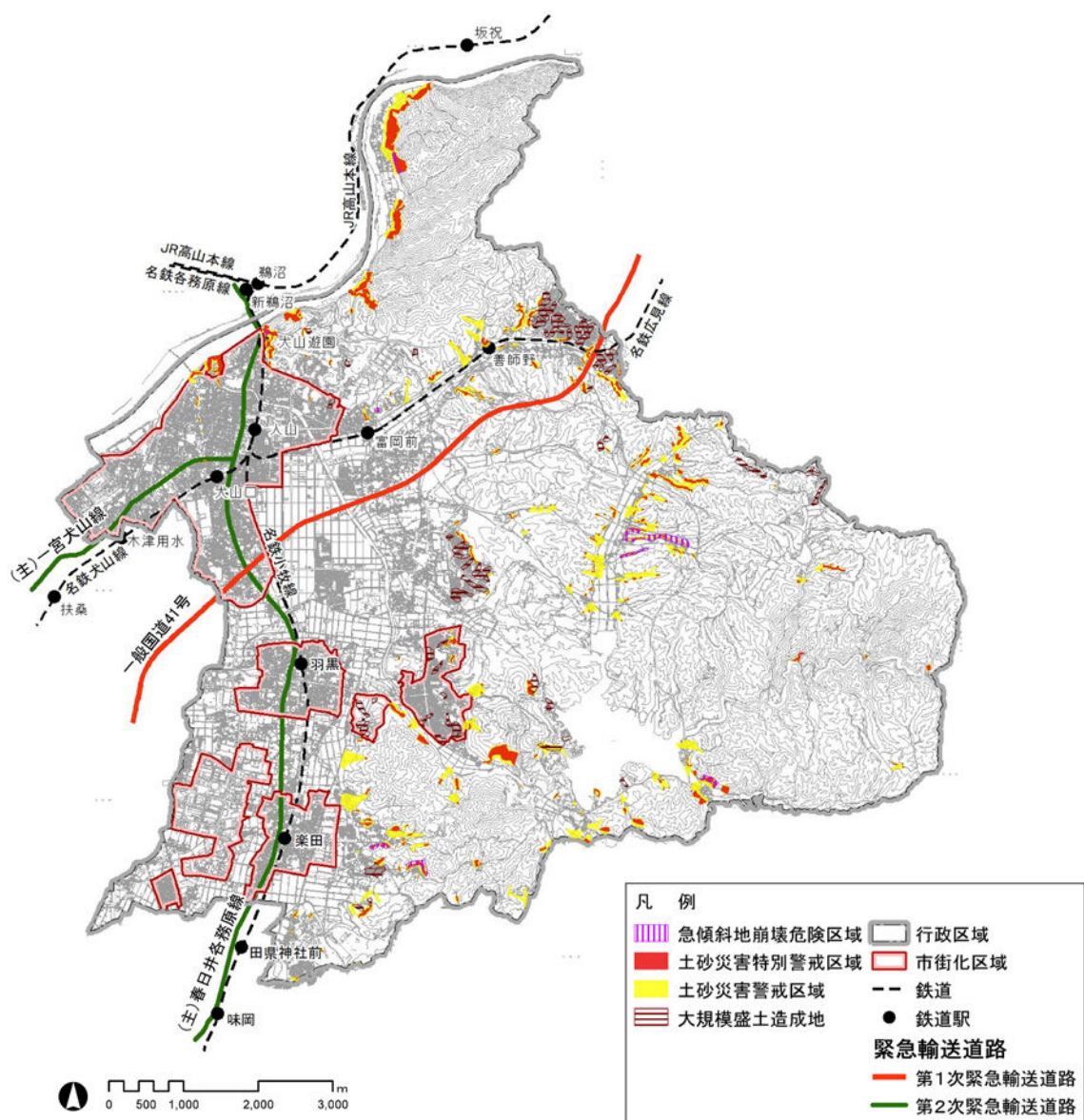


図 土砂災害による被害のおそれがある区域

(資料：愛知県)

地震災害…震度分布、液状化危険度

既往の大地震による震度分布、液状化危険度を示したもので、愛知県より「過去地震最大モデル」(愛知県東海地震・東南海地震・南海地震等被害予測調査報告書(H23年度-H25年度))公表されています。

なお、液状化については、地形区分が液状化計算の対象外となる区域が大半であり、液状化計算の対象となる区域にあっては、そのほとんどで危険度が低い、又は、極めて低いとなっていることから、後述の災害リスクの整理、分析対象から外すこととします。

過去地震最大モデル

過去に発生したことが明らかで規模の大きなもの(宝永、安政東海、安政南海、昭和東南海、昭和南海の5地震)を重ね合わせて予測した震度分布、液状化危険度になります。

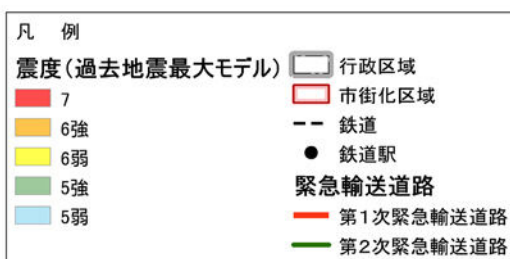
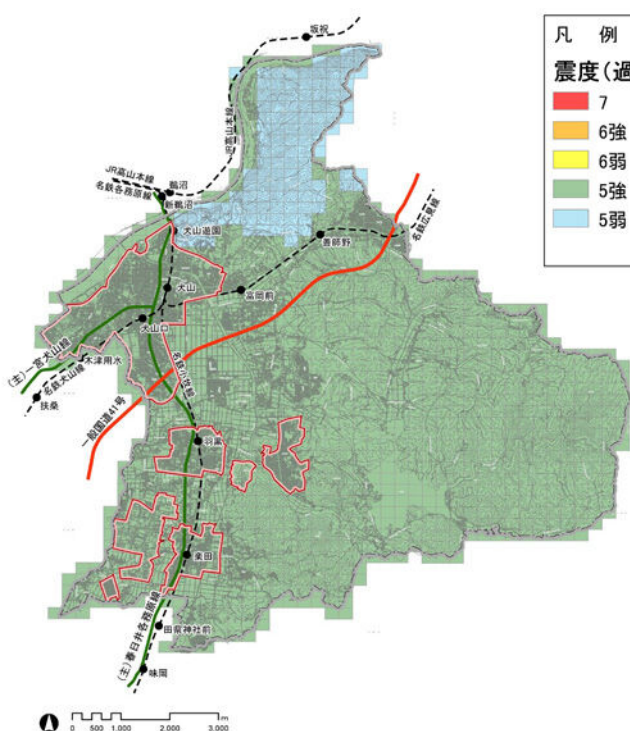


図 地震(過去地震最大モデル)による震度分布

(資料:愛知県)

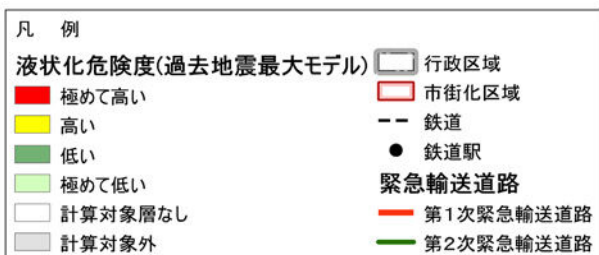
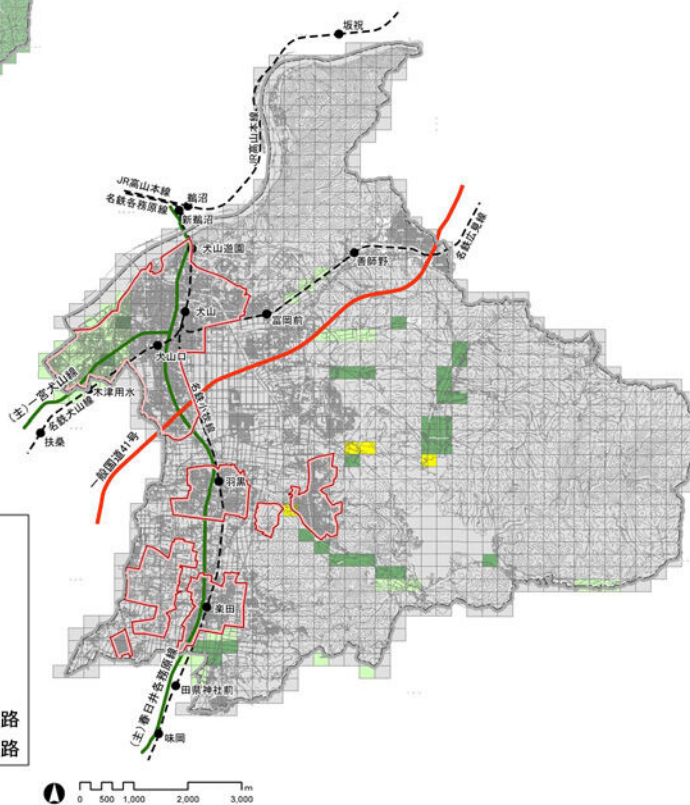


図 地震(過去地震最大モデル)による液状化危険度

(資料:愛知県)

②各地域における災害ハザードの状況

各地域で想定されている災害ハザードの状況を以下に整理します。なお、内水、地震に関わる災害ハザードについては、市全域で対応を検討していくこととし、ここでは洪水と土砂災害を対象とします。

【犬山地域】

※人口分布は災害ハザードと重複する地域内のメッシュ人口を表示

浸水想定区域：計画規模（L1）

- ・犬山城東側の低地において床上浸水に相当する浸水深が0.5m以上の浸水が想定
- ・木津用水駅北側の一宮犬山線沿道で局所的に浸水が想定
- ・地域南東部の農地を中心に広い範囲で浸水が想定



図 R2 人口分布 (250mメッシュ)



図 浸水想定区域 (L1)

浸水想定区域：想定最大規模（L2）

- ・人口が集積する犬山城の東側や木津用水西側の広い範囲で浸水が想定され、多くの人への影響が懸念される。
- ・地域南部では農地を中心に浸水し、市街化区域の一部や住宅団地等でも浸水が想定される。
- ・2階への垂直避難が困難とされる浸水深3.0m以上の木曾川からの浸水が広い範囲で想定される。
- ・木曾川沿いの地域で、家屋倒壊等氾濫想定区域（氾濫流）、郷瀬川、新郷瀬川、合瀬川沿いで家屋倒壊等氾濫想定区域（河岸侵食）がみられ、家屋等への被害が懸念される。



図 R2 人口分布 (250mメッシュ)

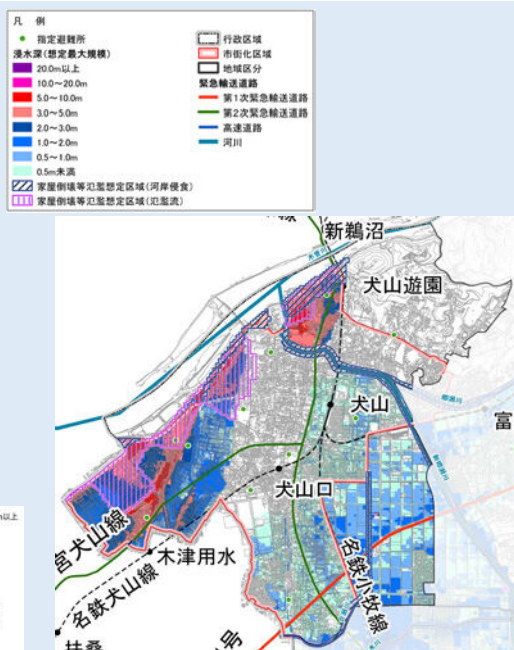


図 浸水想定区域 (L2)

土砂災害

- ・犬山駅東側や犬山城周辺、犬山駅の北西にある河岸段丘となっている箇所において、土砂災害特別警戒区域（土砂災害警戒区域）がみられ、土砂災害による被害が懸念される。



図 R2 人口分布 (250mメッシュ)



図 土砂災害

【城東地域】

※人口分布は災害ハザードと重複する地域内のメッシュ人口を表示

浸水想定区域：計画規模（L1）

- ・地域西部の富岡前駅周辺や郷瀬川、新郷瀬川周辺の農地を中心に広い範囲で浸水が想定される。

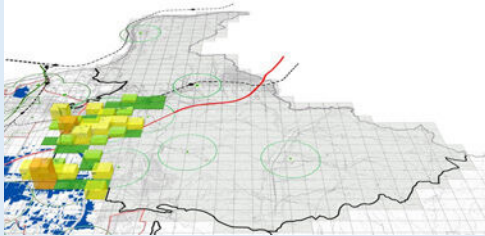


図 R2 人口分布 (250mメッシュ)

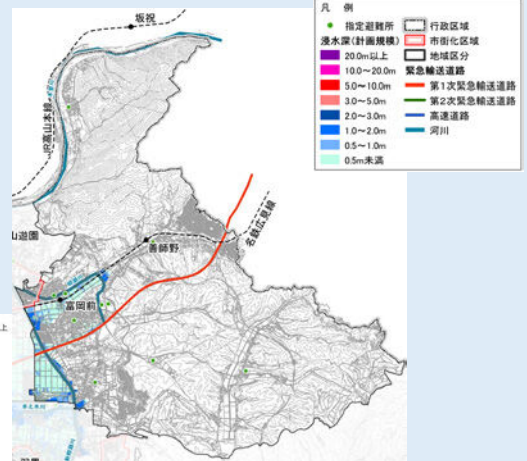


図 浸水想定区域（L1）

浸水想定区域：想定最大規模（L2）

- ・地域西部の富岡前駅周辺や郷瀬川、新郷瀬川周辺の農地を中心に広い範囲で浸水が想定される。
- ・木曾川沿いで家屋倒壊等氾濫想定区域（河岸侵食）がみられ、家屋等への被害が懸念される。
- ・県道栗栖犬山線が家屋倒壊等氾濫想定区域（河岸侵食）と重複しており、栗栖の集落地が孤立することが懸念される。

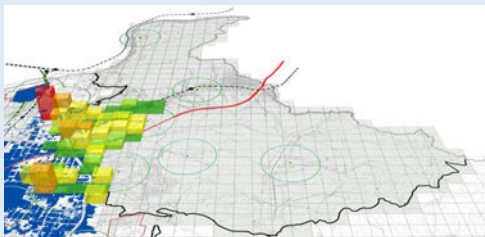


図 R2 人口分布 (250mメッシュ)



図 浸水想定区域（L2）

土砂災害

- ・住宅団地や集落地に隣接する傾斜地において、土砂災害特別警戒区域（土砂災害警戒区域）がみられ、土砂災害による被害が懸念される。

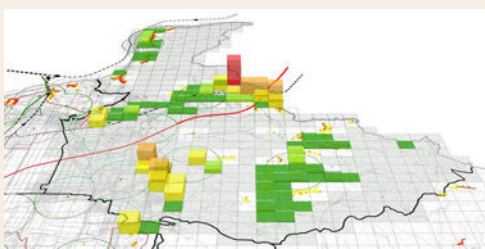


図 R2 人口分布 (250mメッシュ)

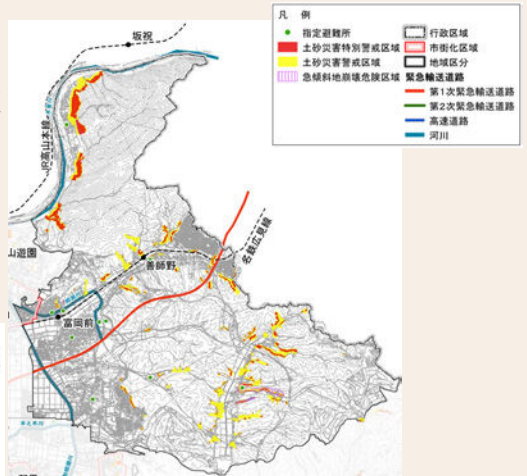


図 土砂災害

【羽黒地域】

※人口分布は災害ハザードと重複する地域内のメッシュ人口を表示

浸水想定区域：計画規模（L1）

- ・人口が集積する羽黒駅周辺の市街化区域全域で浸水が想定され、多くのへの影響が懸念される。
- ・市街化区域全域で想定される浸水は、一部で床上浸水に相当する浸水深0.5m以上が想定される。
- ・市街化調整区域でも農地を中心に広い範囲で浸水し、住宅団地、集落地でも浸水が想定される。



図 R2 人口分布 (250mメッシュ)

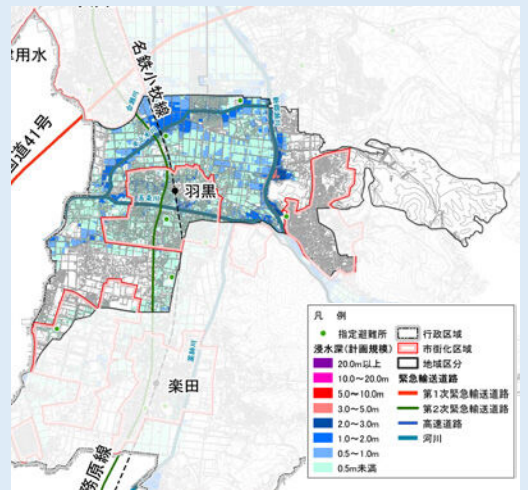


図 浸水想定区域（L1）

浸水想定区域：想定最大規模（L2）

- ・人口が集積する羽黒駅周辺の市街化区域全域で浸水が想定され、多くの人への影響が懸念される。
- ・市街化区域全域で想定される浸水は、五条川周辺において浸水深1.0m以上の床上浸水に相当する浸水が想定される。
- ・新郷瀬川、五条川、半之木川沿いで家屋倒壊等氾濫想定区域（河岸侵食）がみられ、家屋等への被害が懸念される。

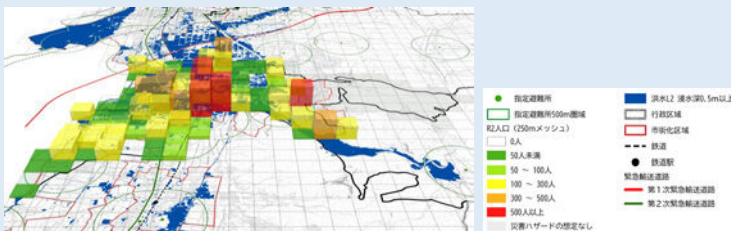


図 R2 人口分布 (250mメッシュ)

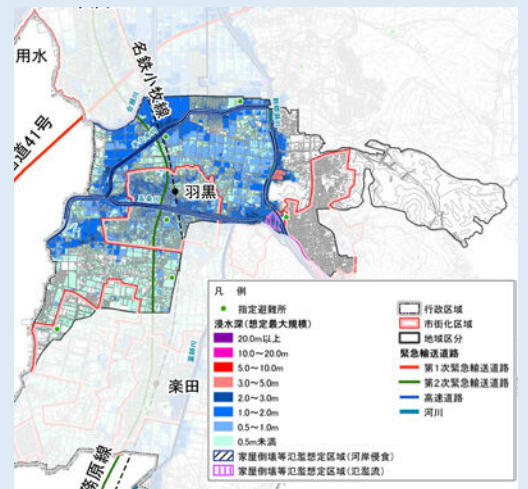


図 浸水想定区域（L2）

土砂災害

- ・緑ヶ丘・長者町地区東部の傾斜地において、土砂災害特別警戒区域（土砂災害警戒区域）がみられ、土砂災害による被害が懸念される。

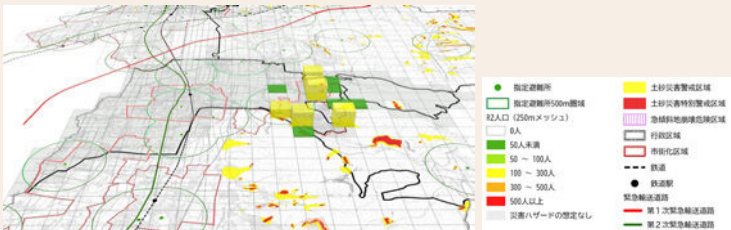


図 R2 人口分布 (250mメッシュ)

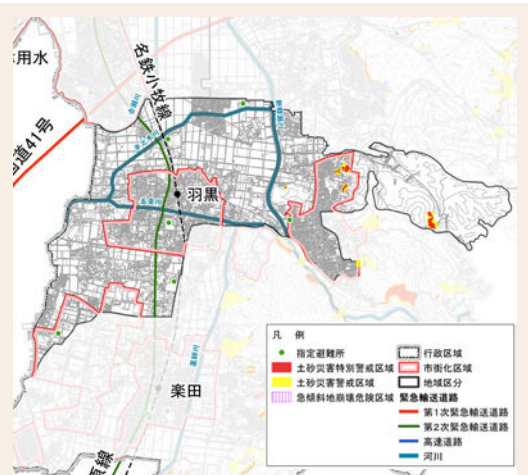


図 土砂災害

【楽田地域】

※人口分布は災害ハザードと重複する地域内のメッシュ人口を表示

浸水想定区域：計画規模（L1）

- ・市街化区域内の一部では、浸水深 0.5m未滿の浸水が想定される。
- ・市街化調整区域を農地を中心に広い範囲で浸水し、一部の集落地でも浸水が想定される。

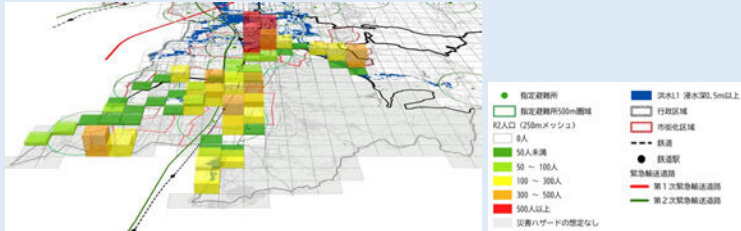


図 R2 人口分布 (250mメッシュ)

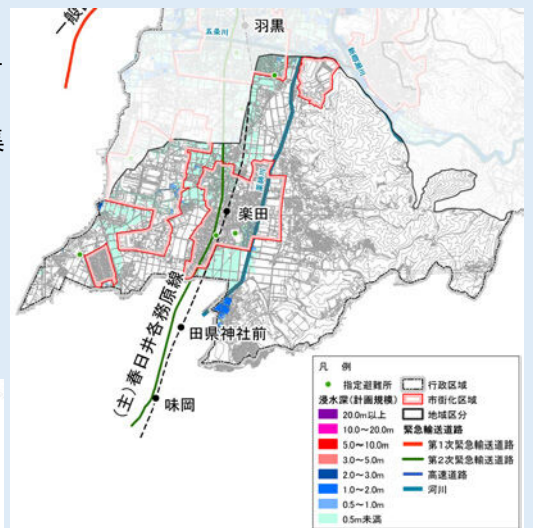


図 浸水想定区域（L1）

浸水想定区域：想定最大規模（L2）

- ・人口が集積する楽田駅東側や西楽田団地で浸水が想定され、多くの人への影響が懸念される。
- ・市街化区域の広範囲で浸水深が 0.5m未滿の浸水が想定され、楽田駅東側では床上浸水に相当する浸水深 1.0m以上の浸水が想定される。

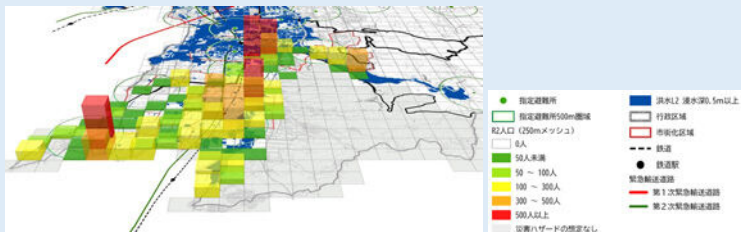


図 R2 人口分布 (250mメッシュ)

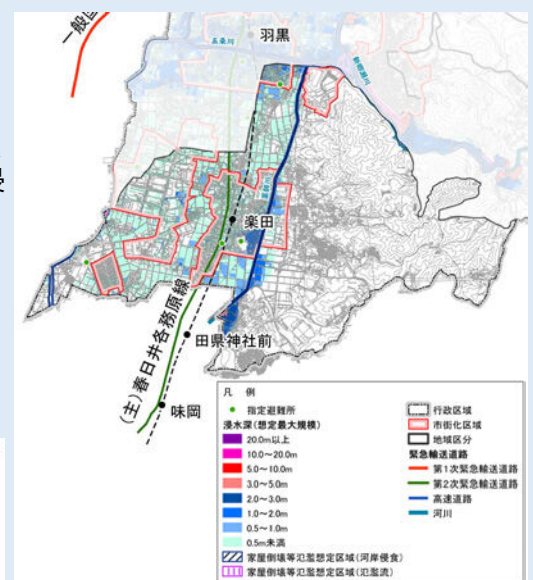


図 浸水想定区域（L2）

土砂災害

- ・東部の傾斜地において、土砂災害特別警戒区域（土砂災害警戒区域）がみられ、土砂災害による被害が懸念される。

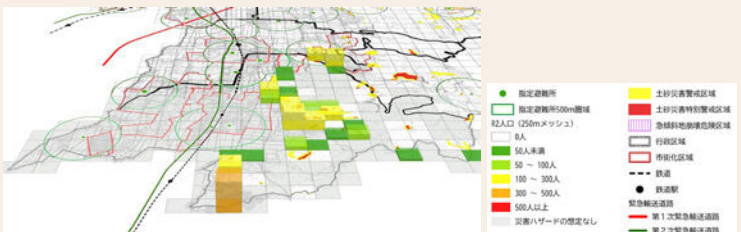


図 R2 人口分布 (250mメッシュ)

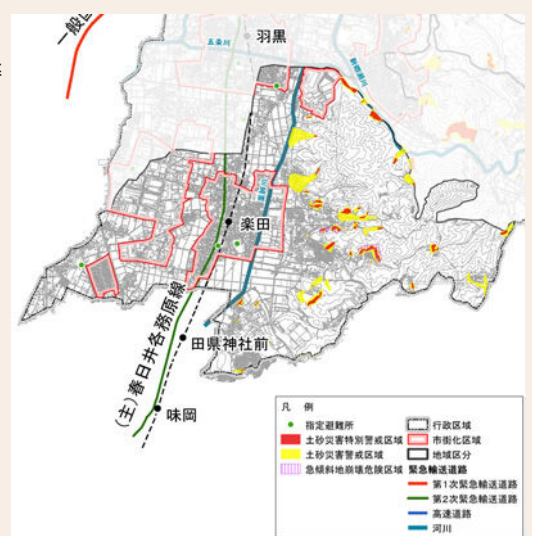


図 土砂災害

【池野地域】

※人口分布は災害ハザードと重複する地域内のメッシュ人口を表示

浸水想定区域：計画規模（L1）

- ・新郷瀬川沿いの農地で深水深が1.0m以上となることが想定される。

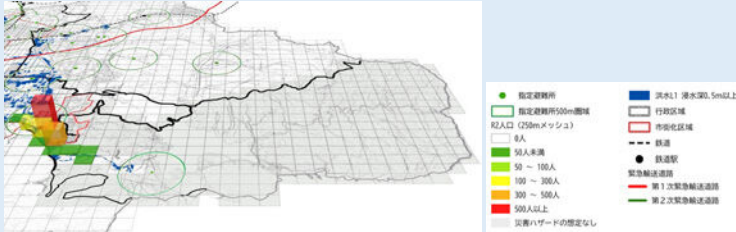


図 R2 人口分布 (250mメッシュ)

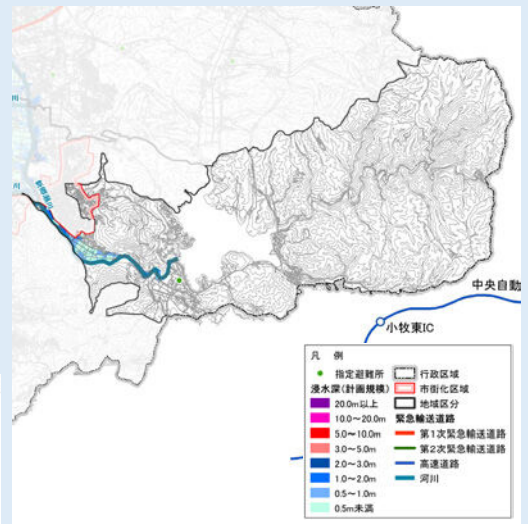


図 浸水想定区域（L1）

浸水想定区域：想定最大規模（L2）

- ・市街化区域に隣接し一定の人口がみられる集落地の一部で浸水が想定される。
- ・新郷瀬川沿いの農地で浸水深3.0m以上の浸水が想定され、河川沿いの集落地では床上浸水に相当する浸水深0.5m以上の浸水も想定される。

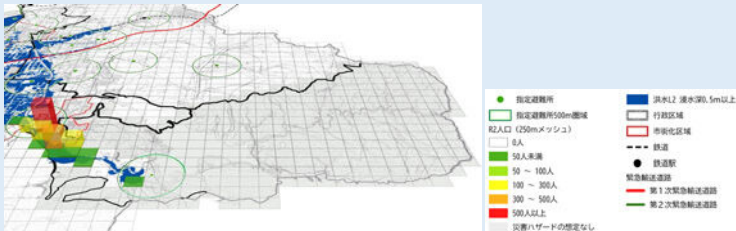


図 R2 人口分布 (250mメッシュ)

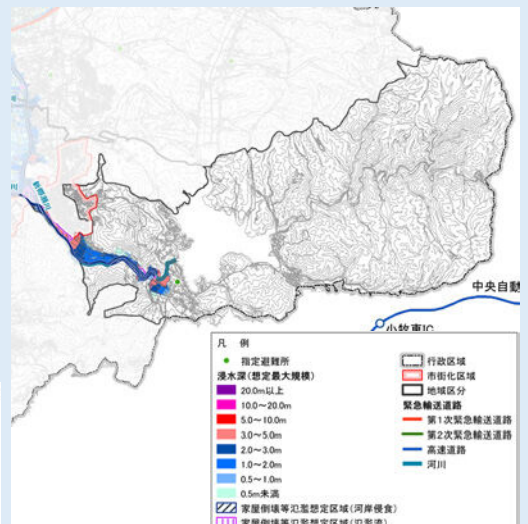


図 浸水想定区域（L2）

土砂災害

- ・集落地に隣接する傾斜地で、土砂災害特別警戒区域（土砂災害警戒区域）がみられ、土砂災害による被害が懸念される。

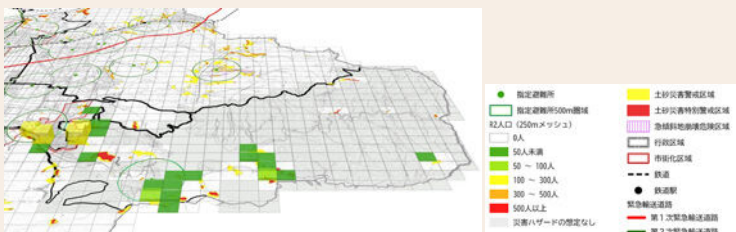


図 R2 人口分布 (250mメッシュ)

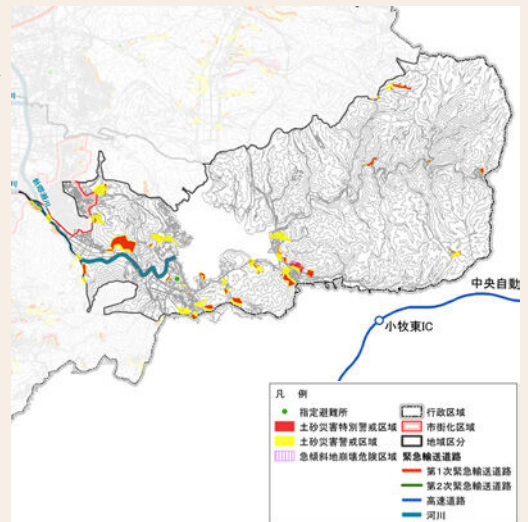


図 土砂災害

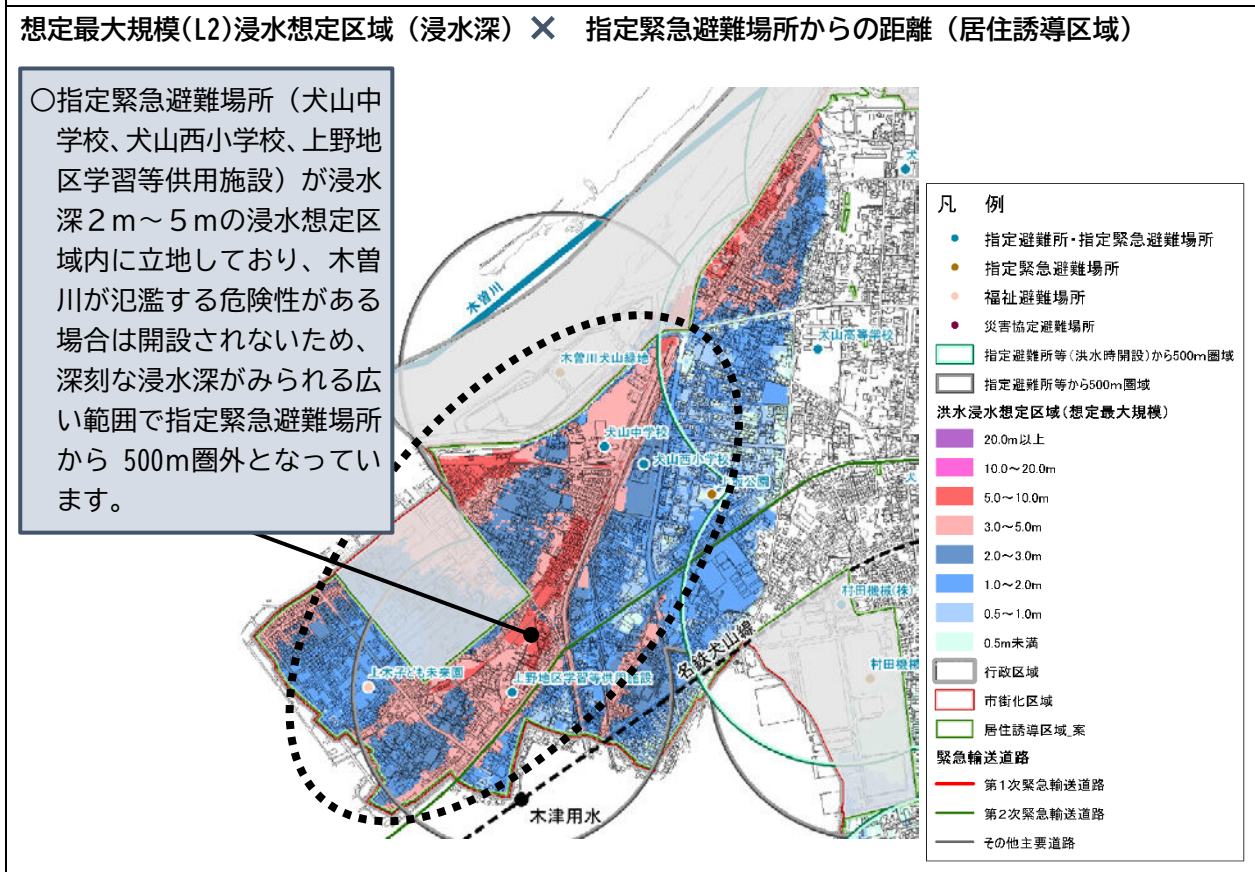
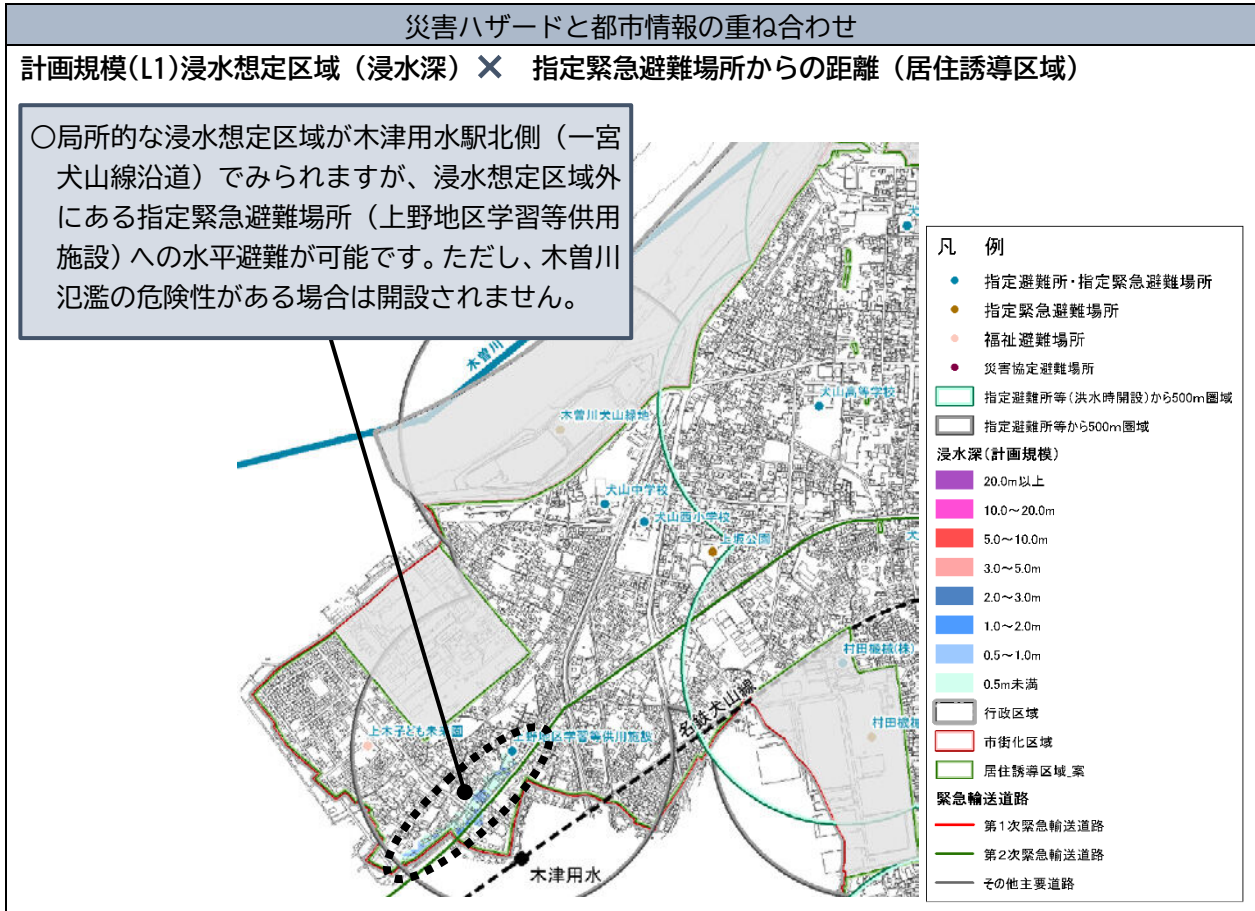
③居住誘導区域における災害リスクの分析

近年、激甚化・頻発化する豪雨災害で特に災害リスクの高い洪水、土砂災害におけるハザード情報が重複する地域のうち、居住誘導区域を設定した区域について、次の都市情報を重ねた分析の視点を踏まえた災害リスクを抽出します。

災害ハザード	都市情報	分析の視点
洪水 ・浸水想定区域（浸水深）	・避難場所 ・避難場所からの距離	・浸水が想定される指定緊急避難場所を確認 ・浸水想定区域から徒歩での避難が可能か確認
	・建物分布	・垂直避難が困難で立ち退き避難が必要となる建物を確認 ※垂直避難が困難な住宅： 浸水深 0.5m以上の平屋建て住宅 浸水深 3.0m以上の2階建て住宅
洪水 ・家屋倒壊等氾濫想定区域（河岸侵食・氾濫流）	・建物分布	・河岸侵食又は氾濫流により家屋倒壊のおそれがある建物を確認
土砂災害 ・急傾斜地崩壊危険区域 ・土砂災害特別警戒区域 ・土砂災害警戒区域	・建物分布	・土砂災害が懸念される区域内に分布する建物を確認

■居住誘導区域における災害リスクの抽出

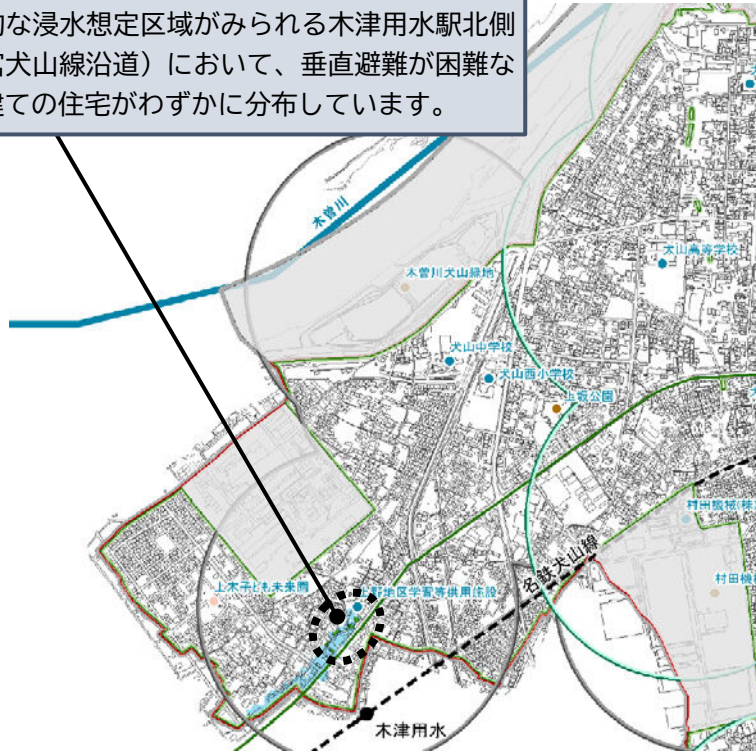
【犬山地区A】



災害ハザードと都市情報の重ね合わせ

計画規模(L1)浸水想定区域(浸水深) × 建物分布(居住誘導区域)

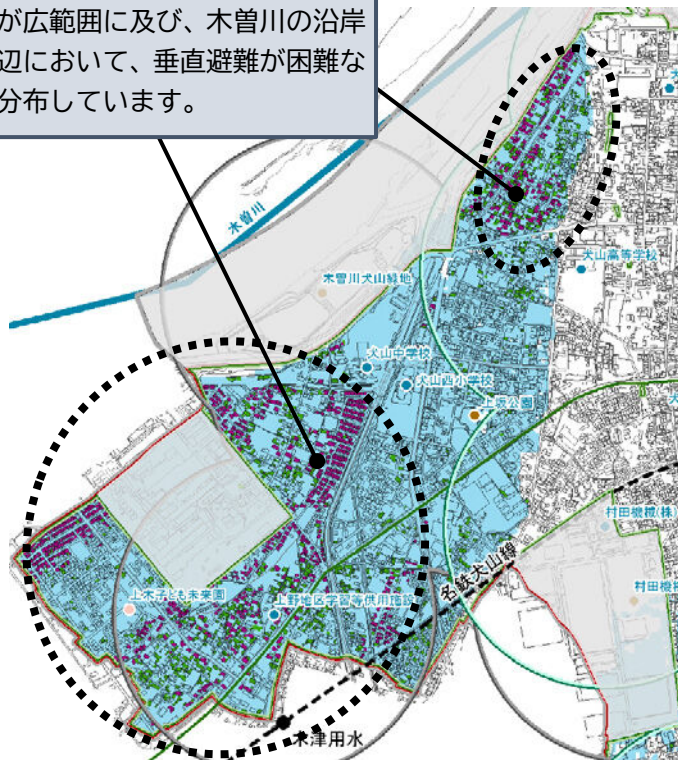
○局所的な浸水想定区域がみられる木津用水駅北側(一宮犬山線沿道)において、垂直避難が困難な平屋建ての住宅がわずかに分布しています。



- 凡例
- 指定避難所・指定緊急避難場所
 - 指定緊急避難場所
 - 福祉避難場所
 - 災害協定避難場所
 - 指定避難所等(洪水時間設)から500m圏域
 - 指定避難所等から500m圏域
 - 垂直避難が困難な住宅
 - 平屋建て
 - 2階建て
 - 3階建て
 - 浸水想定区域(計画規模)
 - 行政区
 - 市街化区域
 - 居住誘導区域案
 - 緊急輸送道路
 - 第1次緊急輸送道路
 - 第2次緊急輸送道路
 - その他主要道路

想定最大規模(L2)浸水想定区域(浸水深) × 建物分布(居住誘導区域)

○浸水想定区域が広範囲に及び、木曽川の沿岸や木津用水周辺において、垂直避難が困難な住宅が数多く分布しています。

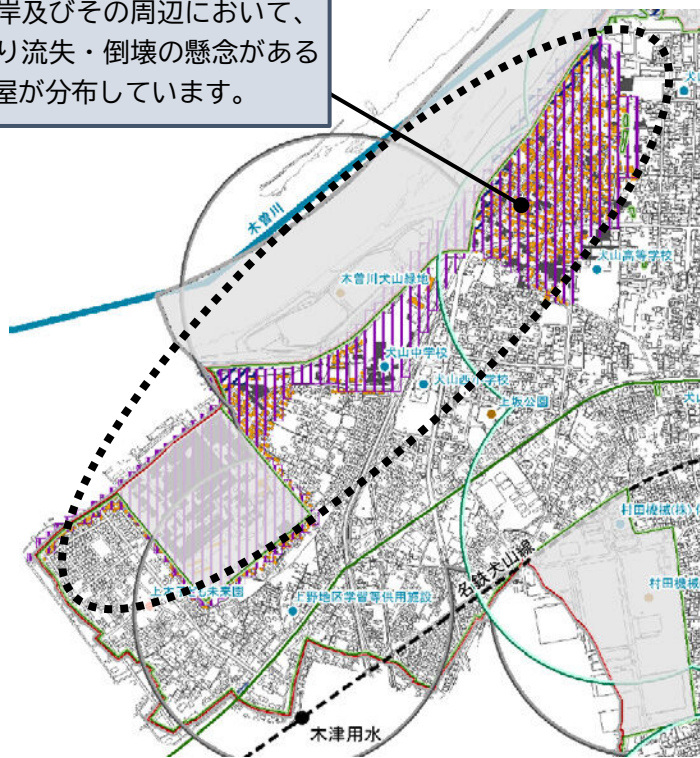


- 凡例
- 指定避難所・指定緊急避難場所
 - 指定緊急避難場所
 - 福祉避難場所
 - 災害協定避難場所
 - 指定避難所等(洪水時間設)から500m圏域
 - 指定避難所等から500m圏域
 - 垂直避難が困難な住宅
 - 平屋建て
 - 2階建て
 - 3階建て
 - 浸水想定区域(想定最大規模)
 - 行政区
 - 市街化区域
 - 居住誘導区域案
 - 緊急輸送道路
 - 第1次緊急輸送道路
 - 第2次緊急輸送道路
 - その他主要道路

災害ハザードと都市情報の重ね合わせ

想定最大規模(L2)家屋倒壊等氾濫想定区域 × 建物分布 (居住誘導区域)

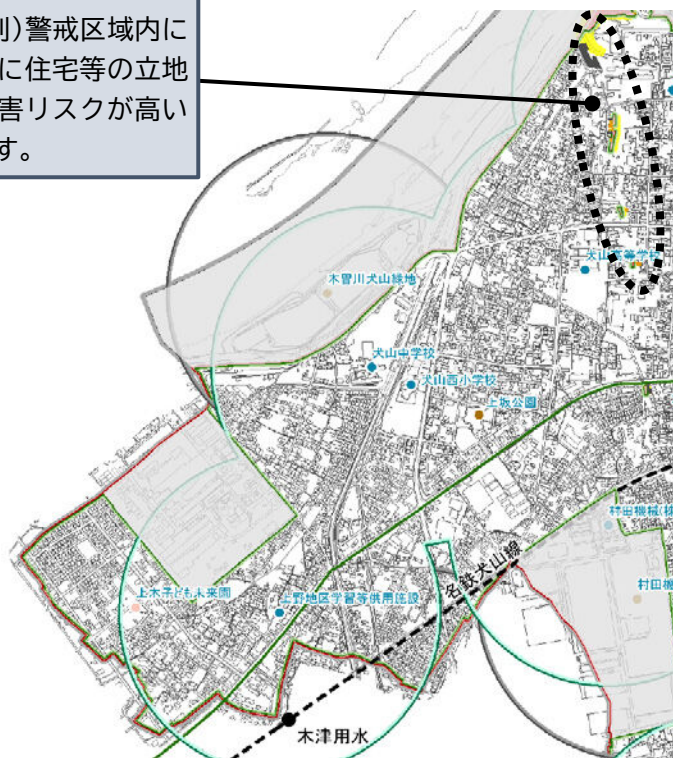
○木曾川の沿岸及びその周辺において、氾濫流により流失・倒壊の懸念がある数多くの家屋が分布しています。



- 凡例
- 指定避難所・指定緊急避難場所
 - 指定緊急避難場所
 - 福祉避難場所
 - 災害協定避難場所
 - 指定避難所等(洪水時開設)から500m圏域
 - 指定避難所等から500m圏域
 - 家屋倒壊等氾濫想定区域(河岸浸食)
 - 家屋倒壊等氾濫想定区域(氾濫流)
 - 家屋倒壊等氾濫想定区域内建物
 - 住宅
 - その他
 - 行政区域
 - 市街化区域
 - 居住誘導区域案
 - 緊急輸送道路
 - 第1次緊急輸送道路
 - 第2次緊急輸送道路
 - その他主要道路

土砂災害(特別)警戒区域・急傾斜地崩壊危険区域 × 建物分布 (居住誘導区域)

○土砂災害(特別)警戒区域内においてわずかに住宅等の立地がみられ、災害リスクが高い状態にあります。



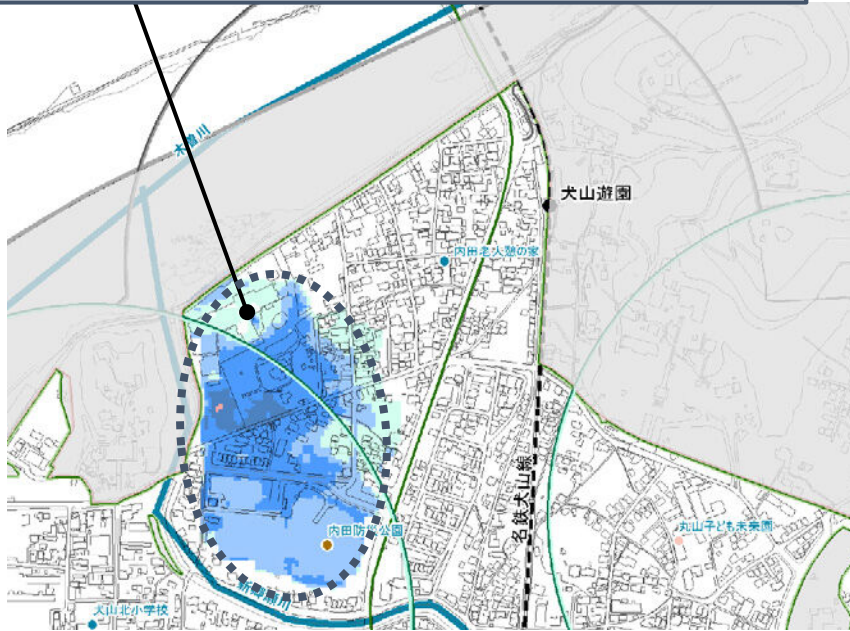
- 凡例
- 指定避難所・指定緊急避難場所
 - 指定緊急避難場所
 - 福祉避難場所
 - 災害協定避難場所
 - 指定避難所等(土砂災害時開設)から500m圏域
 - 指定避難所等から500m圏域
 - 土砂災害による被害が懸念される建物
 - 住宅
 - その他建物
 - 急傾斜地崩壊危険区域
 - 土砂災害特別警戒区域
 - 土砂災害警戒区域
 - 行政区域
 - 市街化区域
 - 居住誘導区域案
 - 緊急輸送道路
 - 第1次緊急輸送道路
 - 第2次緊急輸送道路
 - その他主要道路

【犬山地区B】

災害ハザードと都市情報の重ね合わせ

計画規模(L1)浸水想定区域（浸水深）× 指定緊急避難場所からの距離（居住誘導区域）

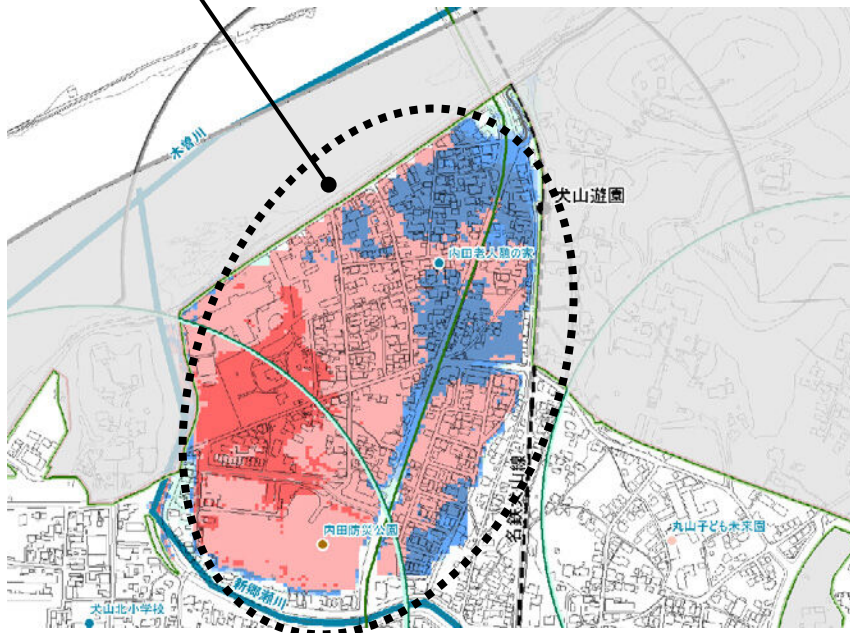
○浸水深1 m以上の浸水想定区域内がみられますが、浸水想定区域外の指定緊急避難場所への水平避難が可能です。ただし、内田老人憩いの家は、木曾川氾濫の危険性がある場合は開設されません。



- 凡 例
- 指定避難所・指定緊急避難場所
 - 指定緊急避難場所
 - 福祉避難場所
 - 災害協定避難場所
 - 指定避難所等（洪水時開設）から500m圏域
 - 指定避難所等から500m圏域
- 浸水深（計画規模）
- 20.0m以上
 - 10.0～20.0m
 - 5.0～10.0m
 - 3.0～5.0m
 - 2.0～3.0m
 - 1.0～2.0m
 - 0.5～1.0m
 - 0.5m未満
- 行政区域
- 行政区域
 - 市街化区域
 - 居住誘導区域案
- 緊急輸送道路
- 第1次緊急輸送道路
 - 第2次緊急輸送道路
 - その他主要道路

想定最大規模(L2)浸水想定区域（浸水深）× 指定緊急避難場所からの距離（居住誘導区域）

○指定緊急避難場所（内田老人憩いの家）が浸水深3 m以上の浸水想定区域内に立地しており、木曾川が氾濫する危険性がある場合は開設されないため、深刻な浸水深がみられる広い範囲で指定緊急避難場所から500m圏外となっています。

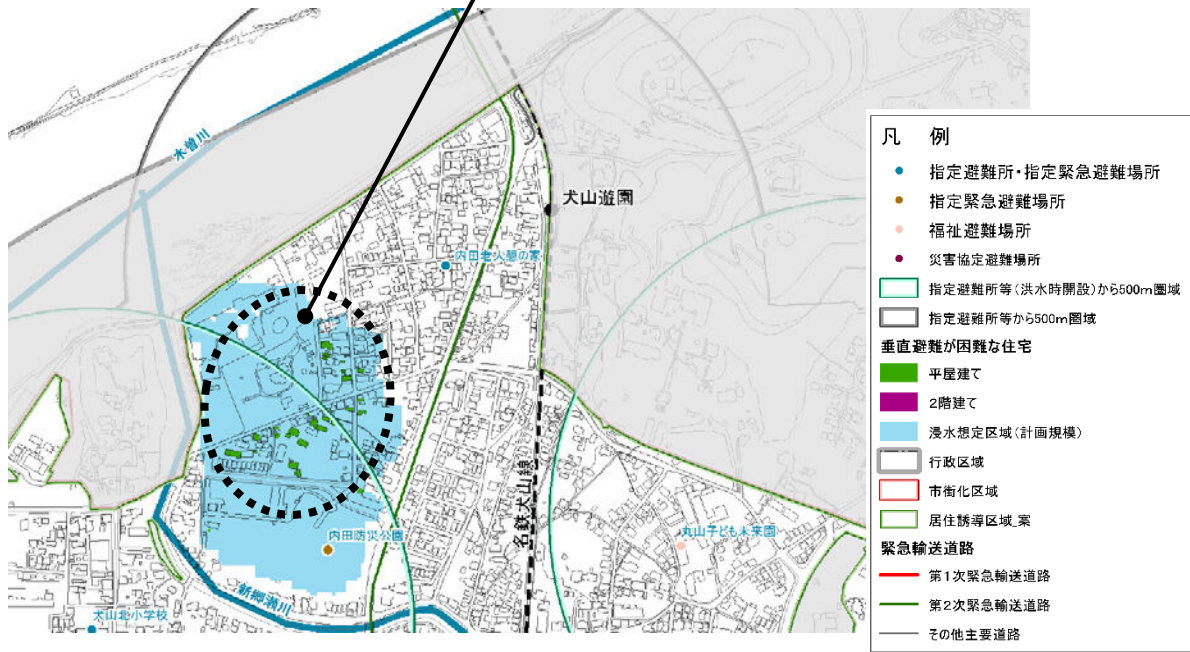


- 凡 例
- 指定避難所・指定緊急避難場所
 - 指定緊急避難場所
 - 福祉避難場所
 - 災害協定避難場所
 - 指定避難所等（洪水時開設）から500m圏域
 - 指定避難所等から500m圏域
- 洪水浸水想定区域（想定最大規模）
- 20.0m以上
 - 10.0～20.0m
 - 5.0～10.0m
 - 3.0～5.0m
 - 2.0～3.0m
 - 1.0～2.0m
 - 0.5～1.0m
 - 0.5m未満
- 行政区域
- 行政区域
 - 市街化区域
 - 居住誘導区域案
- 緊急輸送道路
- 第1次緊急輸送道路
 - 第2次緊急輸送道路
 - その他主要道路

災害ハザードと都市情報の重ね合わせ

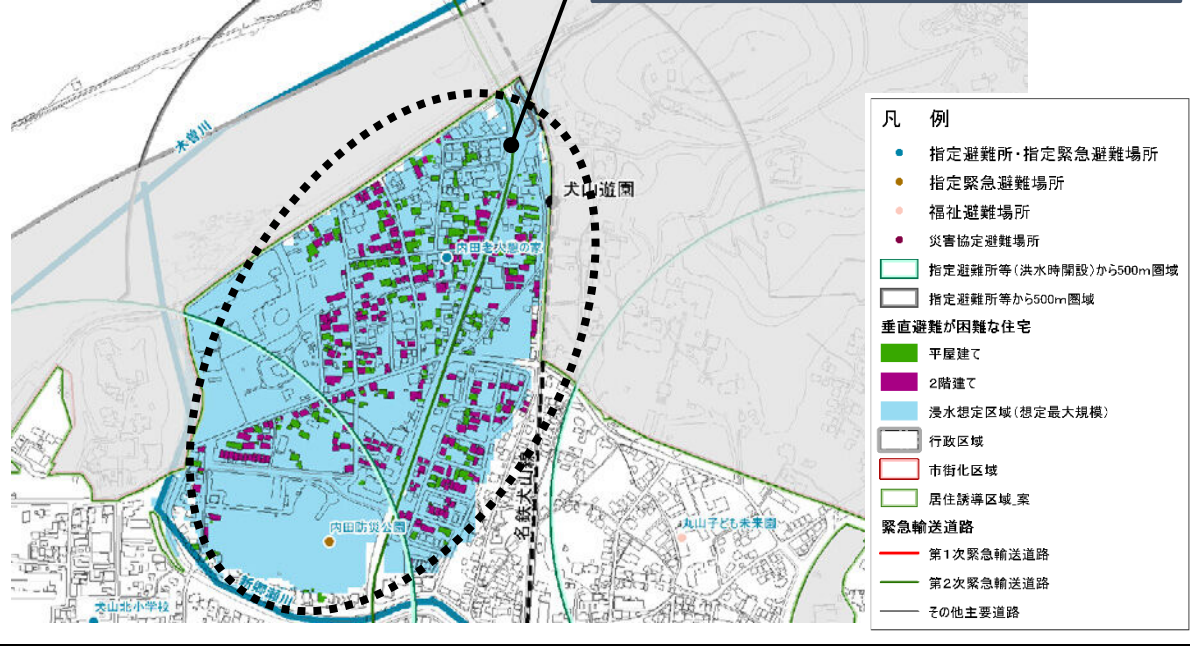
計画規模(L1)浸水想定区域（浸水深）× 建物分布（居住誘導区域）

○浸水想定区域がみられる犬山城東側の低地において、垂直避難が困難な平屋建ての住宅が分布しています。



想定最大規模(L2)浸水想定区域（浸水深）× 建物分布（居住誘導区域）

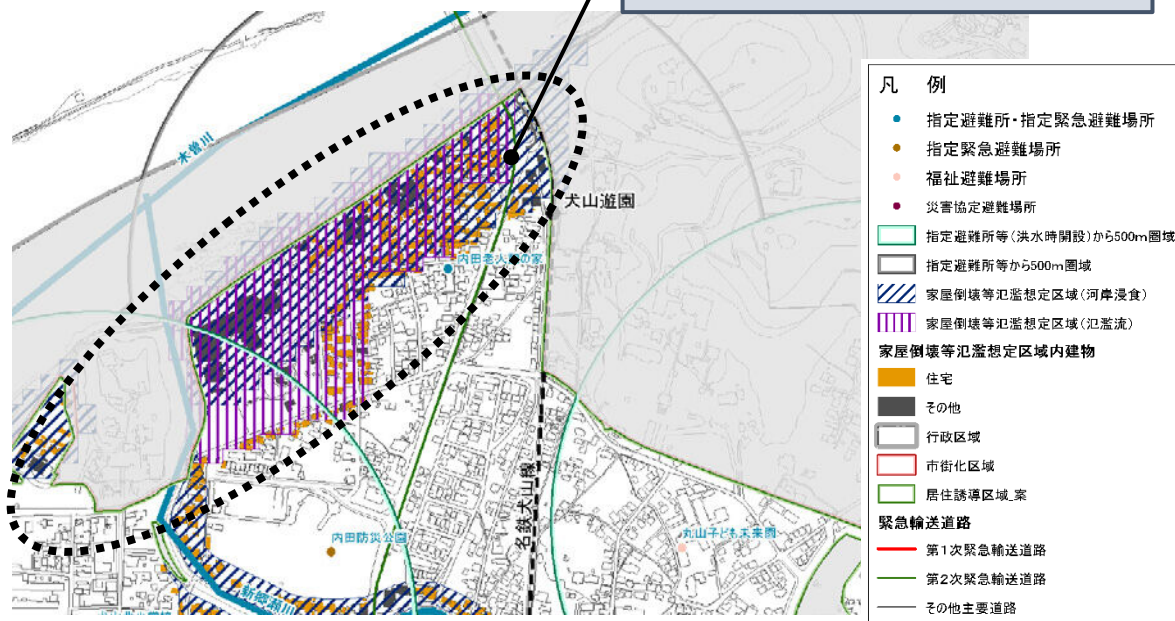
○浸水想定区域が広範囲に及び、犬山城東側の低地から犬山遊園駅周辺において、垂直避難が困難な住宅が数多く分布しています。



災害ハザードと都市情報の重ね合わせ

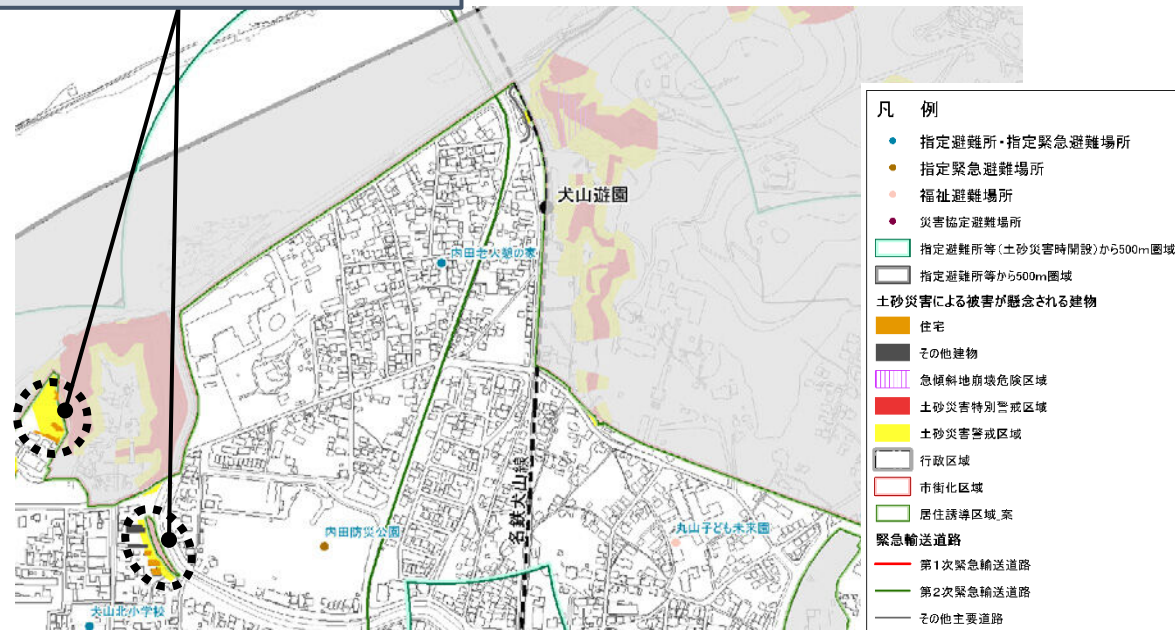
想定最大規模(L2)家屋倒壊等氾濫想定区域 × 建物分布 (居住誘導区域)

○犬山城東側の低地から犬山遊園駅周辺にかけて、河岸侵食、氾濫流により流失・倒壊の懸念がある数多くの家屋が分布しています。



土砂災害(特別)警戒区域・急傾斜地崩壊危険区域 × 建物分布 (居住誘導区域)

○土砂災害(特別)警戒区域内においてわずかに住宅等の立地がみられ、災害リスクが高い状態にあります。



【犬山地区C】

災害ハザードと都市情報の重ね合わせ

計画規模(L1)浸水想定区域（浸水深）× 指定緊急避難場所からの距離（居住誘導区域）

○浸水深 0.5m未満の浸水想定区域が点在して分布していますが、指定緊急避難場所から500m圏外の区域はみられません。



凡 例

- 指定避難所・指定緊急避難場所
- 指定緊急避難場所
- 福祉避難場所
- 災害協定避難場所
- 指定避難所等（洪水時開設）から500m圏域
- 指定避難所等から500m圏域

浸水深（計画規模）

- 20.0m以上
- 10.0～20.0m
- 5.0～10.0m
- 3.0～5.0m
- 2.0～3.0m
- 1.0～2.0m
- 0.5～1.0m
- 0.5m未満

行政区域

市街化区域

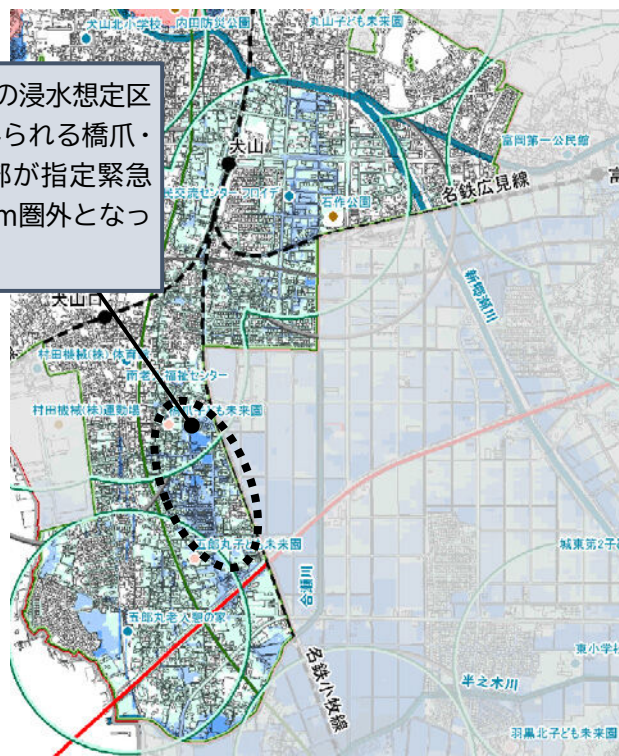
居住誘導区域案

緊急輸送道路

- 第1次緊急輸送道路
- 第2次緊急輸送道路
- その他主要道路

想定最大規模(L2)浸水想定区域（浸水深）× 指定緊急避難場所からの距離（居住誘導区域）

○浸水深0.5m以上の浸水想定区域がまとってみられる橋爪・五郎丸地区の一部が指定緊急避難場所から500m圏外となっています。



凡 例

- 指定避難所・指定緊急避難場所
- 指定緊急避難場所
- 福祉避難場所
- 災害協定避難場所
- 指定避難所等（洪水時開設）から500m圏域
- 指定避難所等から500m圏域

洪水浸水想定区域（想定最大規模）

- 20.0m以上
- 10.0～20.0m
- 5.0～10.0m
- 3.0～5.0m
- 2.0～3.0m
- 1.0～2.0m
- 0.5～1.0m
- 0.5m未満

行政区域

市街化区域

居住誘導区域案

緊急輸送道路

- 第1次緊急輸送道路
- 第2次緊急輸送道路
- その他主要道路

災害ハザードと都市情報の重ね合わせ

計画規模(L1)浸水想定区域（浸水深）× 建物分布（居住誘導区域）

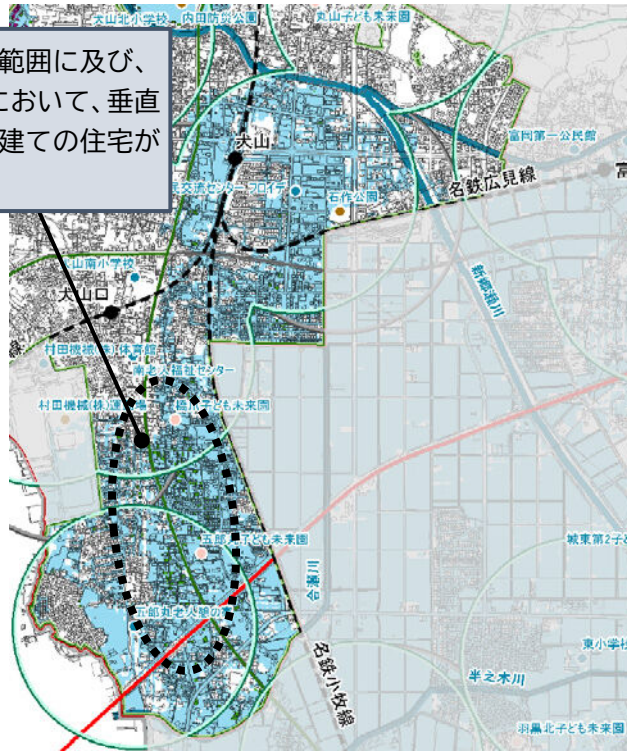
○浸水想定区域において、垂直避難が困難な住宅はみられません。



- 凡 例
- 指定避難所・指定緊急避難場所
 - 指定緊急避難場所
 - 福祉避難場所
 - 災害協定避難場所
 - 指定避難所等(洪水時開設)から500m圏域
 - 指定避難所等から500m圏域
 - 垂直避難が困難な住宅
 - 平屋建て
 - 2階建て
 - 浸水想定区域(計画規模)
 - 行政区域
 - 市街化区域
 - 居住誘導区域案
 - 緊急輸送道路
 - 第1次緊急輸送道路
 - 第2次緊急輸送道路
 - その他主要道路

想定最大規模(L2)浸水想定区域（浸水深）× 建物分布（居住誘導区域）

○浸水想定区域が広範囲に及び、橋爪・五郎丸地区において、垂直避難が困難な平屋建ての住宅が分布しています。

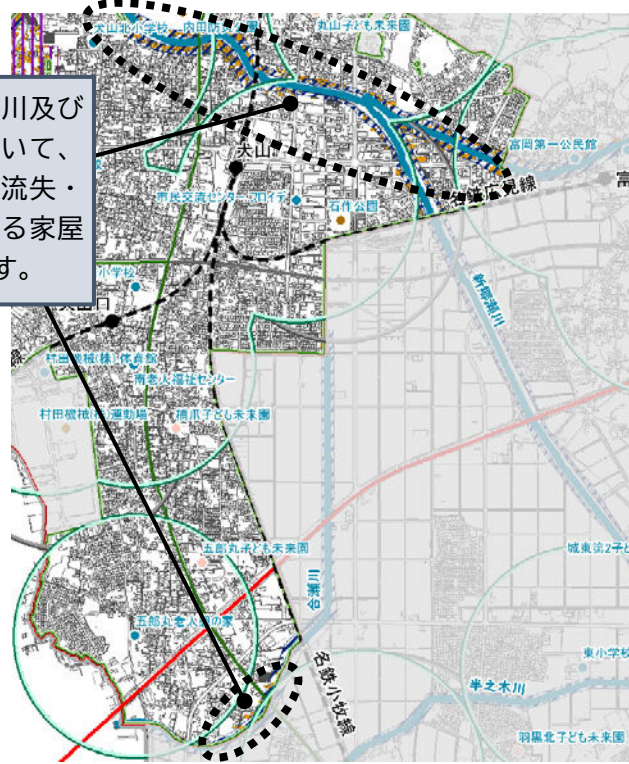


- 凡 例
- 指定避難所・指定緊急避難場所
 - 指定緊急避難場所
 - 福祉避難場所
 - 災害協定避難場所
 - 指定避難所等(洪水時開設)から500m圏域
 - 指定避難所等から500m圏域
 - 垂直避難が困難な住宅
 - 平屋建て
 - 2階建て
 - 浸水想定区域(想定最大規模)
 - 行政区域
 - 市街化区域
 - 居住誘導区域案
 - 緊急輸送道路
 - 第1次緊急輸送道路
 - 第2次緊急輸送道路
 - その他主要道路

災害ハザードと都市情報の重ね合わせ

想定最大規模(L2)家屋倒壊等氾濫想定区域 × 建物分布 (居住誘導区域)

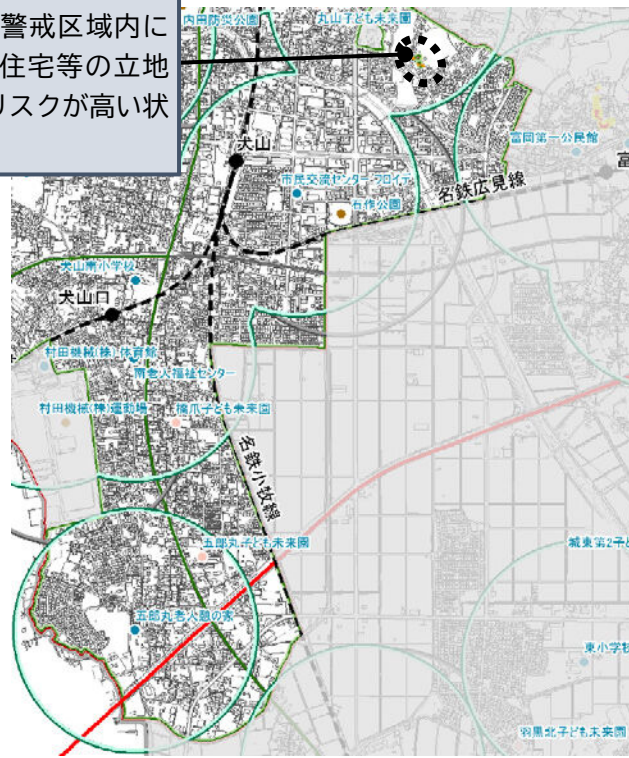
○郷瀬川、新郷瀬川及び合瀬川の沿岸において、河岸侵食により流失・倒壊の懸念がある家屋が分布しています。



- 凡例
- 指定避難所・指定緊急避難場所
 - 指定緊急避難場所
 - 福祉避難場所
 - 災害協定避難場所
 - 指定避難所等(洪水時開設)から500m圏域
 - 指定避難所等から500m圏域
 - 家屋倒壊等氾濫想定区域(河岸浸食)
 - 家屋倒壊等氾濫想定区域(氾濫流)
 - 家屋倒壊等氾濫想定区域内建物
 - 住宅
 - その他
 - 行政区域
 - 市街化区域
 - 居住誘導区域(案)
 - 緊急輸送道路
 - 第1次緊急輸送道路
 - 第2次緊急輸送道路
 - その他主要道路

土砂災害(特別)警戒区域・急傾斜地崩壊危険区域 × 建物分布 (居住誘導区域)

○土砂災害(特別)警戒区域内においてわずかに住宅等の立地がみられ、災害リスクが高い状態にあります。



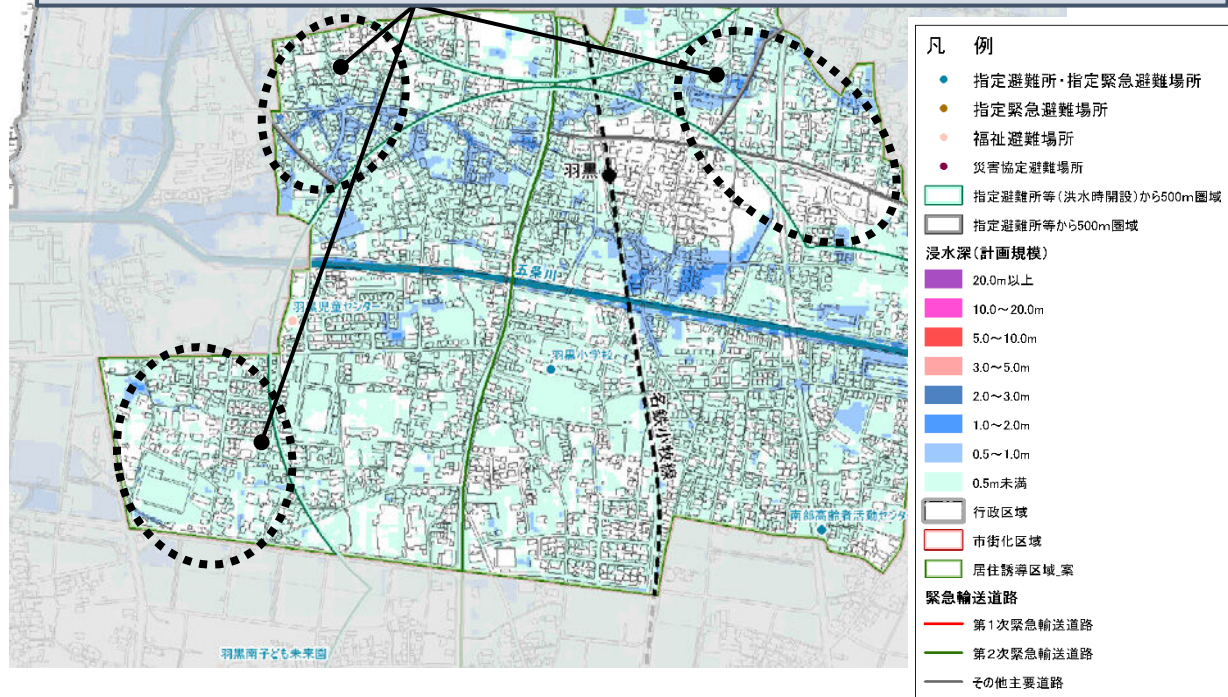
- 凡例
- 指定避難所・指定緊急避難場所
 - 指定緊急避難場所
 - 福祉避難場所
 - 災害協定避難場所
 - 指定避難所等(土砂災害時開設)から500m圏域
 - 指定避難所等から500m圏域
 - 土砂災害による被害が懸念される建物
 - 住宅
 - その他建物
 - 急傾斜地崩壊危険区域
 - 土砂災害特別警戒区域
 - 土砂災害警戒区域
 - 行政区域
 - 市街化区域
 - 居住誘導区域(案)
 - 緊急輸送道路
 - 第1次緊急輸送道路
 - 第2次緊急輸送道路
 - その他主要道路

【羽黒地区】

災害ハザードと都市情報の重ね合わせ

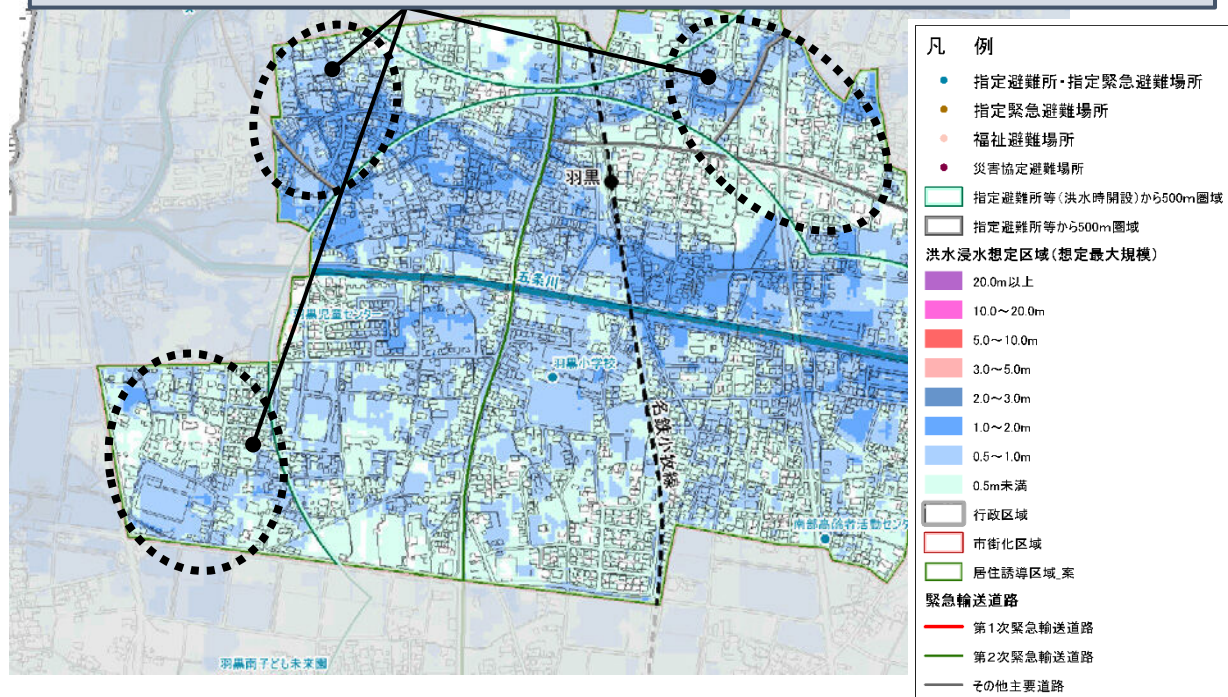
計画規模(L1)浸水想定区域（浸水深）× 指定緊急避難場所からの距離（居住誘導区域）

○浸水深 0.5m未満の浸水想定区域がほぼ全域に及び、一部の区域では指定緊急避難場所から 500m圏外となっています。また、指定緊急避難場所が浸水想定区域に立地しています。



想定最大規模(L2)浸水想定区域（浸水深）× 指定緊急避難場所からの距離（居住誘導区域）

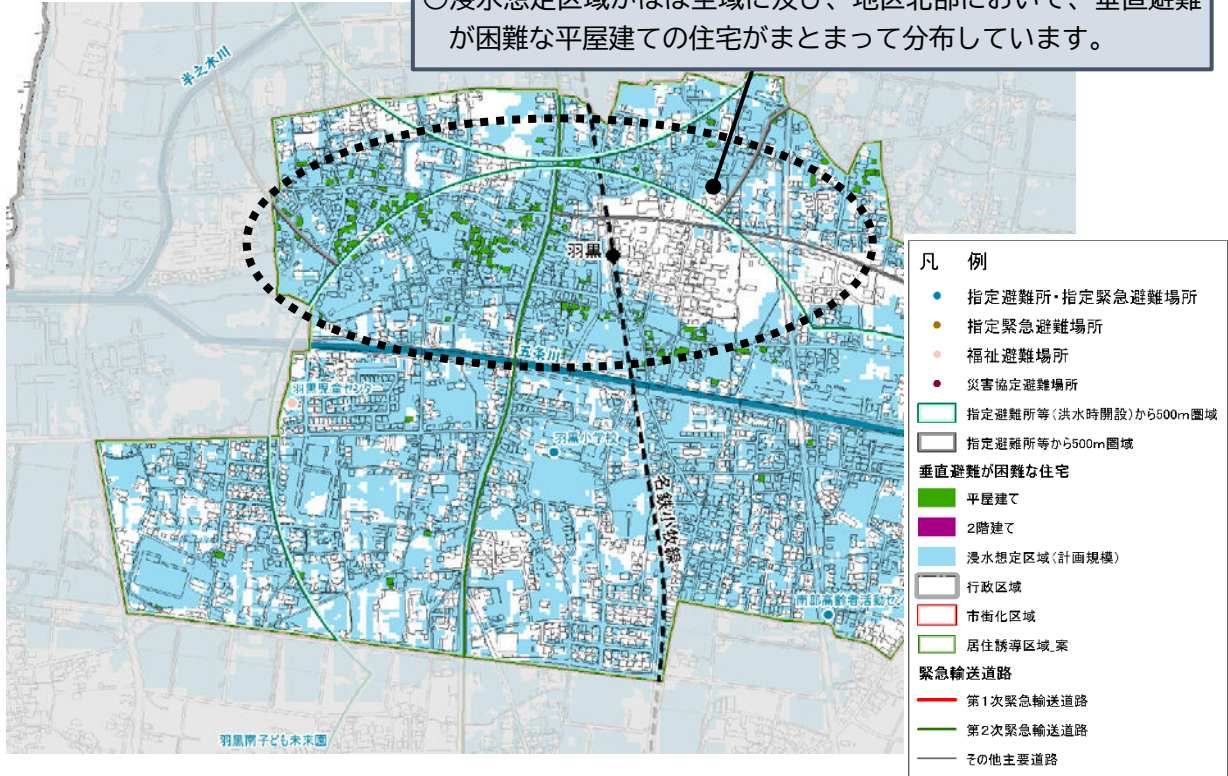
○浸水深 0.5m以上の浸水想定区域がほぼ全域に及び、一部の区域では指定緊急避難場所から 500m圏外となっています。また、指定緊急避難場所が浸水想定区域に立地しています。



災害ハザードと都市情報の重ね合わせ

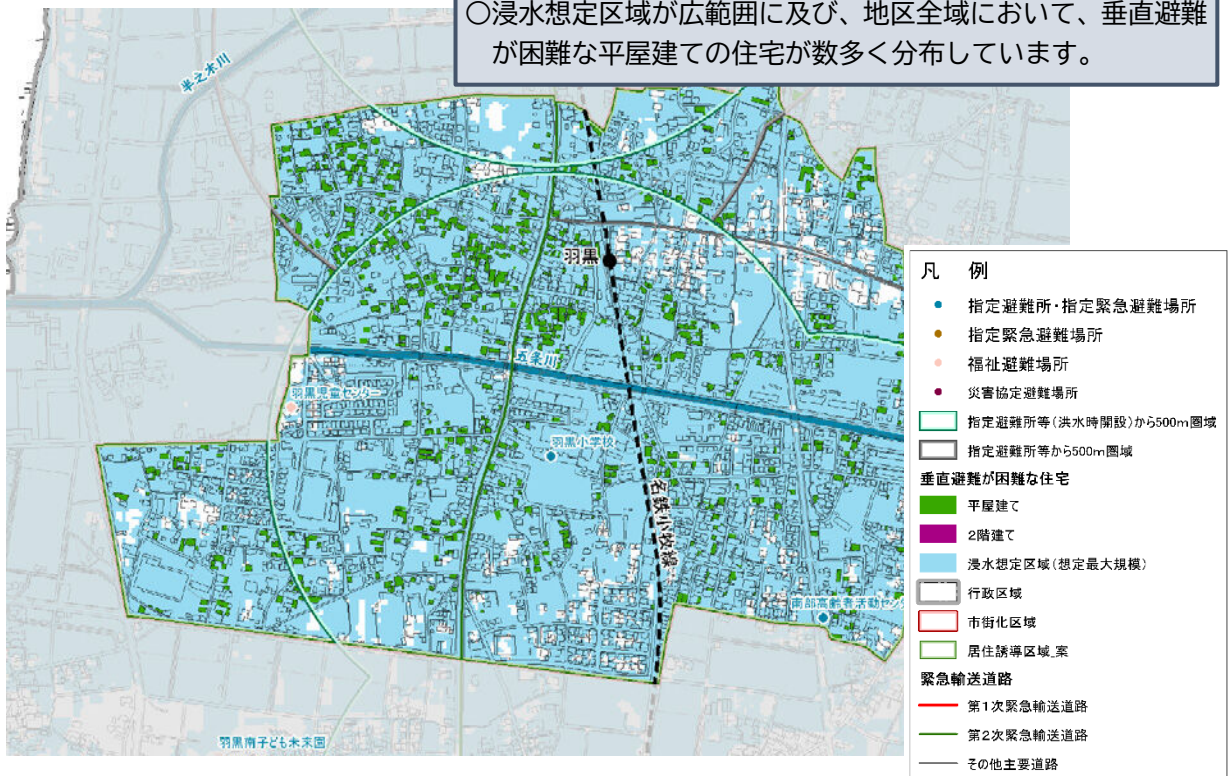
計画規模(L1)浸水想定区域（浸水深）× 建物分布（居住誘導区域）

○浸水想定区域がほぼ全域に及び、地区北部において、垂直避難が困難な平屋建ての住宅がまとまって分布しています。



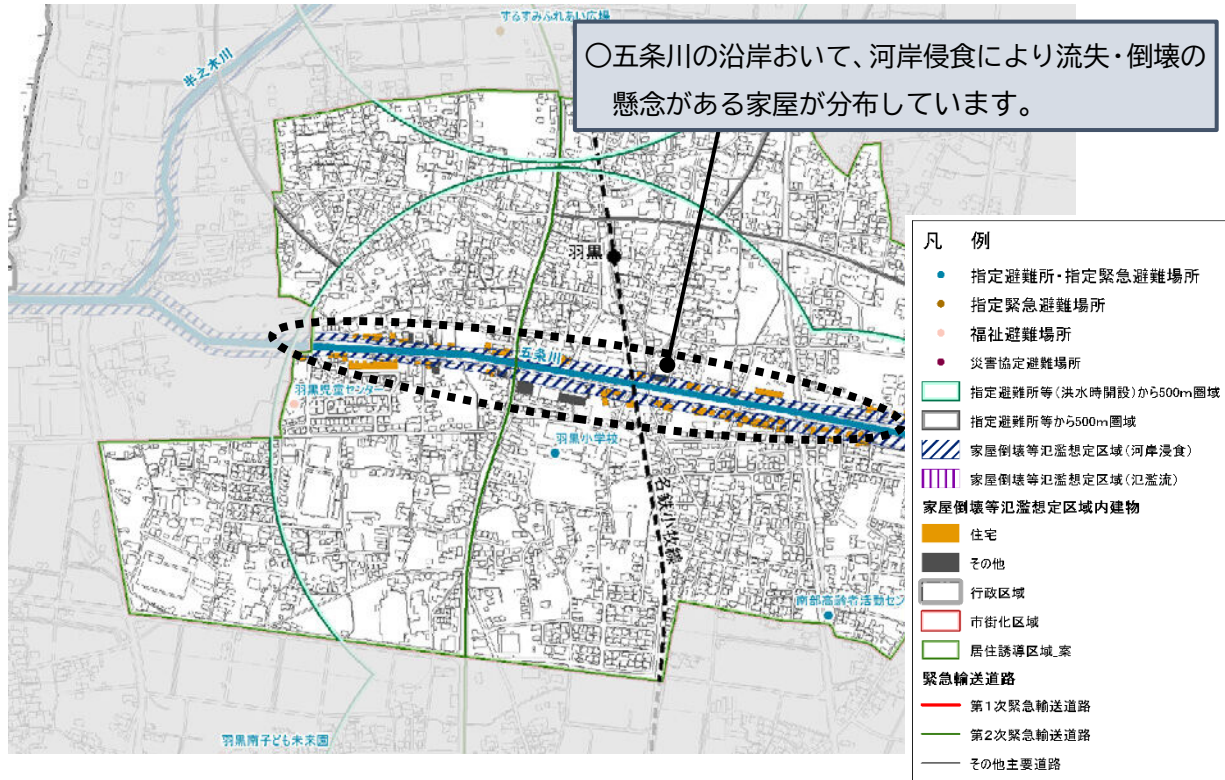
想定最大規模(L2)浸水想定区域（浸水深）× 建物分布（居住誘導区域）

○浸水想定区域が広範囲に及び、地区全域において、垂直避難が困難な平屋建ての住宅が数多く分布しています。

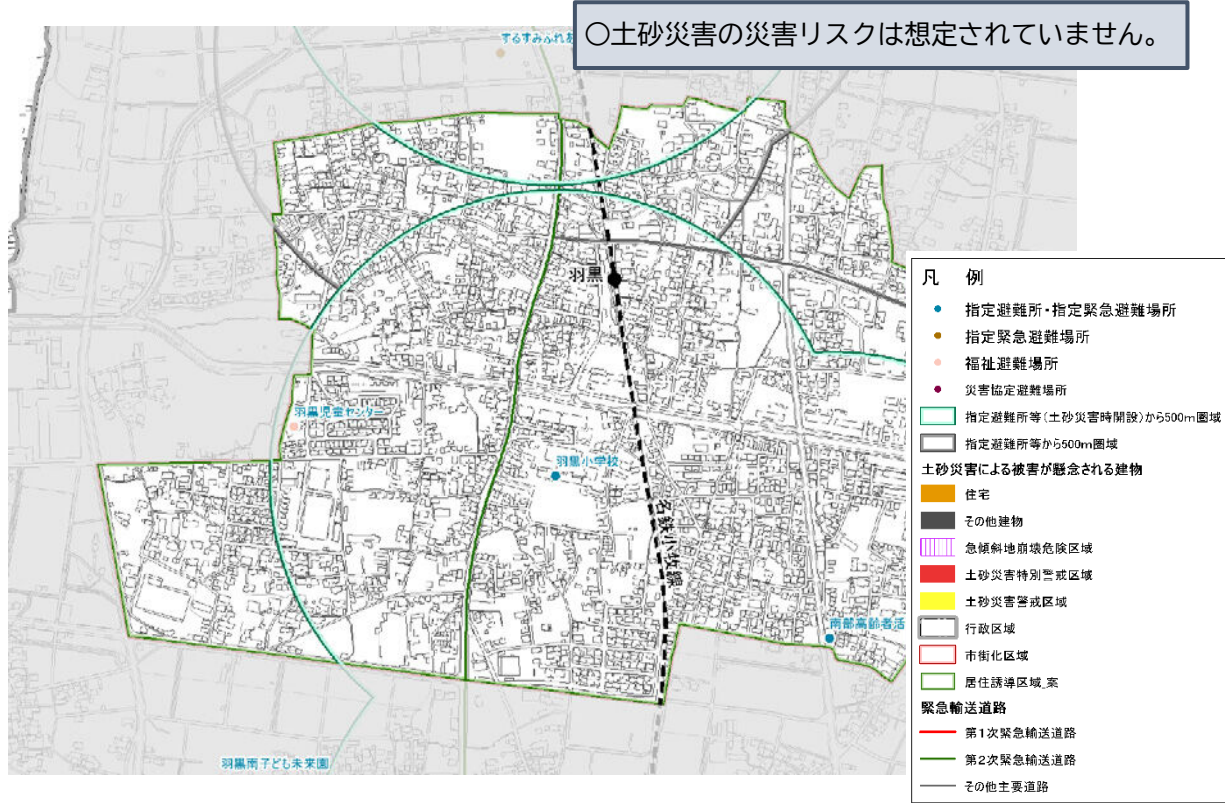


災害ハザードと都市情報の重ね合わせ

想定最大規模(L2)家屋倒壊等氾濫想定区域 × 建物分布 (居住誘導区域)



土砂災害(特別)警戒区域・急傾斜地崩壊危険区域 × 建物分布 (居住誘導区域)

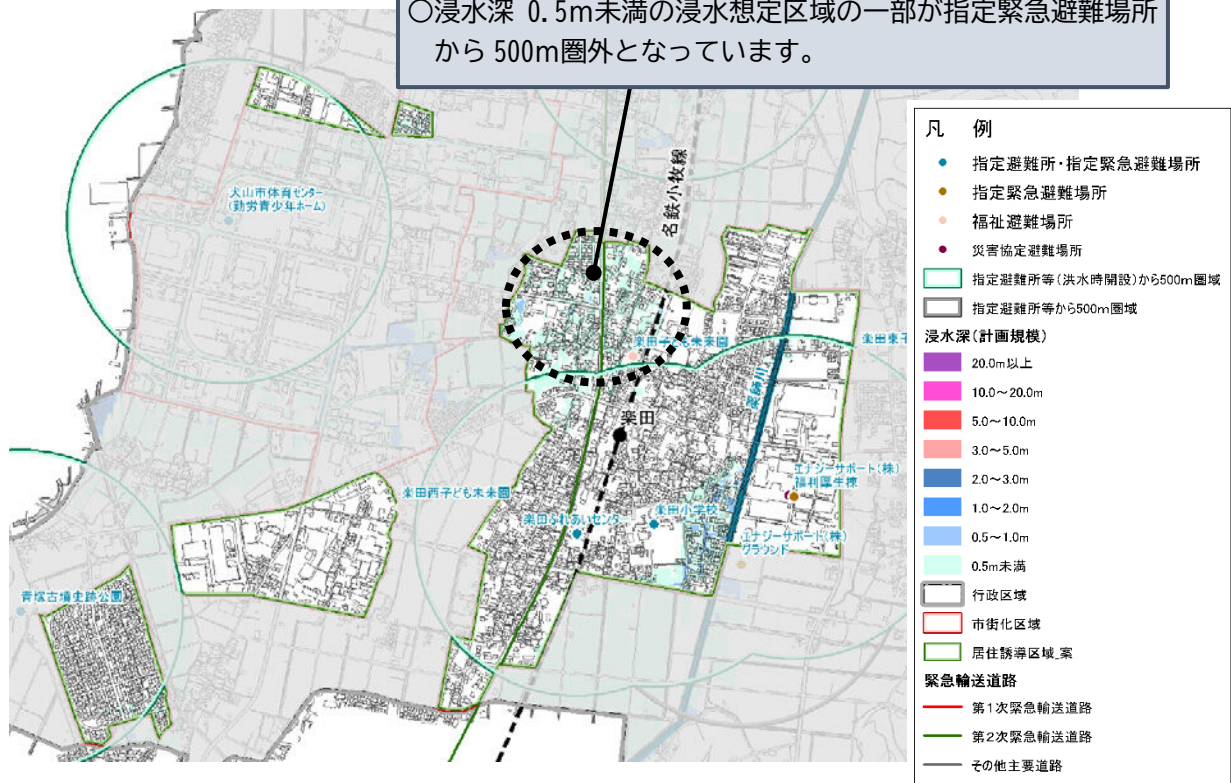


【楽田地区】

災害ハザードと都市情報の重ね合わせ

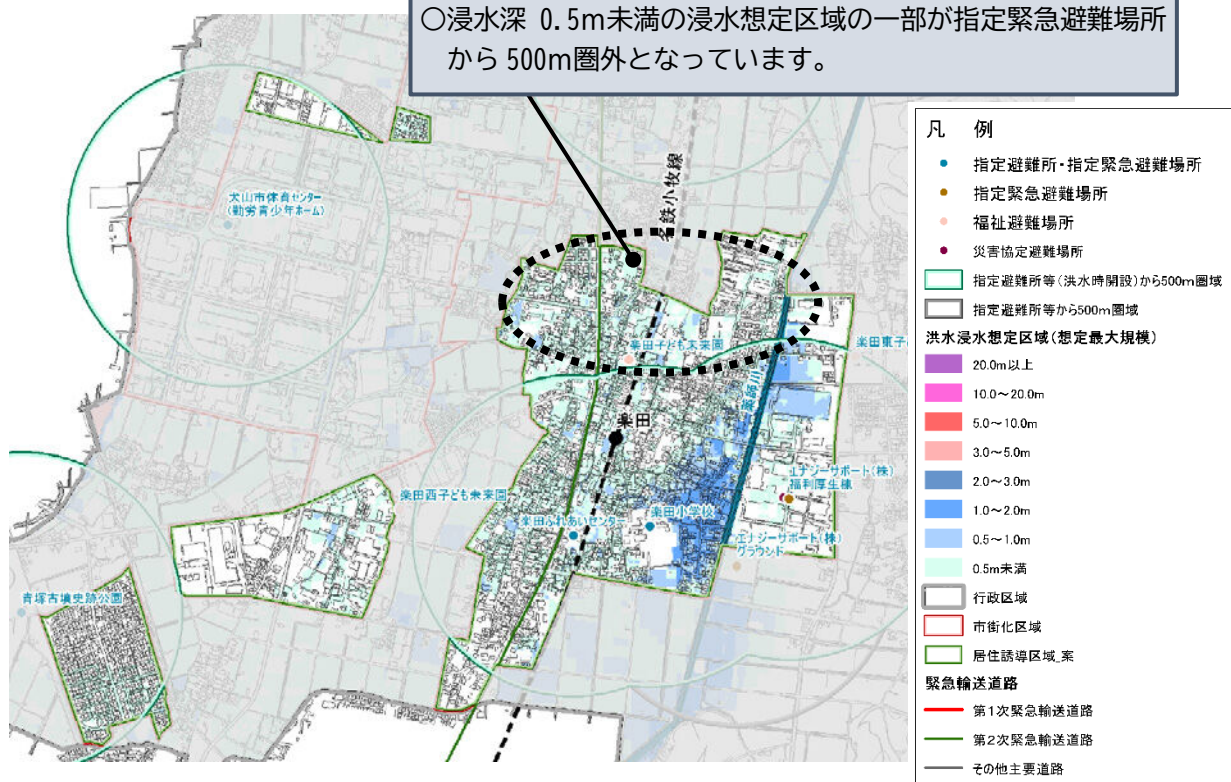
計画規模(L1)浸水想定区域（浸水深）× 指定緊急避難場所からの距離（居住誘導区域）

○浸水深 0.5m未満の浸水想定区域の一部が指定緊急避難場所から500m圏外となっています。



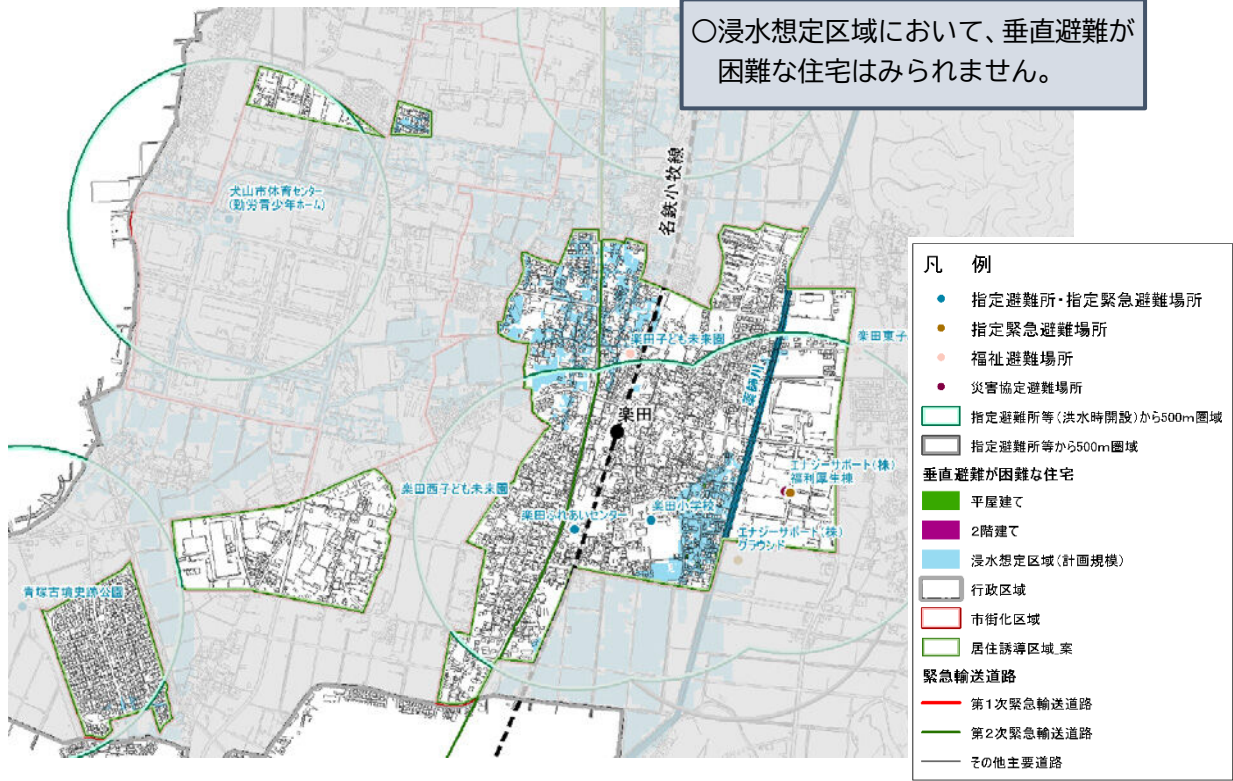
想定最大規模(L2)浸水想定区域（浸水深）× 指定緊急避難場所からの距離（居住誘導区域）

○浸水深 0.5m未満の浸水想定区域の一部が指定緊急避難場所から500m圏外となっています。

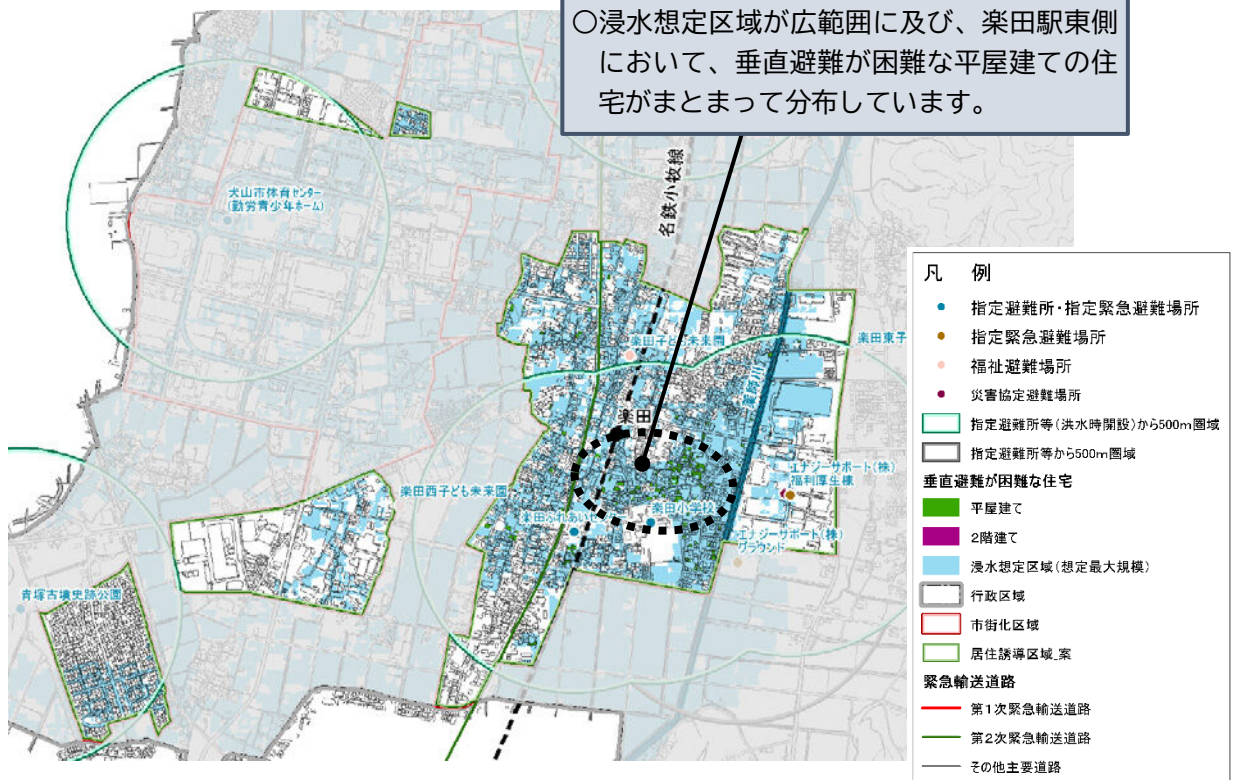


災害ハザードと都市情報の重ね合わせ

計画規模(L1)浸水想定区域(浸水深) × 建物分布(居住誘導区域)

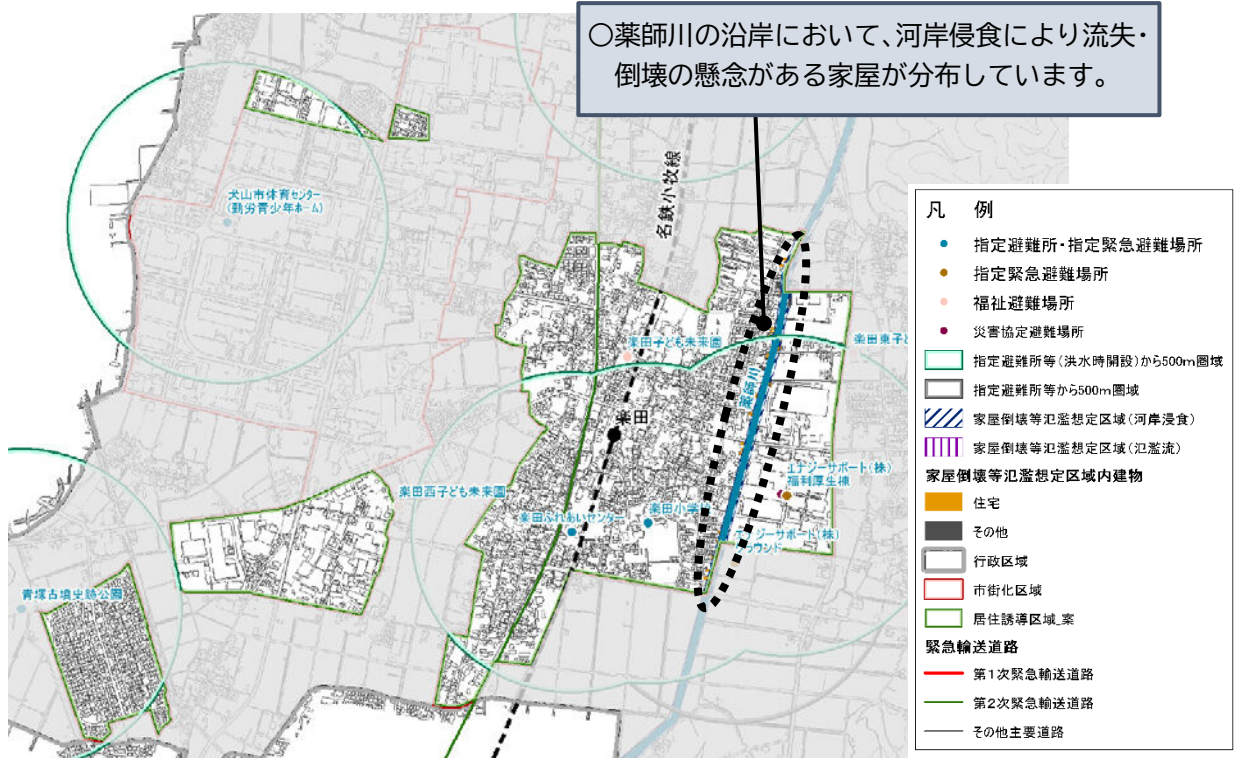


想定最大規模(L2)浸水想定区域(浸水深) × 建物分布(居住誘導区域)

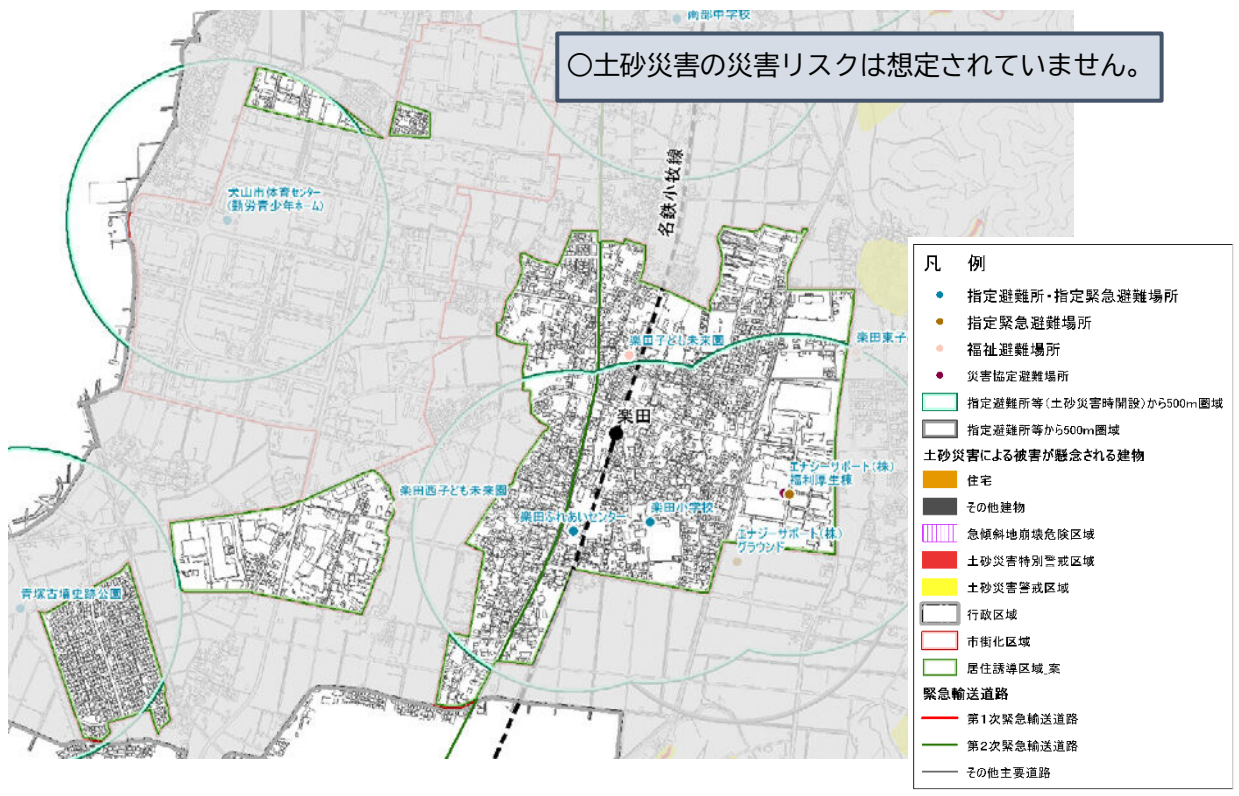


災害ハザードと都市情報の重ね合わせ

想定最大規模(L2)家屋倒壊等氾濫想定区域 × 建物分布 (居住誘導区域)



土砂災害(特別)警戒区域・急傾斜地崩壊危険区域 × 建物分布 (居住誘導区域)

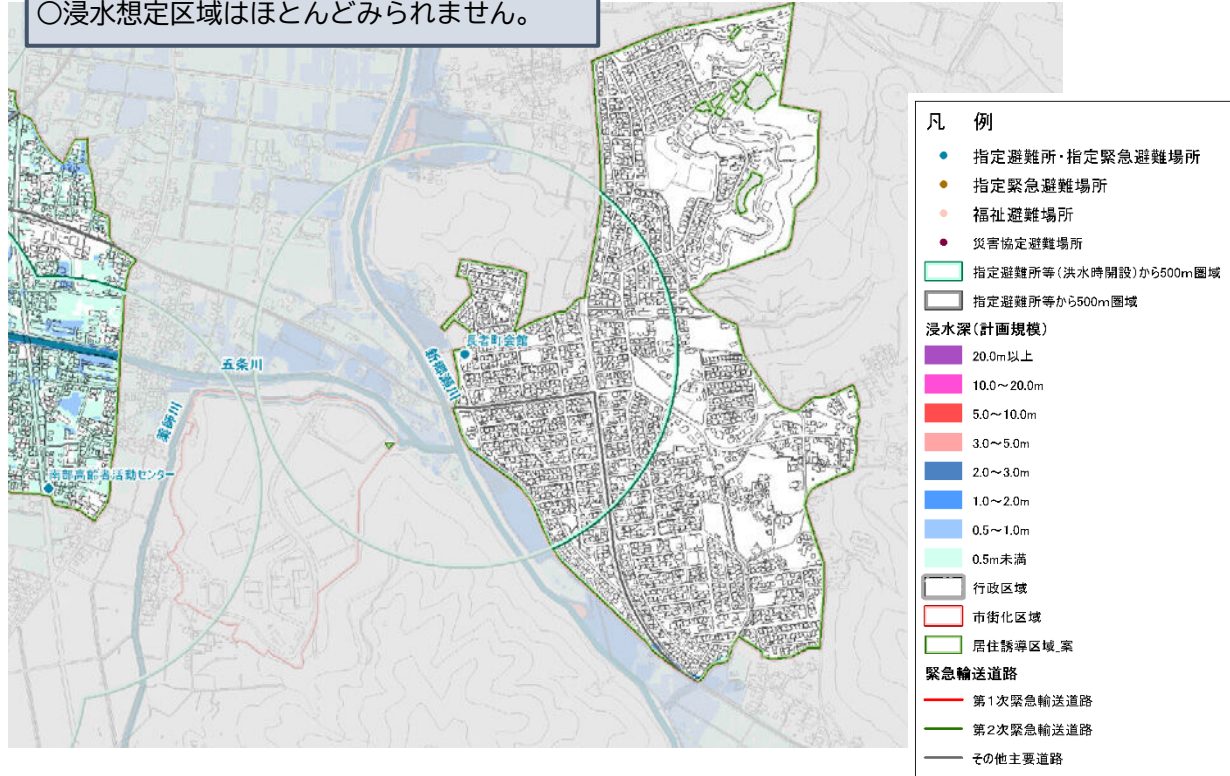


【長者町・緑ヶ丘地区】

災害ハザードと都市情報の重ね合わせ

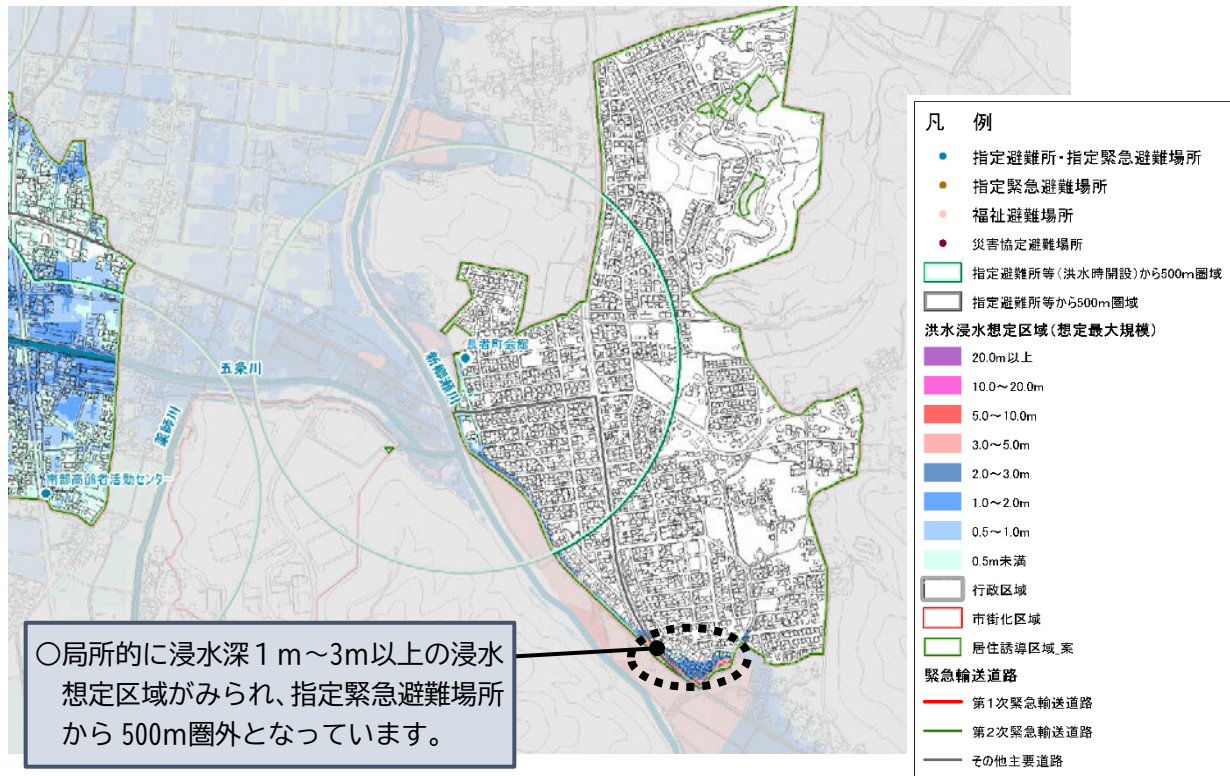
計画規模(L1)浸水想定区域（浸水深）× 指定緊急避難場所からの距離（居住誘導区域）

○浸水想定区域はほとんどみられません。



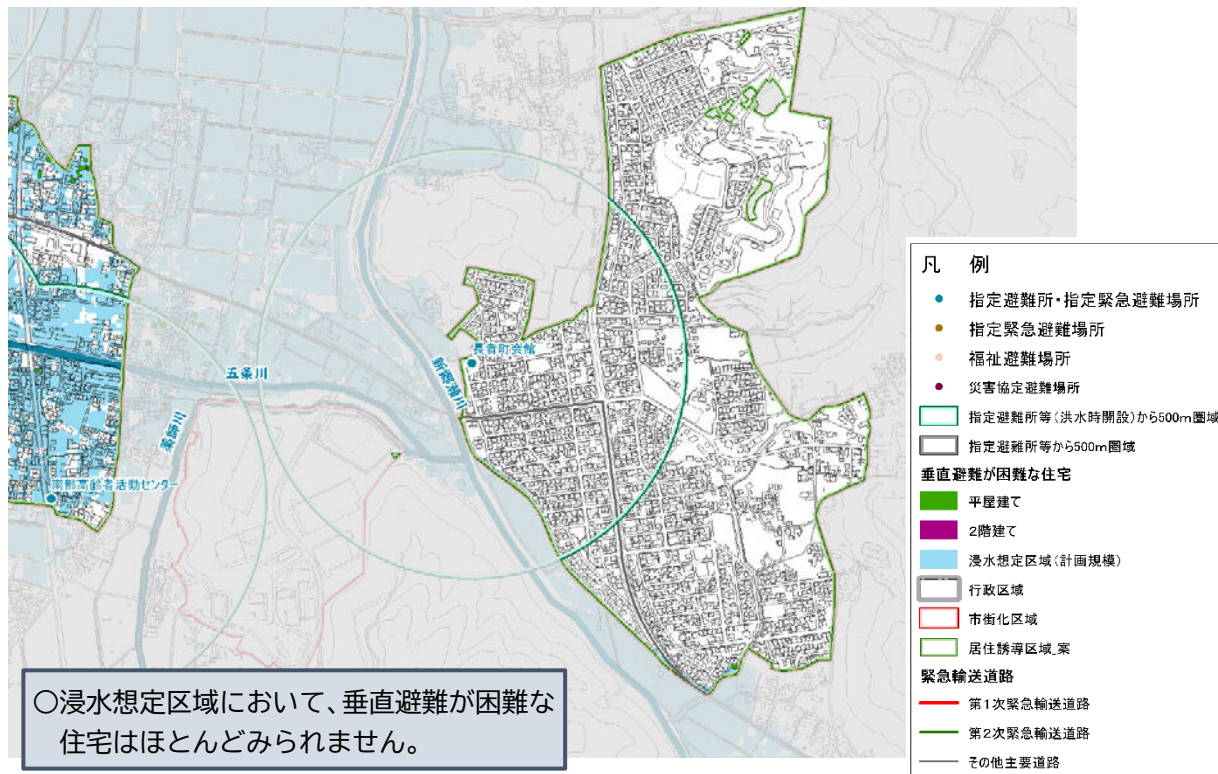
想定最大規模(L2)浸水想定区域（浸水深）× 指定緊急避難場所からの距離（居住誘導区域）

○局所的に浸水深1m～3m以上の浸水想定区域がみられ、指定緊急避難場所から500m圏外となっています。

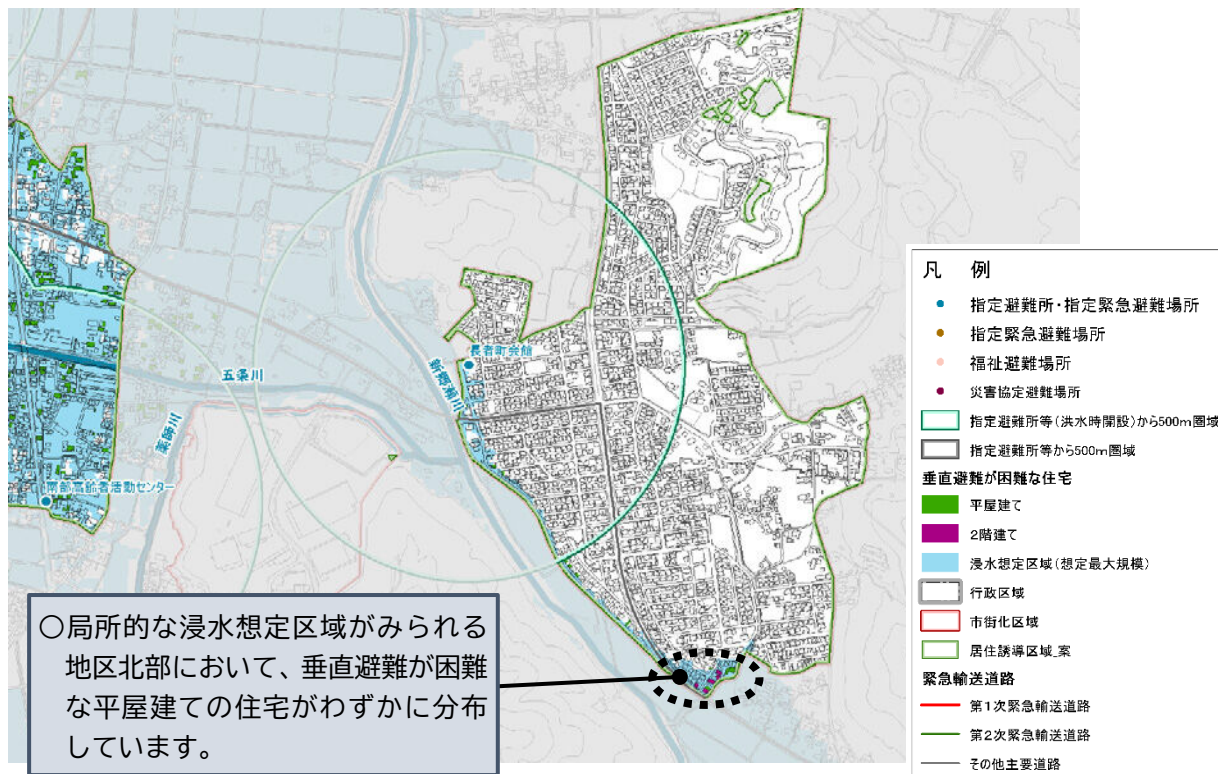


災害ハザードと都市情報の重ね合わせ

計画規模(L1)浸水想定区域（浸水深）× 建物分布（居住誘導区域）



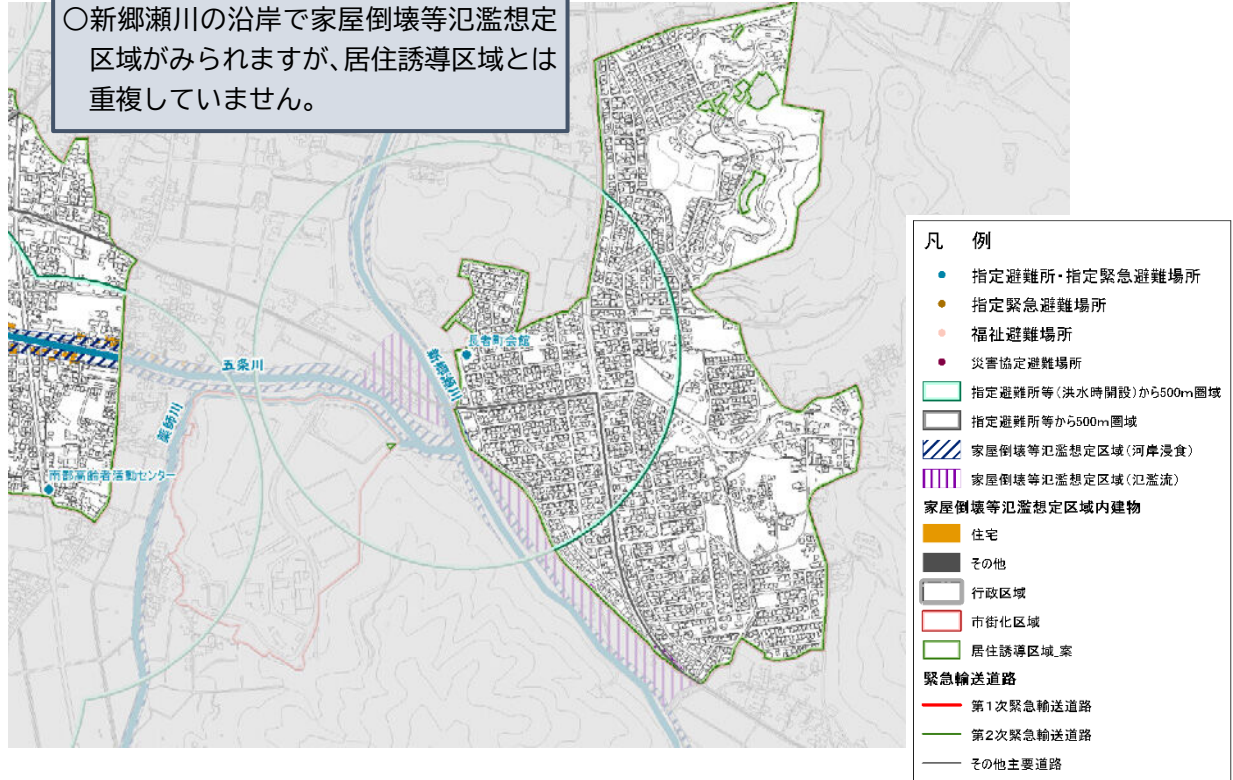
想定最大規模(L2)浸水想定区域（浸水深）× 建物分布（居住誘導区域）



災害ハザードと都市情報の重ね合わせ

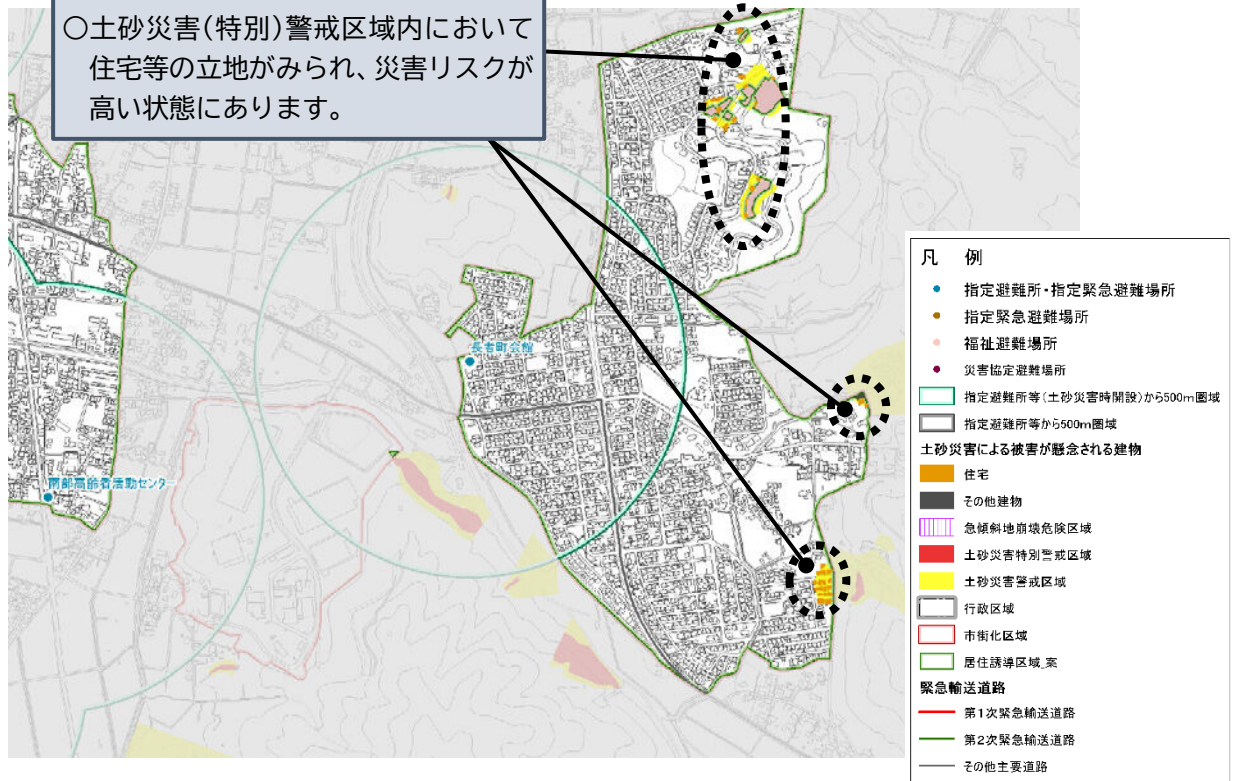
想定最大規模(L2)家屋倒壊等氾濫想定区域 × 建物分布 (居住誘導区域)

○新郷瀬川の沿岸で家屋倒壊等氾濫想定区域がみられますが、居住誘導区域とは重複していません。



土砂災害(特別警戒区域・急傾斜地崩壊危険区域) × 建物

○土砂災害(特別)警戒区域内において住宅等の立地がみられ、災害リスクが高い状態にあります。



(4) 防災上の課題の整理

以上より、災害リスクごとの課題と、それらの課題がある地区を整理します。なお、太字となっている地区は、居住誘導区域に当該災害リスクがあることを示しています。

洪水（外水氾濫）

課題① 洪水被害を防止、軽減する河川改修等が必要

課題② 洪水から身を守る警戒避難体制の整備と防災意識の向上が必要

課題③ 避難場所や避難路の確保が必要

課題④ 農地など遊水機能を持つ土地の適切な保全が必要

…犬山地区A・B・C、羽黒地区、楽田地区、長者町・緑ヶ丘地区、池野地区

木曾川や新郷瀬川などにおいて、これまで局所的な河川越水による床上・床下浸水等の被害はあるものの、広範囲に甚大な被害をもたらすような浸水被害は発生していません。

比較的頻度の高い計画規模（L1）の降雨による洪水が発生した場合は、人口が集積する市街地、居住誘導区域においても浸水が想定されており、そのほとんどで0.5m未満の浸水深となっていますが、局所的に1.0m以上の浸水深がみられ、垂直避難が困難な平屋建ての住宅も分布しています。

今後の発生頻度は低いものの、最大想定規模（L2）の降雨による洪水が発生した場合は、居住誘導区域の広範囲で1.0m以上の浸水が想定されており、特に木曾川の沿岸やその下流側で2階建て家屋での垂直避難が困難となる3.0mを超える浸水深となる区域が広がり、甚大な被害が想定されます。また、それらの浸水が想定される区域において、指定緊急避難所から500m以上の距離がある区域があることや、浸水被害の懸念から同避難所が開設されないところもあります。

近年、頻発化、激甚化する洪水リスクに対しては、浸水想定区域を全て居住誘導区域から除外するなど長期的な視点でリスクを回避することも考えられますが、これまでの都市を形成してきた背景や今後の都市づくりの観点から現実的ではありません。

洪水リスクに備えるためには、洪水被害を防止、軽減する河川改修といった従来のハード対策のほか、浸水想定を踏まえた避難場所や避難路の確保、地域を主体とした警戒避難体制の整備・強化、防災意識の向上などハードとソフトを組み合わせた対策が必要です。また、河川沿いの農地など遊水機能を有する土地の適切な保全も必要です。

洪水（河岸浸食・氾濫流）

課題① 立ち退き避難を前提とした警戒避難体制の整備や防災意識の向上が必要

課題② 災害が発生した際のことを想定した復興体制づくりが必要

…犬山地区A・B・C、羽黒地区、楽田地区、長者町・緑ヶ丘地区、栗栖地区

想定最大規模（L2）の降雨による洪水により、木曾川や郷瀬川、五条川などの河川沿いにおいて、河岸浸食、氾濫流により家屋が流失・倒壊する危険性が懸念される家屋倒壊等氾濫想定区域が示されています。

こうした区域では、立ち退き避難を前提とした警戒避難体制や防災意識の向上を図りつつ、広い範囲で家屋が流失・倒壊することが想定されるため、早期に的確な復興まちづくりに着手できるような体制づくりが必要です。

雨水出水（内水氾濫）：想定最大規模

課題① 内水氾濫から身を守るための警戒避難体制の整備や防災意識の向上が必要

課題② 雨水排水施設等の整備が必要

…全地区

降雨により排水が追い付かず、地上に溜まる雨水出水は、居住誘導区域を含む市街地や平地部にある農地、住宅団地、集落地の広い範囲で浸水が想定されており、そのほとんどが 0.5m 未満の浸水深となっていますが、局所的に 0.5m 以上の浸水深がみられ、床上浸水の懸念があります。また、過去の豪雨発生時には、市内各所で床下浸水が発生しています。

内水氾濫への対応は、浸水想定を踏まえ雨水排水施設等の整備といったハード対策に加え、警戒避難体制の整備や防災意識の向上が必要です。

入鹿池

課題① 老朽化対策等による堤体の健全性の維持が必要

課題② 万が一の事態から身を守るための防災意識の向上が必要

…羽黒地区、楽田地区、長者町・緑ヶ丘地区、池野地区

地震等により入鹿池（満水時）の堤防が破堤した場合は、羽黒地区の市街地や同地区の平地部にある農地、住宅団地、集落地の広い範囲で浸水が想定されており、そのほとんどが 1.0m ～2.0m 以上の浸水深となり、多くの床上浸水が懸念されます。また、入鹿池に近い低地においては、10m を超える浸水深もみられます。ただし、入鹿池は、学識経験者らで構成する「入鹿池耐震性検証委員会(2012～2014 年度)」において、「想定される大規模地震(南海トラフ地震等)に対し、耐震性能を有している」ことが確認されています。

しかし、引き続き堤体の健全性を維持することや万が一の事態に備えた警戒避難体制の整備と防災意識の向上を図ることが必要です。

土砂災害

課題① 身を守るための避難対策、防災意識の向上が必要

課題② 危険箇所における土砂崩壊を防備する施設整備や住宅等の安全対策が必要

…犬山地区 A・B・C、楽田地区、長者町・緑ヶ丘地区、栗栖地区、善師野地区、今井地区、池野地区

土砂災害警戒(特別警戒)区域等は、東部の丘陵地を中心に広い範囲で指定されており、住宅等が立地する区域にもみられます。また、居住誘導区域にある傾斜地でもごく一部が同区域に指定されています。

土砂災害への対応は、まずは、身を守るための警戒避難体制の整備と防災意識の向上が必要です。また、土砂崩壊を防備する施設整備や住宅等の安全対策といったハード対策も必要です。

地震

課題① 建物倒壊等の 2 次被害を防止する対策が必要

…全地区

南海トラフ地震（過去地震最大モデル）が発生した場合は、本市全域で概ね震度 5 強の揺れが想定されており、古くからの木造住宅が密集するなど地震に対して脆弱な地区が存在します。

地震は、地震動が直接的に人命に危機を及ぼすことは少なく、建物等への建物倒壊や火災等の 2 次被害を予防し、被害を軽減する対策が必要です。

(5) 防災まちづくりの基本方針、取組方針の検討

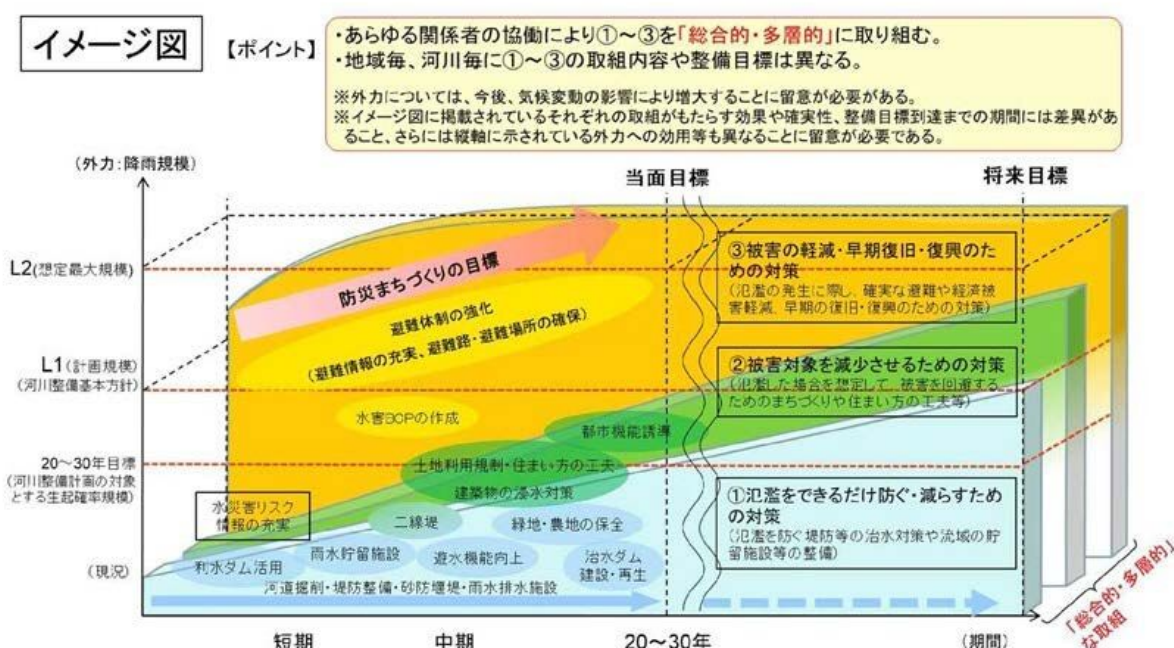
①防災まちづくりの基本方針

本市では、犬山市都市計画マスタープランにおいて「安全で快適な暮らしを支え 多様な『住まい方』『働き方』を実現する 人中心の都市づくり」を基本理念に掲げ、持続可能な都市の実現に向けて、防災まちづくりは本市にとって重要な都市課題の一つでもあります。

近年、激甚化・頻発化する豪雨災害をはじめ、毎年多くの都市で災害が発生している状況の中、幸い本市において甚大な災害は生じていませんが、古くから一定の災害リスクと向き合いながら都市が形成され、発展してきた経緯もあります。

超長期的な観点に立てば、すべての災害リスクを回避し、新たなまちの形成することを将来像とすべきところではありますが、現実的には、既存の居住・都市機能などを最大限に活用し都市の活力を維持することが必要となります。

これらのことを念頭に、人的・物的・財政的資源を有効活用しながら、総合的かつ多層的な防災まちづくりの取り組みを徐々に進め、安全で快適なまちの実現を目指すことを基本方針とし、災害リスクに応じた取組方針を定めます。



②取組方針の考え方

既存の居住地においては、多くの人の生活やこれまで長い年月をかけて整備をしてきた都市基盤があり、これらを見捨てて全ての災害リスクを回避することは極めて困難です。

そこで、本市においては、一定の災害リスクを回避する取り組みと、災害リスクへのハード・ソフトの防災・減災対策を組み合わせながら被害を低減する取り組みを実施していく必要があります。

以降では、前段で整理・分析した災害リスクごとの課題に対する取組方針等を定めます。

③災害リスクごとの取組方針

種別	取組方針	具体的な取り組み
共通	<p>◇想定される災害リスクの周知徹底</p> <p>◇地域の特性を踏まえた市民等との協働による警戒避難体制の整備・強化</p>	<p>リスクの低減【ハード】 リスクの低減（ソフト）</p> <p>■災害の種類に応じた適切なハザード情報の周知啓発</p> <ul style="list-style-type: none"> 最新の被害予想（想定）区域等が公表（作成）されたときは、速やかにハザードマップを作成し、住民等への周知啓発を行います。また、災害の特性に応じ、住民説明会の開催や避難訓練の指導など住民の防災意識向上に努めます。 <p>■地域防災力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域の防災力を向上させるため、自主防災組織等による防災訓練・初期消火訓練や、事業所における防災訓練・消防訓練を充実・強化に努めます。 住民主体の実践的な防災訓練を自ら企画・運営する中で防災コミュニティの醸成を図る取り組みを推進します。 <p>■避難場所及び避難路の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> 指定された避難場所に避難することが困難な地区では、早めの避難措置が講じられるよう施設管理者等と連携した警戒情報の把握と早期の情報伝達に努めます。また、被害想定区域外への避難だけでなく想定区域内の安全な場所への避難を組み合わせた避難環境の確保に努めます。 徒歩を基本に、車での避難も想定した安心・安全な避難路を確保するため、狭あいな生活道路の改善や都市計画道路等の整備を推進します。また、避難所等への誘導や浸水深を示す標識の設置等に取り組みます。 <p>■人材の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> 自主防災活動の活性化の一助となることを期待し、継続して計画的に「防災人材」を養成します。また、児童・学校・自治会が連携した地域における防災活動を推進します。 <p>■効果的な教育・啓発等の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 防災知識を普及させるため、住民、教育機関、企業等へ出前講座を実施します。 <p>■地区防災計画の策定促進</p> <ul style="list-style-type: none"> 自助・共助による地域の自発的な防災活動の促進に向けて、地域住民等が連携した地区防災計画の策定を支援します。 <p>■要配慮者等への支援体制の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> 災害時において避難行動要支援者の安否確認や避難誘導等が円滑に行えるよう、日頃から避難行動要支援者の把握に努めるとともに地域と連携して支援体制の整備に取り組みます。 <p>■事前復旧・復興体制の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> 大規模自然災害が発生した場合に、迅速かつ円滑な復旧、復興に取り組むことができるよう、県と連携して復興体制を検討する取り組みを進めます。

種別	取組方針	具体的な取り組み
洪水	◇国・県・市の連携、協力によるハード、ソフトを組み合わせた浸水対策の推進	リスクの低減【ハード】 リスクの低減（ソフト） ■流域治水対策の推進 ○国・県・市の連携、協力により、木曽川・庄内川流域における河川改修や流水阻害の防止等のハード対策の促進や適切な維持管理に努めるとともに、各河川の施設管理者や流域自治体等によるソフト対策を組み合わせた総合的な流域治水に取り組みます。
	◇土地利用と一体となった浸水対策の検討	リスクの低減（ソフト） ■中長期的な視点に立った土地利用の検討 浸水リスクが高い場所では、地域の合意形成の熟度などに応じて、中長期的な視点に立った土地利用の規制や立地の誘導などの対策を検討します。 ■農地の適切な保全 ・まとまりのある農地は遊水機能を持ち合わせており、市街地や住宅地への浸水を防止することが期待されるため、無秩序な開発を抑制し、適切な保全に努めます。
	◇住宅等における浸水対策の周知啓発や支援制度の研究	リスクの低減（ソフト） ■浸水リスクに対応した住まい方の促進 ・浸水被害を防止、軽減するための対策（宅盤の嵩上げや居室を2階に設けるなど）の周知啓発に努めるとともに、浸水想定を踏まえた住宅の改修、移転等に対する支援制度を研究します。
内水	◇国・県・市の連携、協力によるハード、ソフトを組み合わせた浸水対策の推進	リスクの低減【ハード】 リスクの低減（ソフト） ■流域治水対策の推進 ○国・県・市の連携、協力により、木曽川・庄内川流域における河川改修や流水阻害の防止等のハード対策の促進や適切な維持管理に努めるとともに、各河川の施設管理者や流域自治体等によるソフト対策を組み合わせた総合的な流域治水に取り組みます。
	◇浸水想定や浸水被害の状況を踏まえた段階的な雨水排水施設の整備や雨水の流出抑制施策の推進	リスクの低減【ハード】 リスクの低減（ソフト） ■主要な雨水排水施設の整備 ・下水道施設や下水道以外の主要な排水路による排水能力を維持・強化するため、浸水想定や浸水被害の状況を踏まえた排水施設の整備、改修等を推進します。 ■雨水貯留施設の設置支援・啓発 ・自己の住宅敷地内に雨水貯留施設（雨水タンク、浸透マス等）の設置者に対する支援制度の啓発を行います。

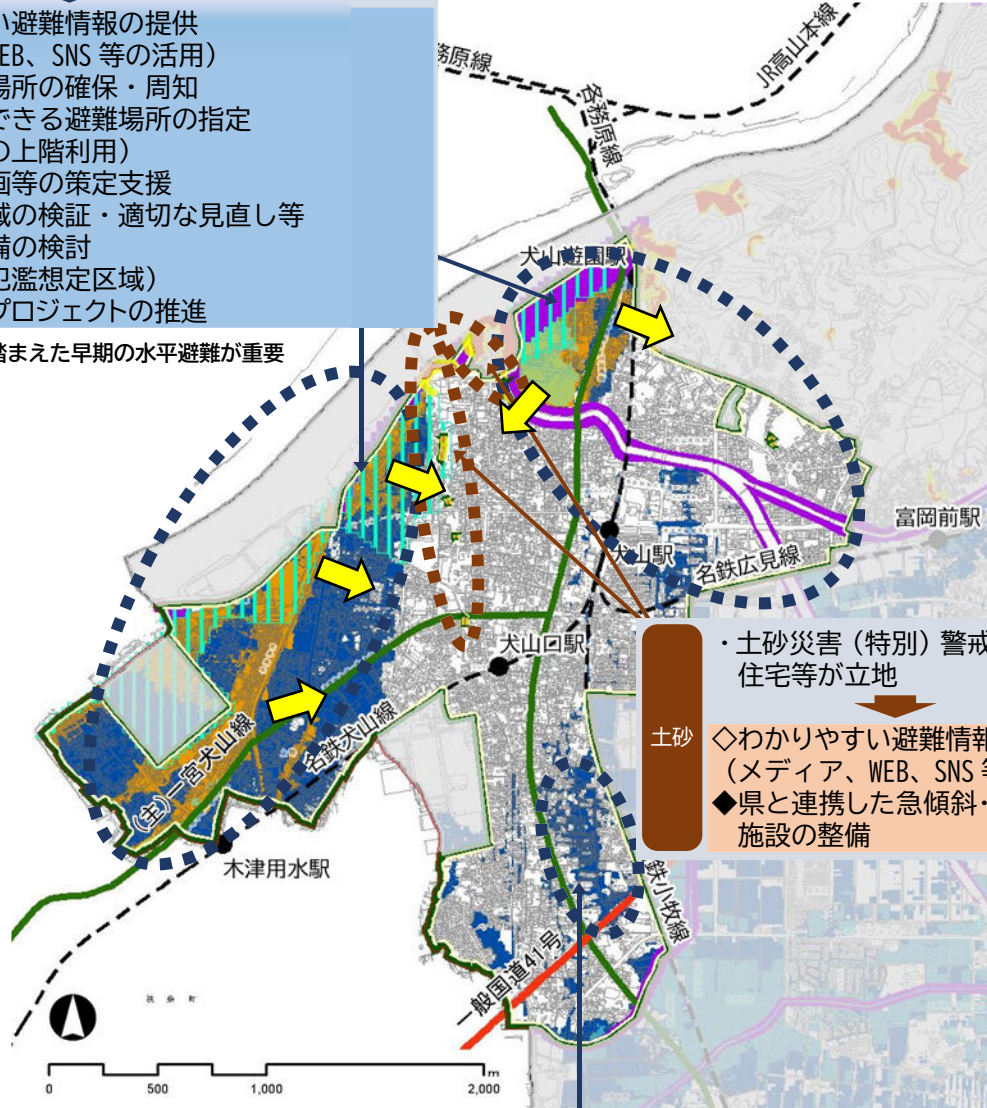
種別	取組方針	具体的な取り組み
入鹿池	◇ため池の適正な保全と多面的機能の活用	<p>リスクの低減【ハード】</p> <p>■ため池の適正な保全・活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農業用ため池は、堤体の健全性を維持しつつ、必要性に応じて老朽化対策等を講じるほか、雨水調整機能などの強化を図ります。
土砂災害	◇土砂災害リスクが高い区域における安全(回避)対策の促進	<p>リスクの回避 リスクの低減【ハード】</p> <p>■土砂災害に対応した住まい方の促進</p> <p>○土砂災害特別警戒区域等では、土地利用を規制・誘導する制度の活用により、住宅等の新規立地の抑制も含めた対策を推進します。また、がけ地近接等危険住宅の移転や改修に伴う費用に対する支援制度(住宅・建築物安全ストック形成事業)の啓発を行います。</p>
		<p>リスクの低減【ハード】 リスクの低減(ソフト)</p> <p>■土砂災害を未然に防止・軽減する対策の促進</p> <p>○土砂災害の未然防止、被害の軽減を図るため、土砂災害警戒区域等の指定による警戒避難体制の整備・強化や県と連携した土砂崩壊を防止する施設の整備を計画的に推進し、災害の防止に努めます。</p>
地震	<p>◇建物・インフラ等の耐震化</p> <p>◇家屋等の倒壊対策や延焼防止対策の促進</p>	<p>リスクの低減【ハード】 リスクの低減(ソフト)</p> <p>■住宅・建築物等の耐震化の促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・建築物耐震改修促進計画に基づき、耐震化の必要性の啓発、耐震診断・耐震改修費の支援対策(住宅・建築物安全ストック形成事業)を推進します。 <p>■火災に強いまちづくりの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難・延焼遮断空間の確保と緊急車両の進入を可能とする狭あい道路の解消を図りつつ、建築物の倒壊・焼失の可能性が高い空き家など老朽建築物の更新、撤去を促進します。 ・消火栓、耐震性防火水槽を計画的に整備するとともに、既設の消防水利の適切な維持管理を行います。 <p>■家具等の転倒防止対策の促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広報紙、防災講話、地域における防災訓練等を通じた家具等の転倒防止対策の啓発について取り組みを強化します。

④災害リスクの状況を踏まえた主な取り組み内容

◆=ハード対策 ◇=ソフト対策

- 洪水**
- ・木曾川が氾濫する危険性がある場合は指定緊急避難場所が開設されない
 - ・浸水想定区域内に指定緊急避難場所が立地 (L2)
 - ・垂直避難が困難な住宅が分布
 - ・家屋倒壊等氾濫想定区域に住宅が立地
- ↓
- ◇わかりやすい避難情報の提供 (メディア、WEB、SNS等の活用)
 - ◇適切な避難場所の確保・周知
 - ◇垂直避難ができる避難場所の指定 (小中学校等の上階利用)
 - ◇地区防災計画等の策定支援
 - ◇居住誘導区域の検証・適切な見直し等
 - ◇復興事前準備の検討 (家屋倒壊等氾濫想定区域)
 - ◆◇流域治水プロジェクトの推進

→ 氾濫警戒情報を踏まえた早期の水平避難が重要



- 土砂**
- ・土砂災害 (特別) 警戒区域内に住宅等が立地
- ↓
- ◇わかりやすい避難情報の提供 (メディア、WEB、SNS等の活用)
 - ◆県と連携した急傾斜・砂防関連施設の整備

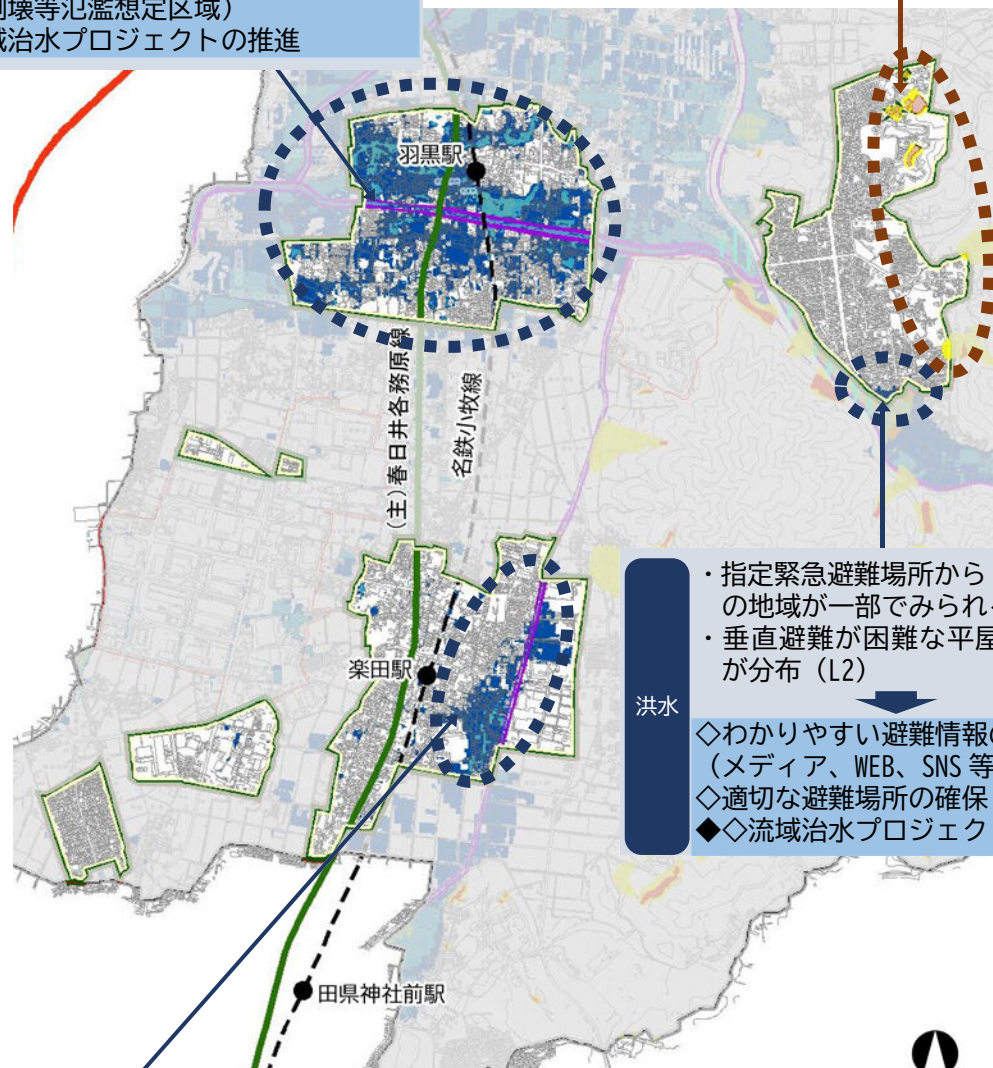
- 洪水**
- ・指定緊急避難場所から500m圏外の地域がある (L2)
- ↓
- ◇わかりやすい避難情報の提供 (メディア、WEB、SNS、防災無線等の活用)
 - ◇適切な避難場所の確保・周知
 - ◆◇流域治水プロジェクトの推進

凡 例			
	居住誘導区域案		行政区域
	急傾斜地崩壊危険区域		市街化区域
	土砂災害特別警戒区域		鉄道
	土砂災害警戒区域		鉄道駅
	洪水L1浸水想定区域 (浸水深0.5m以上)		主要道路
	洪水L2浸水想定区域 (浸水深0.5m以上)		国道
	洪水L2浸水想定区域 (浸水深3.0m以上)		主要地方道
	家屋倒壊等氾濫想定区域 (氾濫流)		
	家屋倒壊等氾濫想定区域 (河岸侵食)		

図 北部地域

- 指定緊急避難場所から 500m圏外の地域が一部でみられる
 - 垂直避難が困難な平屋建て住宅が分布
 - 家屋倒壊等氾濫想定区域に住宅が立地
- ↓
- ◇わかりやすい避難情報の提供 (メディア、WEB、SNS 等の活用)
 - ◇適切な避難場所の確保・周知
 - ◇垂直避難ができる避難場所の指定 (小中学校等の上階利用)
 - ◇復興事前準備の検討 (家屋倒壊等氾濫想定区域)
 - ◆◇流域治水プロジェクトの推進

- ◆=ハード対策 ◇=ソフト対策
- 土砂災害 (特別) 警戒区域内に住宅等が立地
- ↓
- ◇わかりやすい避難情報の提供 (メディア、WEB、SNS 等の活用)
 - ◆県と連携した急傾斜・砂防関連施設の整備



- 指定緊急避難場所から 500m圏外の地域が一部でみられる (L2)
 - 垂直避難が困難な平屋建て住宅が分布 (L2)
- ↓
- ◇わかりやすい避難情報の提供 (メディア、WEB、SNS 等の活用)
 - ◇適切な避難場所の確保・周知
 - ◆◇流域治水プロジェクトの推進

- 指定緊急避難場所から 500m圏外の地域が一部でみられる
 - 垂直避難が困難な平屋建て住宅が分布 (L2)
 - 家屋倒壊等氾濫想定区域に住宅が立地
- ↓
- ◇わかりやすい避難情報の提供 (メディア、WEB、SNS 等の活用)
 - ◇適切な避難場所の確保・周知
 - ◇復興事前準備の検討 (家屋倒壊等氾濫想定区域)
 - ◆◇流域治水プロジェクトの推進



凡例	
	居住誘導区域案
	急傾斜地崩壊危険区域
	土砂災害特別警戒区域
	土砂災害警戒区域
	洪水L1浸水想定区域 (浸水深0.5m以上)
	洪水L2浸水想定区域 (浸水深0.5m以上)
	洪水L2浸水想定区域 (浸水深3.0m以上)
	家屋倒壊等氾濫想定区域 (氾濫流)
	家屋倒壊等氾濫想定区域 (河岸侵食)
	行政区
	市街化区域
	鉄道
	鉄道駅
	主要道路
	国道
	主要地方道

図 南部地域

⑤具体的な取り組みの実施時期（目標）

リスク種別	取組方針	具体的な取り組み	リスク対策	取り組み内容	実施主体	実施時期（目標）		
						短期（5年）	中期（10年）	長期（20年）
共通	想定される災害リスクの周知徹底	災害の種類に応じた適切なハザード情報の周知啓発	低減	各種ハザードマップの作成、更新及び周知	市	継続実施		
	地域の特性を踏まえた市民等との協働による警戒避難体制の整備・強化	地域防災力の向上	低減	自主防災組織への支援（自主防災組織活動支援）	市/民	継続実施		
			低減	事業継続計画（BCP）の策定促進	市/民	継続実施		
		避難場所及び避難経路の確保・誘導	低減	災害リスクに応じたわかりやすい避難情報の提供（メディア、WEB、SNS、防災無線等の活用）	市	継続実施		
			低減	災害リスクに応じた緊急避難場所の指定（広域・一時避難場所・小中学校等の上階利用等）	市			
			低減	狭あい道路の解消	市	継続実施		
			低減	都市計画道路の整備	県/市	継続実施		
			低減	防災標識等の設置（浸水深情報・避難誘導標識等）	市	継続実施		
		人材の育成	低減	防災リーダー等の養成（防災リーダー・ボランティアコーディネーター）	市/民	継続実施		
		効果的な教育・啓発等の推進	低減	防災知識の普及啓発や教育等（出前講座）	市/民	継続実施		
		地区防災計画等の策定促進	低減	地区防災計画、マイタイムラインの策定支援	市/民			
	要配慮者等への支援体制の整備	低減	避難行動要支援者名簿の作成	市/民	継続実施			
	事前復旧・復興体制の整備	低減	復興事前準備の検討	市/民				
洪水・雨水出水	国・県・市の連携、協力によるハード、ソフトを組み合わせた浸水対策の推進	低減	国・県・市等の連携によるハード・ソフトを併せた治水対策・維持管理等（河川改修、樹木伐開等）	国/県/市	継続実施			
		低減			流域治水プロジェクト（木曾川・庄内川流域）の推進（雨水排水網の新設・増強、危機管理型水位計の活用、防災教育等の普及、ため池の機能強化等）	国/県/市	継続実施	
		土地利用と一体となった浸水対策の検討	低減	居住誘導区域の検証・適切な見直し等（居住移転に関する施策を踏まえた検討）			市	
			農地の適切な保全	低減	開発許可等の適切な運用	市	継続実施	
	住宅等における浸水対策の周知啓発や支援制度の検討	低減	住宅設計における浸水対策等の周知	市				
		低減	住宅の浸水対策に対する支援制度の検討	市				
	浸水想定や浸水被害の状況を踏まえた段階的な雨水排水施設の整備や雨水の流出抑制施策の推進	低減	公共下水道事業（雨水）の推進	市	継続実施			
		低減	雨水貯留浸透施設補助制度の活用促進	市	継続実施			

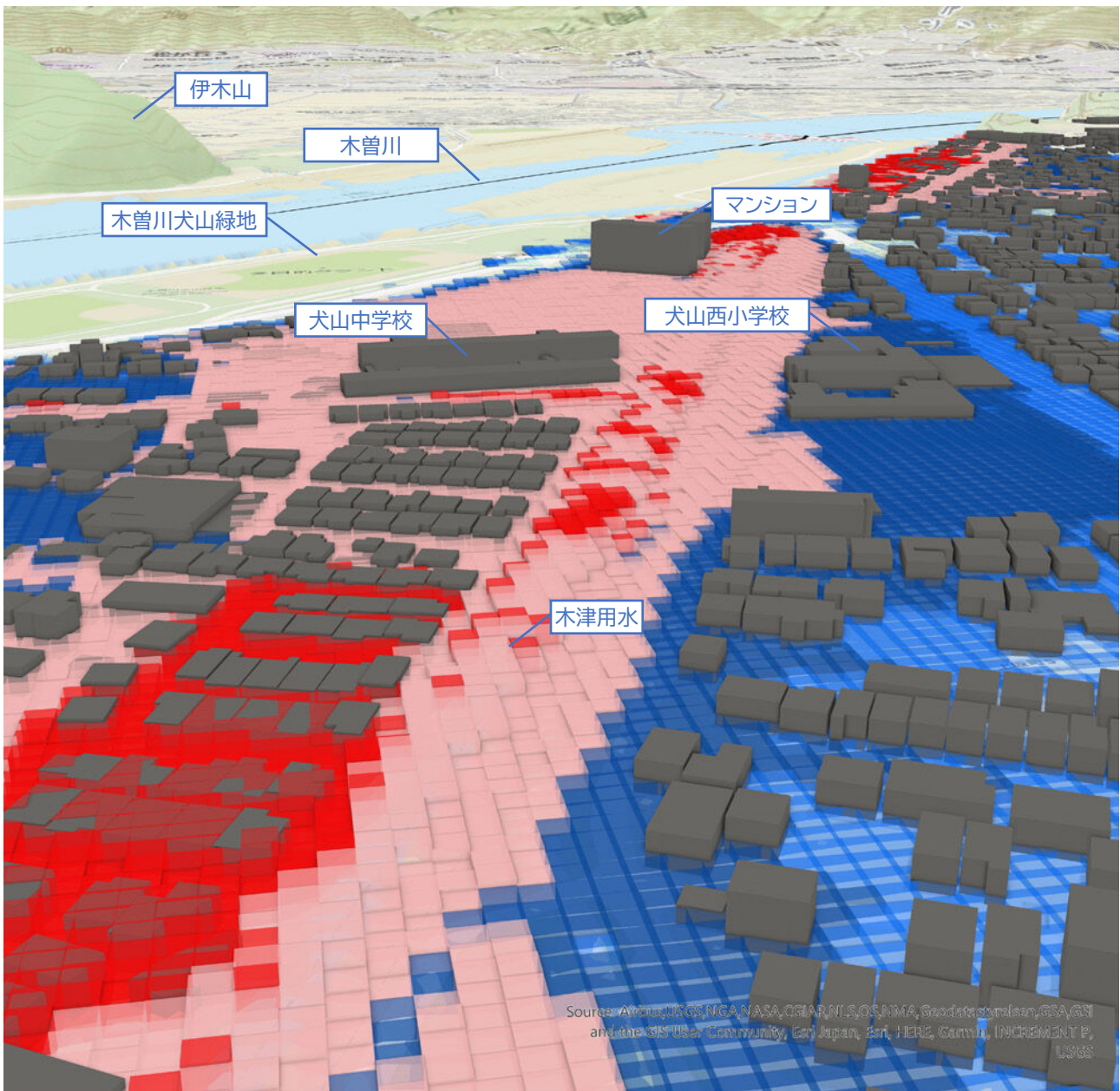
リスク種別	取組方針	具体的な取り組み	リスク対策	取り組み内容	実施主体	実施時期の目標		
						短期(5年)	中期(10年)	長期(20年)
入鹿池	ため池の適正な保全と多面的機能の活用	ため池の適正な保全・活用	低減	県と連携した老朽化対策等の実施（堤体の健全化維持）と雨水調整機能の強化	県/市	継続実施		
土砂災害	土砂災害リスクが高い区域における安全（回避）対策の促進	土砂災害に対応した住まい方の促進	低減	災害ハザードエリアにおける開発許可の厳格化	市	継続実施		
		土砂災害を未然に防止・軽減する対策の促進	低減	県と連携した急傾斜・砂防関連施設の整備	県/市	継続実施		
地震	建物・インフラ等の耐震化の促進	住宅・建築物等の耐震化の促進	低減	耐震化に向けた各種取組（建築物の耐震化、ブロック塀の耐震化、道路・橋梁、上下水道・交通施設等の耐震化等）	県/市	継続実施		
	低減	消防水利の適切な配置と耐震性防火水槽の整備	市	継続実施				
	家具等の転倒防止対策の促進	低減	家具等転倒防止対策の周知・啓発	市	継続実施			

※リスク対策：低減＝ハード対策 低減＝ソフト対策

※実施時期（目標）：継続実施＝既に取り組んでおり、今後も継続的に適宜取り組むこと

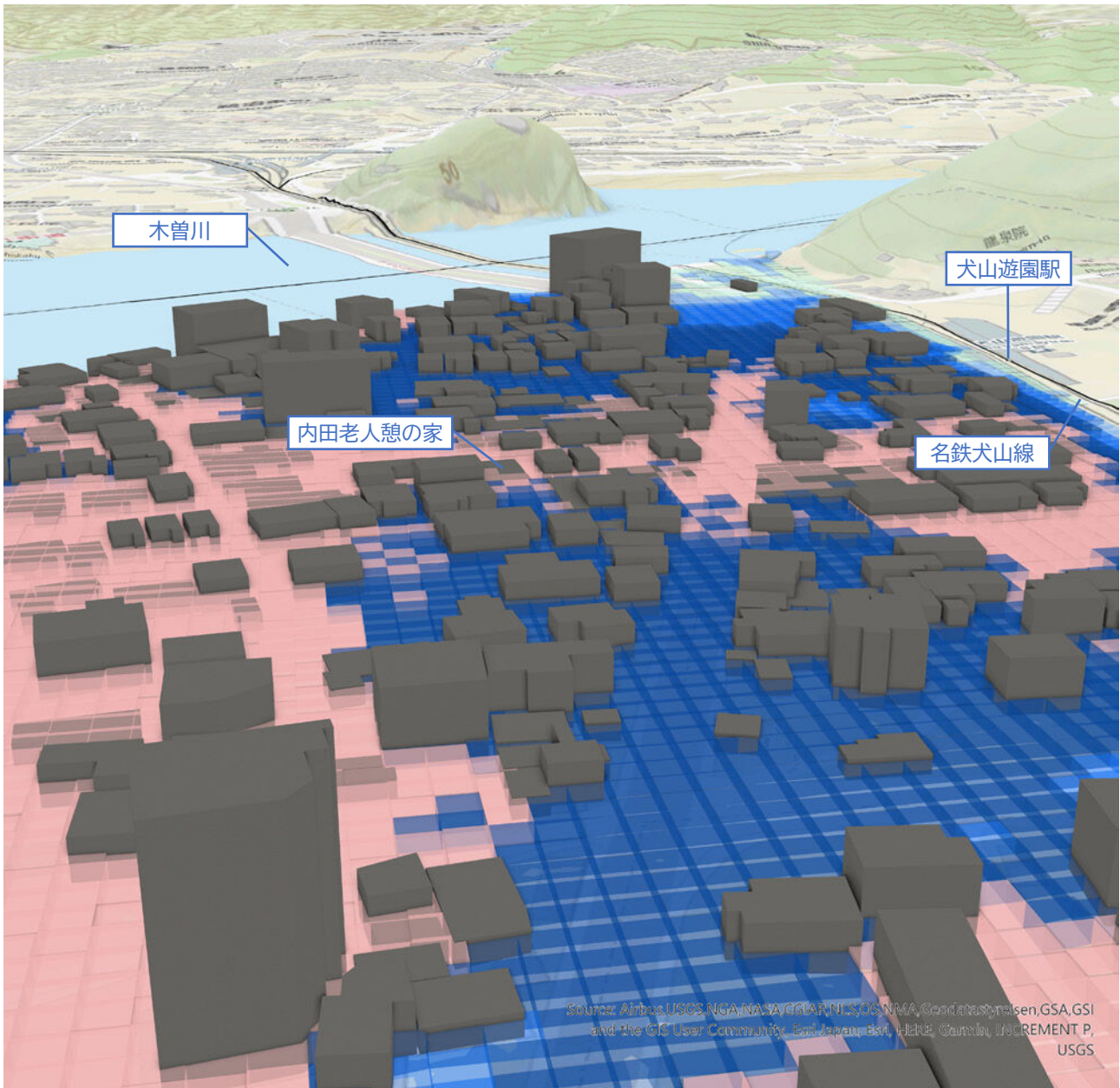
(参考) 都市情報の3D化による見える化の取り組み (建物の高さと浸水深の関係)

【犬山地区A】



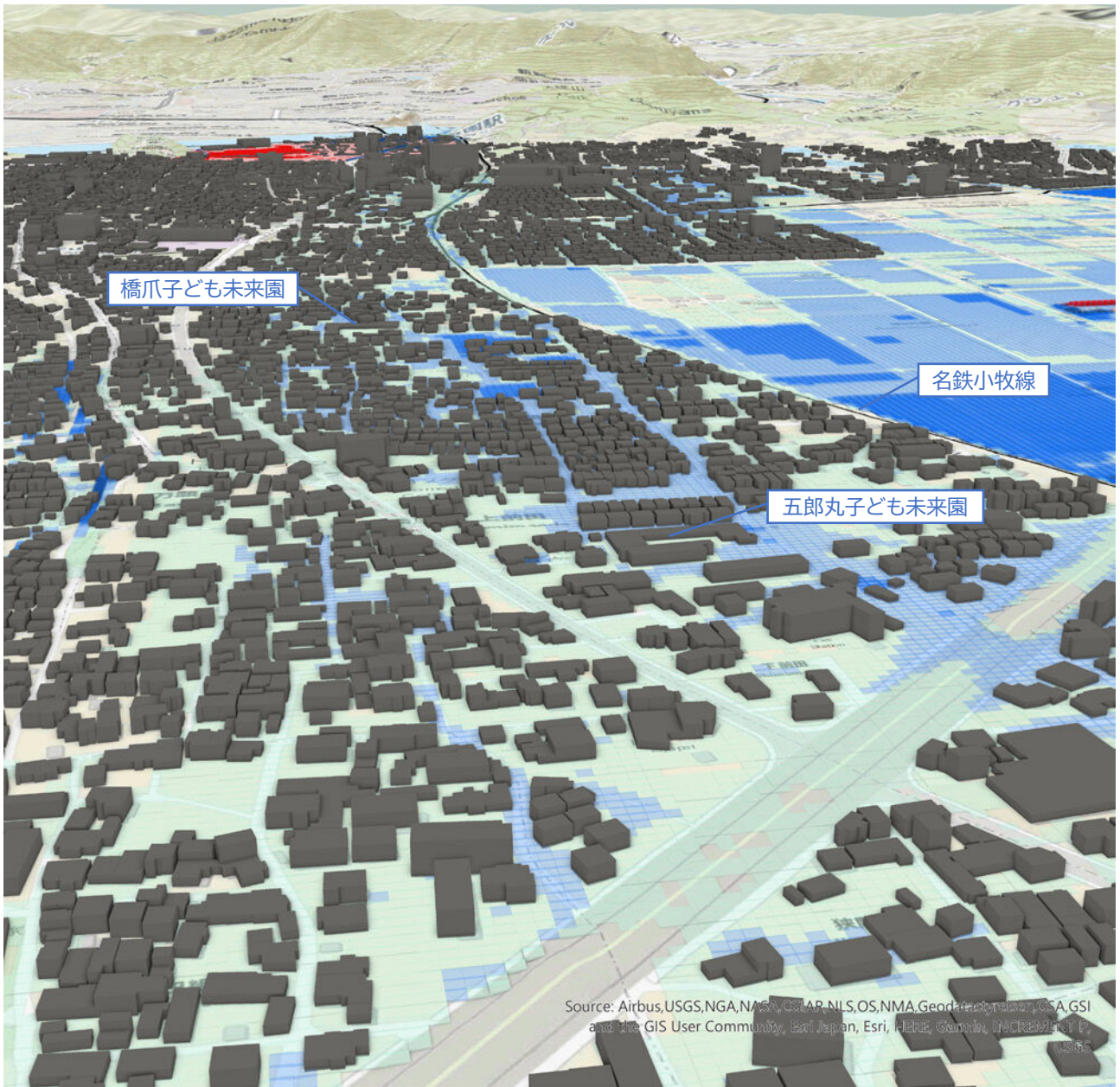
- 建物
- 浸水深
- 5.0m以上
- 3.0~5.0m
- 2.0~3.0m
- 1.0~2.0m
- 0.5~1.0m
- 0.5m未満

【犬山地区B】



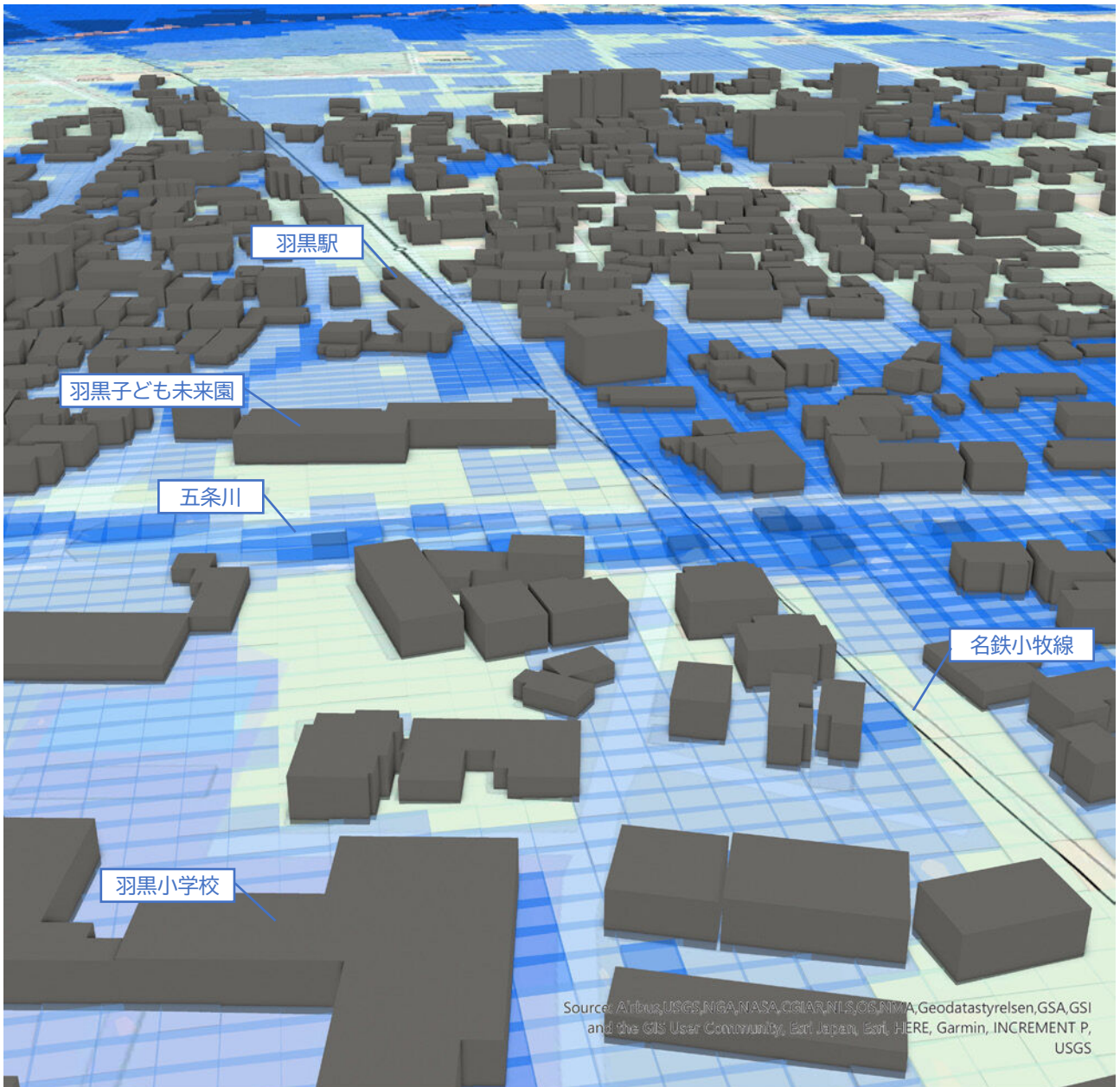
- 建物
- 浸水深
- 5.0m以上
- 3.0~5.0m
- 2.0~3.0m
- 1.0~2.0m
- 0.5~1.0m
- 0.5m未満

【犬山地区C】



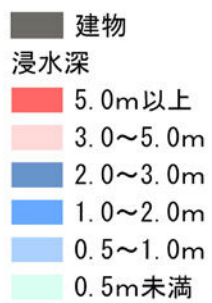
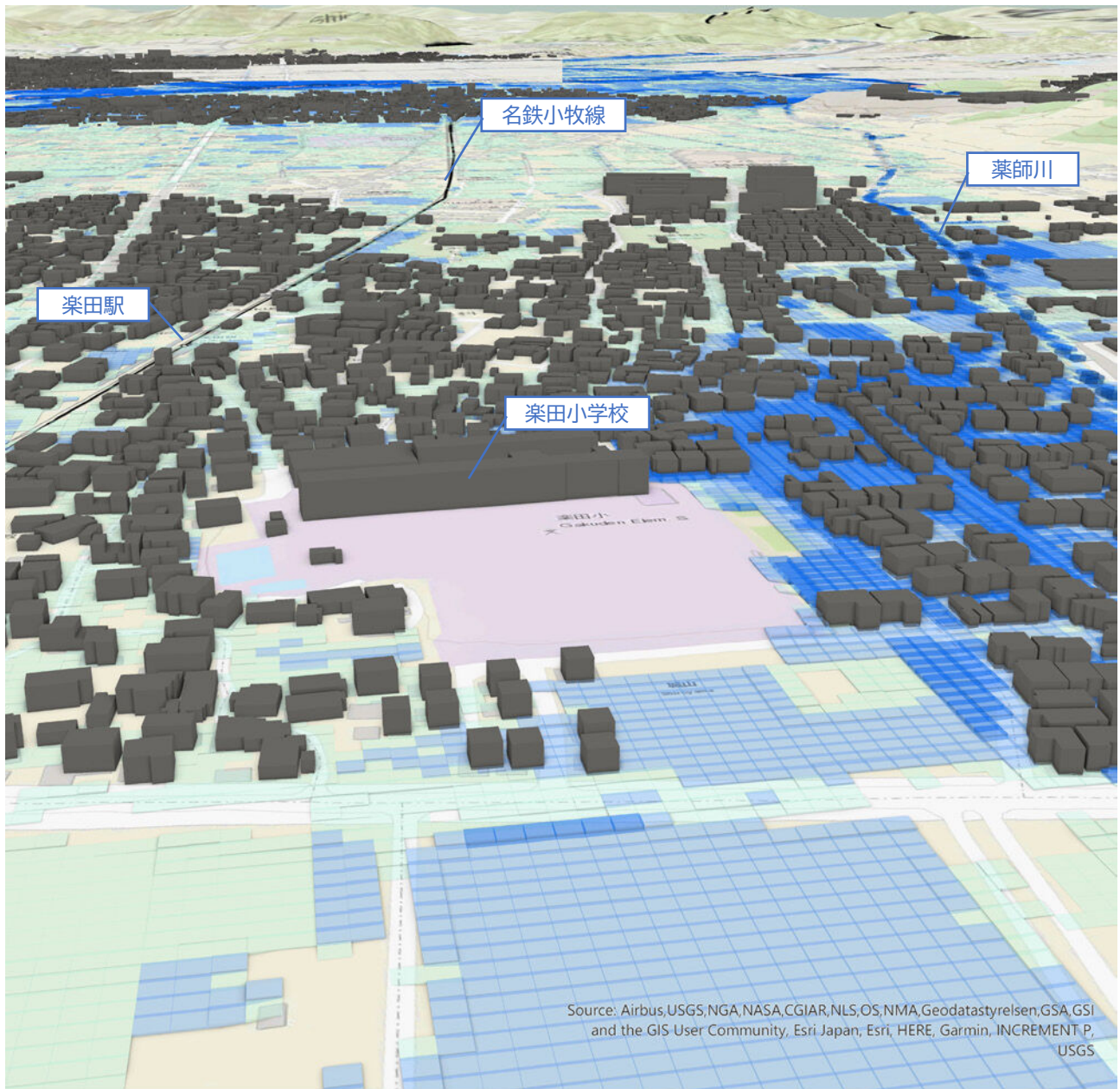
- 建物
- 浸水深
- 5.0m以上
- 3.0~5.0m
- 2.0~3.0m
- 1.0~2.0m
- 0.5~1.0m
- 0.5m未満

【羽黒地区】

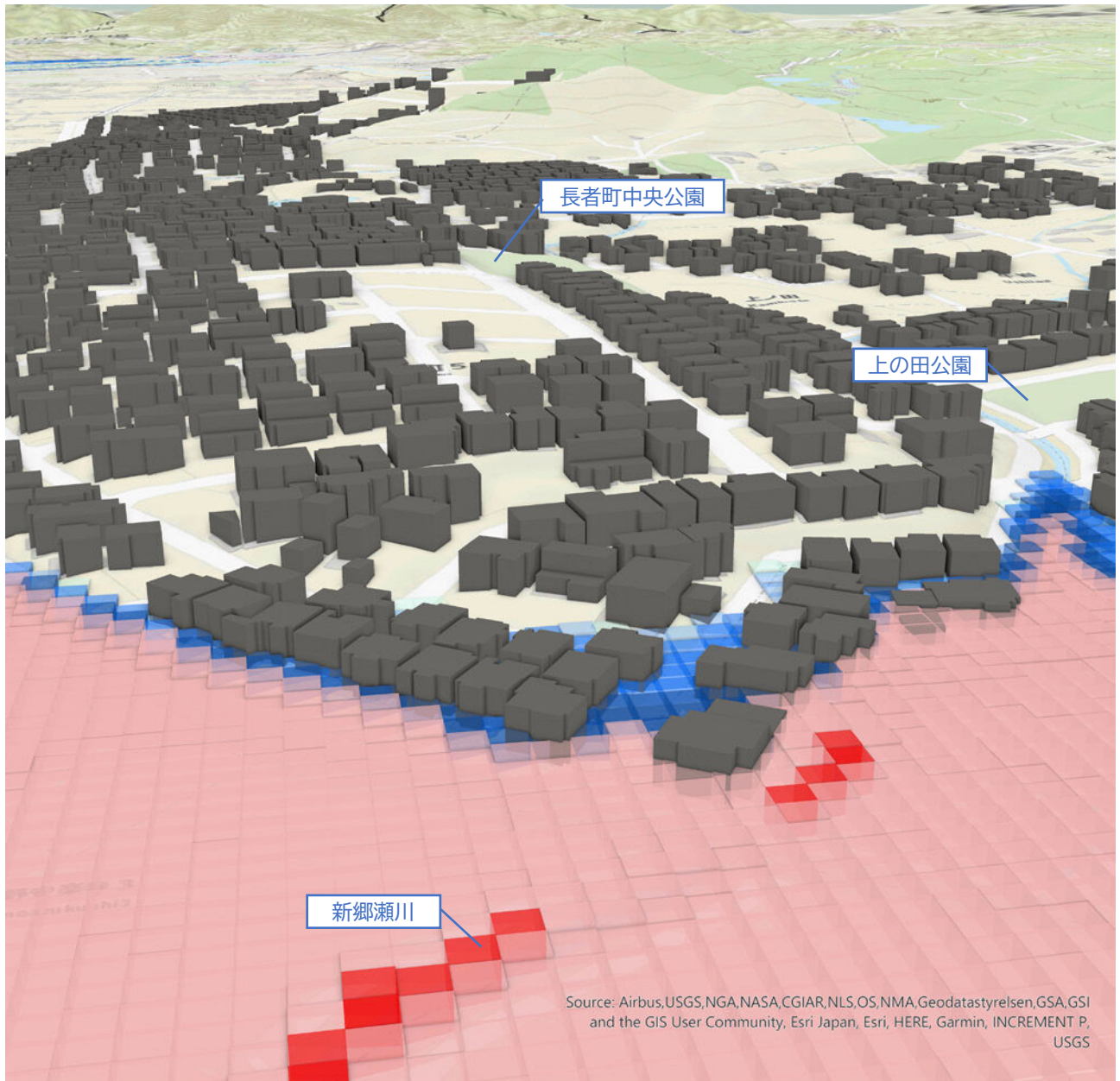


- 建物
- 浸水深
- 5.0m以上
- 3.0~5.0m
- 2.0~3.0m
- 1.0~2.0m
- 0.5~1.0m
- 0.5m未満

【楽田地区】



【長者町・緑ヶ丘地区】



- 建物
- 浸水深
- 5.0m以上
- 3.0~5.0m
- 2.0~3.0m
- 1.0~2.0m
- 0.5~1.0m
- 0.5m未満